

ASPIC

2025 Vol.2

クラウドマガジン

ASPIC25周年記念号



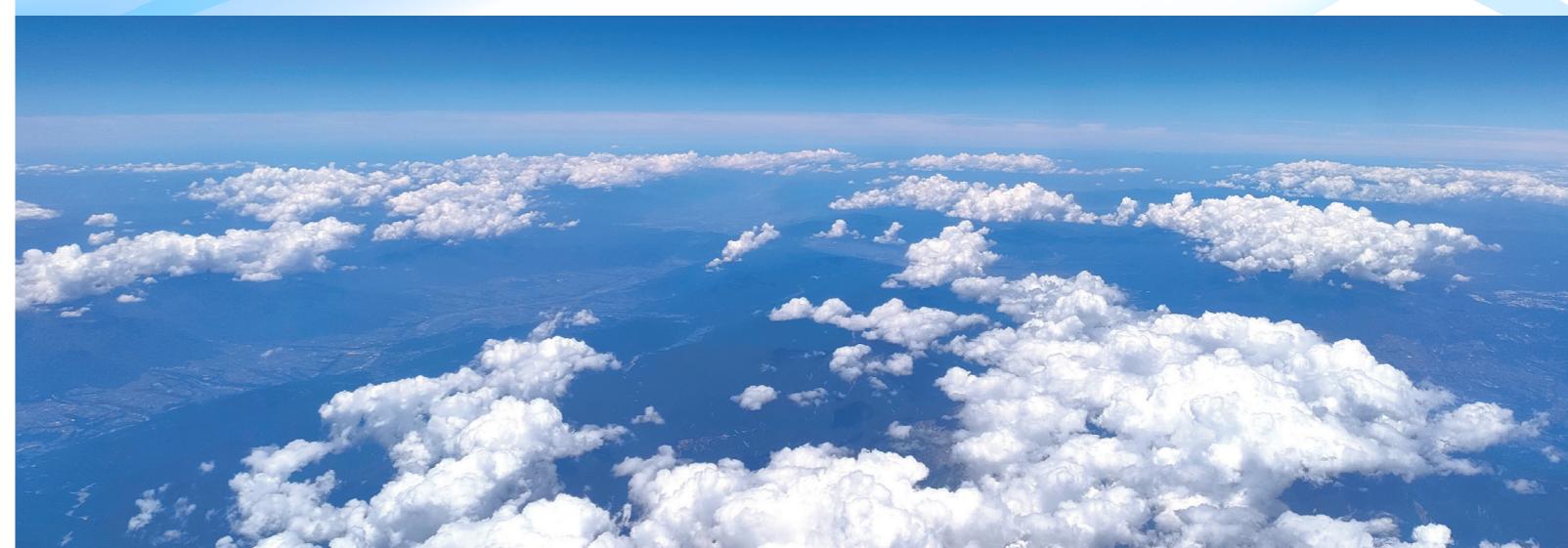
ASPIC活動の6本柱



ASPICの3大支援「支える・引っ張る・押す」



一般社団法人 日本クラウド産業協会 25周年記念号



はじめに

1999年11月——

まだインターネットも目新しかった時代に、任意団体「ASPインダストリ・コンソーシアム・ジャパン」として活動をはじめたASPIC。

この25年間で、ASP、SaaS、クラウド、IoT、生成AI……と、IT業界のトレンドは大きく変化し続けており、ASPICの正式名称も2022年に「一般社団法人 日本クラウド産業協会」へと改称されています。

しかし、創立より一貫して「ASP・SaaS・クラウドの普及・促進」「安心・安全の推進」「組織強化とプレゼンスの向上」という3大目標を掲げ、業界の発展に取り組んできた姿勢は変わることはありません。

クラウドはもはや社会インフラとなり、生成AIなど社会全体を大きく変えうる新技術も続々と登場しています。

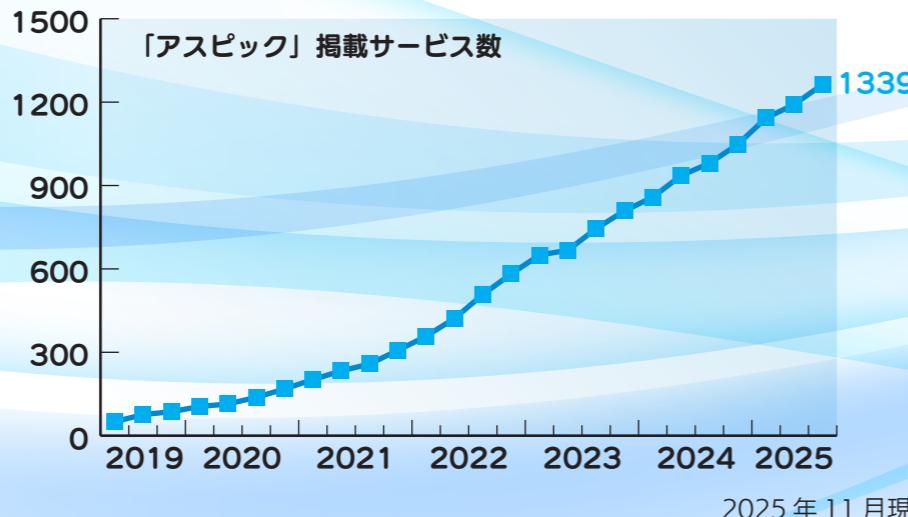
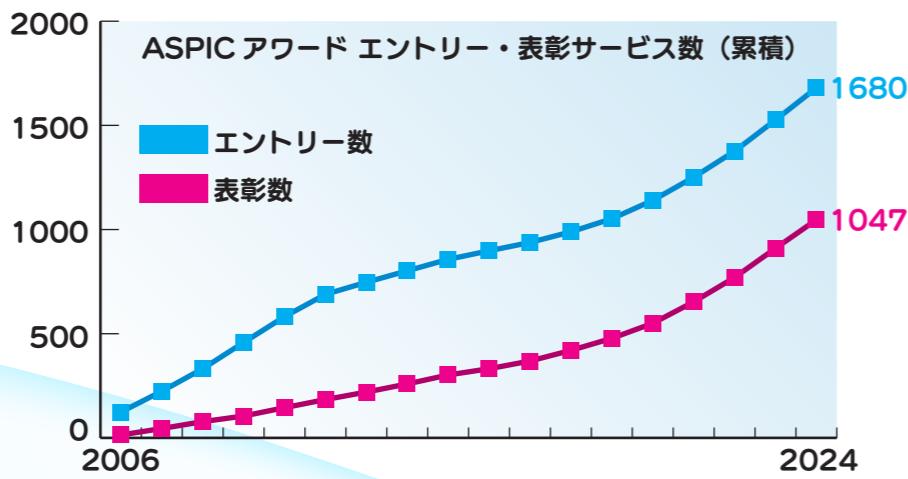
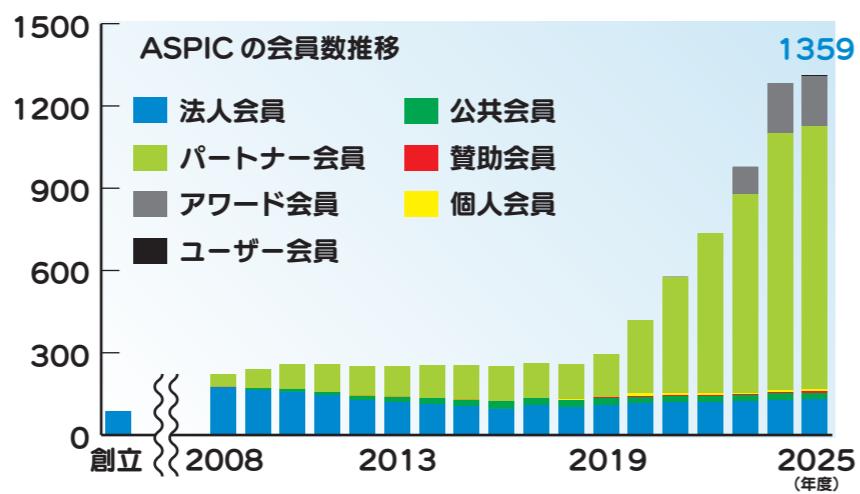
そんな中、日本の国際競争力の向上を目指し、会員ビジネス及びクラウド業界のさらなる繁栄に貢献するため、ASPICの歩みは続いていくのです。



ASPIC25年の成果

1999年創立

1999年11月に任意団体「ASPインダストリ・コンソーシアム・ジャパン」として歩みをはじめたASPIIC。創立からの25年間でIT業界のトレンドは我々の想像を超えるスピードで目まぐるしく変化してきましたが、その様な中でもASPIICは一貫して業界の発展と日本のICT政策推進に貢献し続けてきました。



ガイドラインの作成支援

33

(18年間で)

情報開示認定制度

332

サービス認定

事業規模

5億円 突破



総務大臣表彰 旭日小綬章 受勲





プロフィール●かわい てるよし
日本電信電話公社（現・NTT）に入社。
1988年、NTTデータ通信（現・NTTデータ）発足とともに同社公共システム事業部長。
1991年取締役、1997年 同社代表取締役副社長。2003年TDCソフト 代表取締役社長。2007年より、株式会社ユー・エス・イー取締役会長。
プロジェクトマネジメント学会会長、日本ソフトウェア産業協会（現・東京都情報産業協会）会長なども務める。1999年より、任意団体 ASP インダストリ・コンソーシアム・ジャパン（現・ASPIIC）会長。2012年度「情報通信月間」総務大臣表彰。2023年に「旭日小綬章」を受勲。

はじめに

おかげさまで、弊協会は1999年創立以来、25周年の佳節を迎えることができました。

これもひとえに、理事・役員・会員の皆さま方をはじめ、総務省、関係省庁、大学・学術機関、関係団体等、多くの方々に賜りました、ご指導ならびにご支援のおかげです。ここに謹んで、厚く御礼申し上げます。

ASPIICが誕生した1999年は、インターネットサービスプロバイダ事業者が多数出現した時期に当たります。

そして、次のビジネスモデルとしてASP（アプリケーション・サービス・プロバイダ）が、新たに脚光を浴びるなか、業界唯一の団体「ASPインダストリ・コンソーシアム・ジャパン」として、弊協会は出発しました。

インターネットの登場から十数年で、クラウドサービスは社会のインフラとして定着し、その市場規模は2024年には4.1兆円に達しました。

これからも年率20%を超える成長が予測され、AI時代の中でその重要性は一層高まっています。

弊協会は、創立以来「ASP・SaaS・クラウドの普及促進と市場拡大」と「安心・安全なクラウドサービスの推進」及び「ASPIICの組織強化とプレゼンスの向上」を目標に掲げ、25年にわたり、クラウド業界の発展拡大に多大な貢献をしてまいりました。

その結果、業界において、存在感があり、信頼される団体に成長することができたと自負しております。

ここで、弊協会25年の活動の概要と成果を、振り返させていただきます（よろしければ、P24～27の年表も併せてご確認ください）。

「ASP・SaaS クラウドの普及促進と市場拡大」による成果（1999年～）

① 社会全体に向けたイベントやセミナー等開催による情報発信、クラウド関連の最新の情報提供を行い「クラウドの認知度の向上」「事業者の支援」を実施。

② 「クラウドビジネス研究会」を開催し、情報提供と市場拡大に取り組んできました。

③ 「ASPIICクラウドアワード」で、これまでに1000を超える優れたサービスを表彰し、クラウド事業者の支援

を行いました。2015年からは総務省のご協力により、その年最高のサービスに「総務大臣賞」が贈られています。

④ 掲載件数1300件を超えるクラウドサービス紹介サイト「アスピック」の運営。

—「アスピック」の事業開始は、近年における弊協会の大きなトピックです。本サイトは、会員企業からの要望に応えて誕生し、現在では1300件を超えるサービスを掲載。立ち上げ当初は試行錯誤を重ねましたが、会員企業や運営を委託したブルートーン社の尽力、ASPIICブランドへの信頼向上などにより大きく発展しました。

事業者には顧客紹介の場を、利用者には有益な情報提供を行う双方にメリットのある仕組みとして有効活用されています。

「安心・安全なクラウドサービスの推進」による成果（2007年～）

① 総務省と連携して「ASP・SaaS普及促進協議会」「ASP・SaaSデータセンター促進協議会」を設立。33の検討委員会を設置しました。

—創立以来、思い出深い出来事ばかりでしたが、中でも、総務省と連携して設立した「ASP・SaaS普及促進協議会」（2007年）「ASP・SaaSデータセンター普及促進協議会」（2009年）に係る活動は、われわれの歴史を語るうえで欠かすことができないものです。

② 33のクラウドサービスのセキュリティガイドライン（総務省公表）、ガイドラインを基に作られた情報開示指針等（総務省公表）の作成支援を行いました。

ASPIICが作成を支援した「ASP・SaaS事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理ガイドライン」の制定を受けて発出された厚生労働省の通達で、クラウド事業者による医療情報の保存が正式に認められました。これをきっかけに、医療や介護分野でクラウドサービスの提供が可能となり、市場の拡大に大きく貢献しました。

③ 情報開示指針を基に、「ASP・SaaS」をはじめとする8種のクラウドサービスの情報開示制度を立ち上げ、ASPIICは情報開示認定機関として332サービスを認定。

2008年に作成支援した「ASP・SaaSにおける情報セ

「キュリティガイドライン」「ASP・SaaSの安全・信頼性に係る情報開示指針」が、8種の情報開示認定制度の根幹となっています。

「ASPIICの組織強化と社会的なプレゼンスの向上への取組み」による成果（2017年～）

- ① NPO法人から一般社団法人へと組織を改編し、団体としてのプレゼンスを高めながら、活動のさらなる推進を図りました。
 - ② 会員を事業体別に「法人会員」「パートナー会員」「アワード会員」「ユーザー会員」に分けて参加していくことで、ASPIICを会員数1300社を超える組織体として発展させてきました。
 - ③ 総務省「情報通信審議会」、「クラウドサービス審査委員会（ISMAP）」などの各種検討委員会に参加し、業界団体としての提言などを行い、ASPIICのプレゼンス向上を図りました。
 - ④ 2017年に、クラウドサービス情報開示認定制度の情報開示認定機関となりました（「一般財団法人マルチメディア振興センター」から移管）。これにより、認定機関と認定事務局機能を一体化して、認定制度推進の加速化が可能となりました。
 - ⑤ 会員サービスや調査研究の受託事業、情報開示認定事業、「アスピック」事業などを着実に推進し、事業収入が5億を超えるなど、安定した経営基盤を確立しました。これにより、ASPIICの活動を持続的に展開できる体制を整えることができました。
 - ⑥ この20数年間の活動を評価され、総務省のご推薦により、2008年にASPIICが団体として、2012年には会長の私・河合輝欣が個人として「総務大臣表彰」を受賞いたしました。さらに2023年に、ASPIIC会長として河合輝欣が「旭日小綬章」受勲の栄誉に預かりました。
- この受勲は、総務省をはじめ関連団体、ASP・SaaSクラウド普及促進協議会の委員、情報開示認定制度の審査委員、アワード審査員、会員企業、ASPIIC理事、執行役員の皆さまの、長年にわたる温かいご指導、ご支援の賜物です。重ねてになりますが、心より感謝申し上げます。

今後の新たな事業展開（2023年～）

今後は、これまで培ってきた情報開示認定事業、インターネット方式ケアアセスメント事業、「アスピック」事業などで得たノウハウを生かして、さまざまな新事業に取り組んでまいります。

- ① 今年8月に設立した新会社「日本クラウド産業株式会社」は、一般社団法人と連携しながら新たな事業を開拓してまいります。

② 11月には、総務省の「デジタル人材の育成ガイドブック」に準拠し、クラウドに関する知識を体系的に身につけられる「ASPIICクラウドサービス検定」を開始しました。

③ 来年1月からは、個人情報保護法等の理解と実践を支援することを目的とした「ASPIICプライバシー認証サービス」や、個人情報保護に関する「検定プログラム」などを開始予定です。

その他にも、コンテンツ提供事業、AIサービス関連事業など、さまざまな新たな取り組みを通じて会員企業の事業支援を推進し、爆発的に進展するAI時代の中で、さらに存在感ある協会となるべく「ASPIIC第3の創業」を目指してまいります。

④ 会員の皆さまにご加入のメリットを実感していただくため、「ASPIICサービスバリューチェーン」を開拓しています。これは、「クラウドアワード」「アスピック」「情報開示認定制度」などの各種サービスを、より利用しやすい形でご提供し、会員企業の信頼性向上やビジネス拡大を支援する仕組みです。今後、「ASPIICクラウドサービス検定」や2026年に開始予定の「ASPIICプライバシー認証サービス」なども加え、さらなる発展を目指してまいります。

⑤ 弊協会は、AI分野にもいち早く取り組み、2022年には「AIを用いたクラウドサービスに関するガイドブック」（総務省公表）を作成支援。同年「AIを用いたクラウドサービスの安全・信頼性に係る情報開示指針」に基づく「AIクラウドサービス情報開示認定制度」を制定するなど、先進的な活動を行ってまいりました。特に、AIクラウドサービスの安心・安全に関する制度を設けたのは他に類を見ない挑戦でした。

その後、生成AIの登場により環境は大きな変貌を遂

げましたが、ASPIICには独自の認定制度という強みがあります。これを生かし、「従来のクラウドサービスにAIを融合させる」という視点から、時代に即した取り組みを推進してまいります。

さらに、団体としての幅広いアライアンスを生かし、AI関連の新たな事業を展開することで、会員企業の皆さんに還元していくことを目指してまいります。

創立30年に向け、ASPIICのさらなる飛躍にご期待ください

改めて振り返りますと、ASPIICはこれまでの歩みの中で、常に時代の変化と向き合いながら、新たな挑戦を続けてまいりました。

最初の10年はクラウドの「普及促進・市場拡大」に力を注ぎ、次の10年では「安心・安全」の確立を目指して活動を重ねてきました。そして、5年ほど前から始まった新たな10年では、「組織強化・ブランド力・経営基盤の確立」をはかり、「新事業」への挑戦を柱に、さらなる飛躍を期しています。

一つひとつはまさに「未踏の山」のような挑戦で、前に向かうことが出来たのは、ひとえに皆さまの温かいご支援とご協力の賜物です。「会社（組織）の寿命30年説」が唱えられていますが、私たちはこれを乗り越え、「クラウドサービス先進の未来ステージ」へ、皆さんと共に新たな山に登り続けてまいります。

そして、次の挑戦に向かうにあたり、弊団体はこれまで使用していたロゴを刷新し、新たにロゴマークを制定しました。

この新ロゴは、ASPIICが「第3の創業期」を迎えるにあたっての象徴であり、AI時代においてクラウド産業界でより一層存在感を発揮する団体、また、事業者と利用者が一体となったクラウド団体を目指すという決意を込めたものです。

末筆になりますが、今後とも皆さま方の大所高所からの忌憚のないご意見、ご提言、ご支援を賜りたいと存じます。

一般社団法人 日本クラウド産業協会
会長 河合輝欣
(株式会社ユー・エス・イー取締役会長)



はるか彼方の地平より
屹立する生命の強き上昇性

大いなる周流描く稜線を
一点に集約修練する円心あり
旭日に見た煌めきの高揚
ASPIIC—

高きものへの理想
深きものへの探求
熱きものへの感動
心ふるわせるものへの愛
英知の翼広げて世界へ
価値創造のイノベーション
クラウドサービス先進の
未来ステージ—ASPIIC

ユーザを獲得するなら ASPIC 公式 SaaS 比較・活用サイト「アスピック」



その課題、



で 解決 しよう！

ASPIC公式サービス
アスピック

カテゴリから探す 無料レポート 特集記事 口コミを書く

ITサービスと
新たな一歩を。

日本を代表する
SaaS団体 ASPIC が運営
会員数 1,100 社
一般社団法人
日本クラウド産業協会

サービス名やカテゴリ名で検索



アスピックとは？

「アスピック」は一般社団法人日本クラウド産業協会(ASPIC)が運営する法人向けクラウドサービス紹介・資料請求型の比較サイトです。徹底したサービス理解をもとに様々なコンテンツを配信し、認知拡大・リード獲得のお悩みを解決します。

システム #経費精算システム #Web請求書システム #帳票発行サービス #請求書受領サービス #電子帳簿保存サービス #予算管理システム #会計ソフト #連絡会計



流入（自然検索）

資料ダウンロード



- ▶特集記事
- ▶サービス紹介記事
- ▶無料レポート
- ▶選び方ガイド



見込み顧客

アスピックが選ばれるワケ



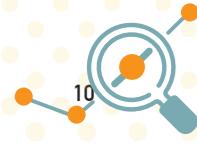
検索エンジンからの自然流入に強い！

「〇〇システム」「〇〇システム比較」などで検索した際の上位表示率は業界トップレベル。具体的な解決策を求めて検索しているユーザに訴求します。



独自の比較記事、サービス紹介記事が魅力！

サービス選定に役立つ内容と信頼性のあるコンテンツを豊富に用意。「アスピック」の特集記事は、観光庁の「宿泊経営ガイドライン」(2023.1.20)でも取り上げられています。



リード獲得や認知拡大への評価による高い継続率

1300社以上が加盟するSaaS団体・ASPICが運営。成果と納得感のあるサービスを提供することによって、9割の掲載企業に1年以上継続的にご利用いただいております。



300
カテゴリー

1339
サービス

以上掲載

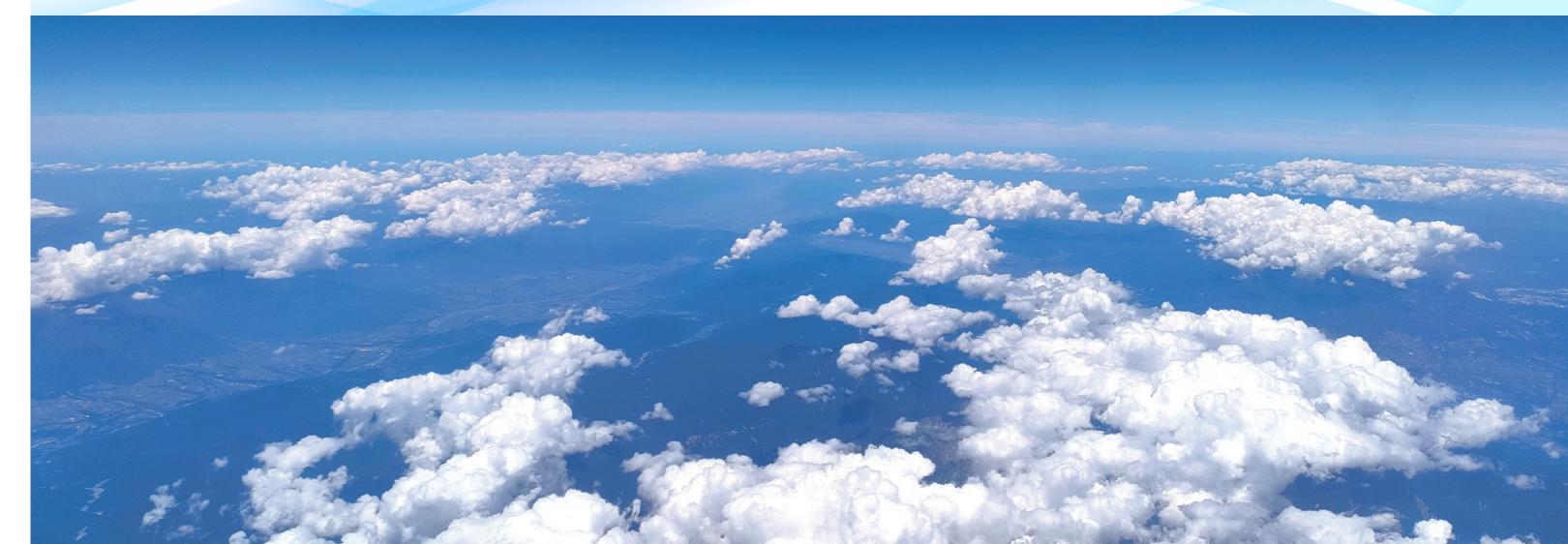
アスピック



お問い合わせ先

一般社団法人 日本クラウド産業協会(ASPIC)
業務委託先 株式会社ブルートーン
e-mail : info@bluetone.co.jp
担当 : 菊地、佐藤

祝辞



今川 拓郎様
高村 信様
阪本 泰男様
後藤 厚宏様
阪田 史郎様

藤田 清太郎様
西潟 暢央様
徳田 英幸様
島田 達巳様
稻田 修一様



一般社団法人 日本クラウド産業協会 創立 25 周年に寄せて

総務省 総務審議官
今川 拓郎 TAKUO IMAGAWA

一般社団法人日本クラウド産業協会の創立 25 周年、誠におめでとうございます。

インターネットの登場から十数年で、クラウドサービスは社会のインフラとして定着し、その市場規模は 2024 年には 4.1 兆円に達しました。今後 5 年も年率平均 16% 超の成長が予測され、AI 時代の中でさらにその重要性は一層高まっています。

このような時代の中で、貴協会は 1999 年創立以来、「ASP・SaaS・クラウドの普及促進と市場拡大」及び「安心・安全なクラウドサービスの推進」を目標に掲げ、25 年に亘り、クラウド業界の発展拡大に多大な貢献を果たしてこられました。

特に、会員を法人、パートナー、アワード会員、ユーザ会員に分け、1,300 社を超える組織体に発展されました。また、クラウドアワードでの表彰により、これまでに 1,000 を超える優れたサービスを後押しされました。さらに、認定機関としてクラウドサービスのセキュリティ等に関する情報開示認定を推進し、これまでに 332 サービスを支援されています。さらに掲載件数 1,300 件を超えるクラウドサービスの紹介サイトを運営され、事業者への顧客情報の提供や利用者への有用なクラウドサービス情報の発信など、安心・安全なクラウド利用環境の整備に尽力されてきました。

総務省においても、2008 年情報通信審議会「ICT による生産性向上戦略」で、ASP・SaaS の徹底活用、認知度の向上、情報開示指針の活用、情報開示認定の円滑な運用、ASP・SaaS 市場の整備などが提言されました。これを受け、ASP・SaaS 普及促進協議会、データセンタ促進協議会の設立、クラウドサービスのセキュリティガイドライン

等の策定、情報開示認定制度の推進等、安心・安全なクラウドサービスの推進を図ってきたところです。

この間、貴協会には長きにわたりご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。この長年の功績が広く認められ、2008 年には貴協会が、また 2012 年には河合会長が、情報通信月間の総務大臣表彰を受けられ、さらに 2023 年には旭日小綬章の栄に浴されました。

私が課長を務めていた当時には、貴協会の事業活動に対して、持続的な展開を可能とする安定した経営基盤の確立や、情報開示認定機関としての継続的な制度運営などを提案いたしました。これらが現在、着実に実施されていることに対し、深い敬意を表します。

現在、政府の「デジタル社会推進会議」において、「デジタル社会の実現に向けた重点計画」が推進されていますが、急速な技術革新の中で、各府省や産学官民が緊密に連携して、社会の変革やグローバル競争などに迅速に対応していくことが求められています。

今後、爆発的な発展を遂げる AI 時代の到来により、クラウド業界も大きな転換期を迎えることが予想されます。この様な環境変化の中、貴協会が 25 年の事業活動の実績と安定した経営基盤を基に日本のクラウド産業を索引するとともに、クラウド業界が社会インフラとしてさらに成長し、社会課題の解決や国際競争力のある事業者の創出にも大きく寄与されることを祈念しております。

プロフィール●いまがわ たくお

1990 年 郵政省（現・総務省）入省。

総務省情報流通行政局情報流通振興課長、同 情報通信政策課長、総合通信基盤局総務課長、同 電気通信事業部長、情報流通行政局郵政行政部長、大臣官房長、総合通信基盤局長などを経て、2024 年 7 月より総務審議官（国際担当）。



ASPIC 25 周年に寄せて

総務省 大臣官房総括審議官（情報通信担当）
藤田 清太郎 SEITARO FUJITA

一般社団法人日本クラウド産業協会が設立 25 周年という大きな節目を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。

1999 年の貴協会の設立以来、この 25 年間におけるクラウドサービスの普及・進展は、業務効率の向上やコスト削減をもたらし、多くの企業がビジネスモデルを刷新するきっかけとなりました。さらに、企業だけではなく行政においても、多岐にわたる分野でクラウドサービスの活用が進み、社会全体のデジタル化を推進する原動力となっています。

このようなクラウドサービス産業をめぐる大きな変革の中で、貴協会は、ASPIIC クラウドアワードの開催によりクラウド業界全体を盛り上げてこられたほか、「クラウドサービスの安全・信頼性に係る情報開示認定制度」の推進に取り組まれるなどクラウドサービスの安心・安全な市場の確立・拡大を図り、クラウド業界を牽引してこられました。河合会長をはじめ、御関係の皆様の御尽力に深く敬意を表します。

様々な情報・コンテンツが流通するデジタル空間については、昨今ではフェイクニュースや偽・誤情報等が社会的な問題となり、本来多くの情報と多様な機会を提供できる場であるインターネットに大きな影を落とすなど、大きく変容してきています。

総務省においては、クラウドサービスの安全・信頼性を向上させるため、利用者によるクラウドサービスの比較・評価・選択等に資する情報の開示項目を示した「ASP・SaaS の安全・信頼性に係る情報開示指針（ASP・

プロフィール●ふじた せいたろう

平成 3 年 4 月郵政省（現・総務省）入省。総務省情報流通行政局地上放送課長、郵政行政部企画課長、デジタル庁統括官付審議官・省庁業務サービスグループ次長、総務省近畿総合通信局長などを経て、令和 7 年 7 月より総務省大臣官房総括審議官（情報通信担当）。



ASPIC 25周年に寄せて

内閣官房サイバー通信情報監理委員会設置準備室
内閣参事官

高村 信 SHIN TAKAMURA

ASPIC 関係者の皆様の、創立 25 周年という長きに渡る活発な活動に心より敬意を表するとともに、この記念すべき時を共に喜ばせて頂けることに心より感謝申し上げます。

私が ASPIC と初めて関わったのは、2008 年頃、総務省総合通信基盤局事業政策課の課長補佐を務めていた頃と記憶しています。当時、「ネットワーク中立性」という概念が話題になり、「ネットワークはあらゆるトラヒックを平等に取り扱うべきだ」という理想と、「海外発のトラヒックは、日本の通信事業者にとってコストにならぬ収益につながらないので制限をしたい」という現実との狭間で解を見つけることを求められ、「海外発のトラヒックが、国内発になれば良い」、即ち「国内のデータセンターを発展させ、コンテンツの送信元として日本を選んでもらえるようにすれば良い」という政策を模索することとなりました。規制緩和要望などを活用し、当時米国で流行り始めていたコンテナデータセンターの建築確認を不要とするなどの政策も打ちましたが、新規事業者を誘引する方策は思いついても、既に設備を打っている既存事業者の活性化にも繋がる政策を総務省単独で産み出すことができませんでした。その時に河合会長を中心に ASPIC がご支援下さり、「ASP・SaaS データセンター促進協議会」を立ち上げるとともに、データセンター安全・信頼性情報開示認定制度の検討を開始いただき、既存事業者によるものを含めて、データセンター事業の活性化に直接貢献頂いたことは感謝に堪えません。

その後、私は暫くの間、研究開発政策の担当を続けて

おりましたが、2022 年に、本当に久方ぶりに情報通信産業の振興を担当することとなり、総務省の参事官として改めて ASPIC との直接のお付き合いをさせて頂き、アワード表彰式へのご協力などをさせて頂くこととなりましたが、その時に感じた違和感が「総務省がこれだけ長年お世話になっているのに、お礼は総務大臣表彰しかしていない」ということでした。この違和感を解決するため、「クラウドサービスは、我が国の社会経済活動を支える重要なサービスであること」、「我が国のクラウドサービスの業界団体は ASPIC であること」、「ASPIC の活動を長年支えた方は顕彰すべきであること」を政府全体として認定すべく調整を進め、無事、河合会長の旭日小綬章受章へと繋げることができ、ようやく恩返しをさせていただけたと安堵した次第です。

叙勲というと、受章者個人の功績と受け取られがちですが、政府としては「ASPIC が重要な組織であるから、長年支えられた方へ授章した」ということです。会員の皆様方にその思いを共有いただき、次の 25 年に向けた活動を継続いただけることを祈念するとともに、引き続き情報通信産業の発展に向けご協力賜れるよう、心よりお願い申し上げます。

プロフィール●たかむら しん

内閣官房にてサイバー通信情報監理委員会の設置準備を担当。
総務省 総合通信基盤局データ通信課 国際戦略企画官、同 国際戦略局技術政策課 研究推進室長、サイバーセキュリティ政策統括官付参事官、情報流行政局 参事官を経て、2023 年 7 月から内閣官房サイバー安全保障体制整備室内閣参事官として、サイバー対処能力強化法の成立や国家サイバー統括室の設置を担当。2025 年 7 月より現職。



ASPIC 25周年に寄せて

内閣官房副長官補付（経協インフラ担当）
内閣参事官

西潟 暢央 NOBUHISA NISHIGATA

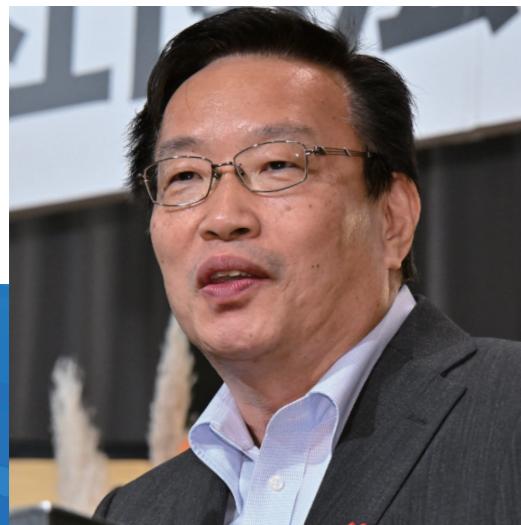
ASPIC 設立 25 周年おめでとうございます。心からお慶び申し上げますとともに、河合会長をはじめ関係者の皆様のこれまでのご尽力に感謝申し上げます。ASPIC との関わりは、2009 年、私が総務省で電子自治体の推進を担当していた時に遡ります。当時は「地方公共団体における ASP・SaaS 導入活用ガイドライン」(2010 年 4 月公表) の策定に向けて ASPIC や学識者、地方公共団体の担当者らと検討を進めておりました。「いつの話なのか」と言われそうですが、オンプレミスからデータセンター、自前からサービスの調達へという流れの中で、私自身多くの学びがありました。ガイドラインの中では、当時はまだ広く一般的には理解されていなかった SLA についても詳述しており、関係者の皆様に何らかの形でお役に立てていればと願うばかりです。

その後のクラウドの普及・伸長はご存知のとおりですが、新型コロナウィルスの流行の際、「新しい日常」の中で Web 会議やテレワークが当たり前になり、それを支えるインフラやサービスが拡大されていく中で、ASPIC の会員数が数年間の間に三倍増と大きく増加していることは注目に値します。この期間がクラウドも ASPIC も大きく成長し、新たなステージに入ったタイミングだと思います。これまでのガイドラインや認定制度、アワードといった ASPIC の活動や成果は非常に意義あるものですが、今後は、これらに加え、ASPIC の会員企業が時に「塊」となって我が国の DX を牽引いただくような「仲間づくり」やプラットフォームとしての取り組みにも期待したいと思います。

ASPIC には総務省の政策形成のプロセスにも参画いただいています。私が情報通信審議会における「2030 年頃を見据えた情報通信政策の在り方」の議論を担当していた時は、総合政策委員会のヒアリングに参加いただくとともに、答申案の作成に向けて会員企業の方から直接お話を伺いする機会を設けていただきました。政策担当者にとってインターネットやクラウドの中で実際に何が起こっているかは見えにくく、こうした意見交換は現場の「リアル」を理解する貴重な機会になりました。これを踏まえてひとつお願いするすれば、公式・非公式を問わず、今後もこのように政策担当者に対して ASPIC の会員企業から直接インプットいただける場の在り方についてもご検討いただければと思っています。

プロフィール●にしがた のぶひさ

1999 年郵政省（現総務省）入省以降、総務省で電気通信や放送分野の行政に従事。2014 年情報流通政策局放送政策課統括補佐、2015 年情報通信国際戦略局（現国際戦略局）統括補佐。2017 年から経済協力開発機構（OECD）に出向、AI（人工知能）分野の政策分析、立案等を担当。2021 年情報流通政策局情報通信政策課企画官。2022 年総合通信基盤局電気通信事業部データ通信課長。2024 年 7 月から現職。インフラシステム海外展開戦略 2030（2024 年 12 月公表）の策定等に従事。



祝 25 周年 —ASPIC の更なる 発展を祈念して—

東洋大学 情報連携学部 教授
元・総務省 総務審議官（国際担当）
阪本 泰男 YASUO SAKAMOTO

ASPIC 創立 25 周年を迎えたこと、心よりお祝い申し上げます。

振り返れば、ASPIC が創立された 1999 年は、我が国の ICT 政策の大転換期でありました。2000 年には IT 基本法が制定され、2001 年には「e-Japan 戦略」がスタートしています。1999 年のインターネット個人利用率はわずか 21.4%（2024 年には 85.6%）にとどまり、ASP を知る人はほぼ皆無であったと言ってもよい時代でした。そのような状況下で、ASP（「クラウド」）の先進性・可能性・発展性にいち早く着目され、黎明期から我が国唯一の団体として、ASP・SaaS・クラウドの普及促進や安心・安全なクラウドサービスの推進などに取り組まれ、大きな成果を挙げてこられました。ASPIC 会員数は創立時の 85 社から 2025 年度には 1313 社へと飛躍的に増加し、2019 年にスタートされたクラウドサービス紹介サイト「アスピック」も、5 年間で 1264 サービスが登録されるにまで拡大していると伺っています。

皆様のご尽力により、企業のクラウドサービス利用率は、2014 年の 38.7% から 2024 年には 80.6% と、この 10 年で倍増し、企業活動に不可欠な存在として浸透しています。

私自身も、ASPIC 創立当初から総務省の担当者として関わらせて頂きました。当時は、ASP の概念すら十分に理解できず、一からお教え頂いたり、クラウド事業者、利用者向けのガイドラインの必要性は認識していたものの、総務省内にはノウハウが乏しく、ご無理をお願いして様々なガイドライン・指針などを作成して頂きました。

した。その後、クラウド情報開示認定制度をスタートして頂くなど色々とご指導頂いたことを昨日のことのように思い出しております。

25 年という長きにわたり積み重ねられた ASPIC 関係者の皆様の不断のご努力に、心より敬意を表します。まさに、「継続は力なり」という言葉を実感いたしております。

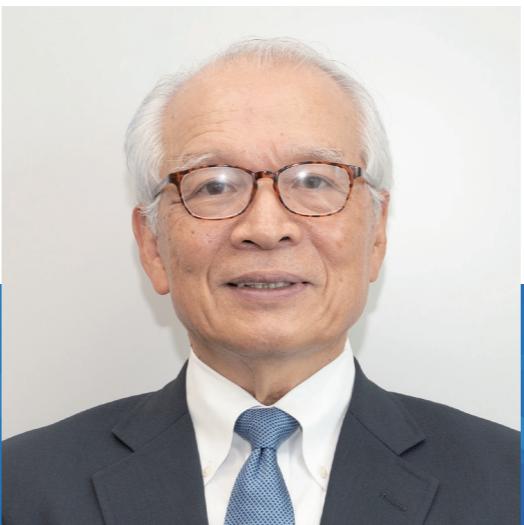
皆様ご案内のように、最近の AI の発達は目覚ましく、AGI や ASI がいつ実現するのか誰も予測できない状況にあります。AI の発達は、インターネット以上に社会にインパクトをもたらします。AI のイノベーション力とリスクのバランスに配慮しながら、既存の社会経済システム・制度を抜本的に見直す必要があると認識しています。また、AI 時代における SaaS のあり方を戦略的に検討することが喫緊の課題であります。

残念ながら、AI 分野において我が国は米国や中国などに劣後している状況にあります。したがって、ASPIC が 25 年間にわたり培ってこられた豊富な知見と実績を活かし、関係企業の皆様と連携を強化して「日本発の AI/SaaS モデル」を確立し、世界に貢献されることを、期待いたしております。

ASPIC の今後益々の発展をご祈念申し上げます。

プロフィール●さかもと やすお

1980 年、郵政省入省。2008 年、総務省 大臣官房 審議官（情報流通行政局担当）。2009 年、内閣官房 情報セキュリティセンター 副センター長。2011 年、総務省 大臣官房 審議官（情報流通行政局担当）。2013 年、総務省 情報通信国際戦略局長。2014 年総務省 総務審議官（国際担当）。2024 年、東洋大学情報連携学部教授。



ASPIC 25 周年に寄せて

国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）理事長
慶應義塾大学名誉教授
徳田 英幸 HIDEYUKI TOKUDA

課題に率先して取り組んでこられたのが日本クラウド産業協会であります。皆様の不断の努力は、日本のクラウド市場の健全な発展を支え、利用者の信頼を築き上げる大きな力となりました。

今、私たちは、生成 AI の普及という新たな時代を迎えています。現在のクラウドは、社会や産業を支える IT 基盤として、膨大なデータを安全に蓄積・処理し、必要な時に必要なリソースを提供する役割を担っています。今後はこの基盤がさらに進化し、AI の学習・推論を大規模かつ持続可能な形で支える AI ファクトリーへと変貌していくと思います。

クラウドは、データと計算資源を結集し、新たな価値やサービスを生み出す中心的な場として、次の 10 年においても社会や産業の核心を牽引する存在であり続けるでしょう。日本クラウド産業協会がこれまで培ってこられた経験と知見を礎に、次世代のクラウド AI サービスのあるべき姿を世界に示していくことを心から期待しております。

結びに、25 周年を迎えた貴協会のさらなるご発展と会員各位のご健勝を祈念申し上げ、祝辞といたします。

プロフィール●とくだ ひでゆき

計算機科学者、工学者、Ph.D. in Computer Science。国立研究開発法人情報通信研究機構理事長。カーネギーメロン大学計算機科学部研究准教授、慶應義塾大学環境情報学部教授、慶應義塾大学常任理事、環境情報学部長、大学院政策・メディア研究科委員長などを経て、慶應義塾大学名誉教授。



ASPIC 25周年に寄せて

情報セキュリティ大学院大学教授（前同学長）
元・NTT情報通信プラットフォーム研究所長
後藤 厚宏 ATSUHIRO GOTOH

ASPIC会長・河合輝欣様ほか、25年にわたってASPICを支えていらっしゃった皆さま、創立25周年、まことにおめでとうございます。

私が最初にASPICの活動を知り、関わらせていただいたのは2012年の正月ころからと記憶しております。実用化が急速に進むクラウドサービスのセキュリティ研究を進めていたことから、ASPIC様主催のセミナーにお誘いいただいたことが始まりでした。

その後は、主に、総務省と連携したASP・SaaSクラウド普及促進協議会の検討委員会のメンバーとして、2013年頃から現在に至るまで、セキュリティガイドラインや情報開示指針の作成に参加させていただきました。これらの活動は、「安心安全なクラウドサービスの推進」というASPICの強い責任感に支えられてきたことによって、数多い成果を生み出させてきました。クラウド、さらには、AIというICT技術革新を、日本の産業界で積極的に活用し、産業競争力を高めるためには、それらの最新技術を、社会にとって「安心安全」に活用するためのガイドライン・ガイドブックが欠かせないためです。

クラウドやIoT、AI活用のガイドライン作りでは、サービスを提供したり、システムを構築している現場の皆さんの声をしっかりと吸い上げ、委員会では多様な専門性を有する技術者がいろいろな角度から検討を深め、その成果を総務省の施策へ反映するという丁寧なプロセスをしっかりと進めてきたことが、ASPICが貢献してきたガイドラインの価値を高める上で貴重だったと思いま

す。

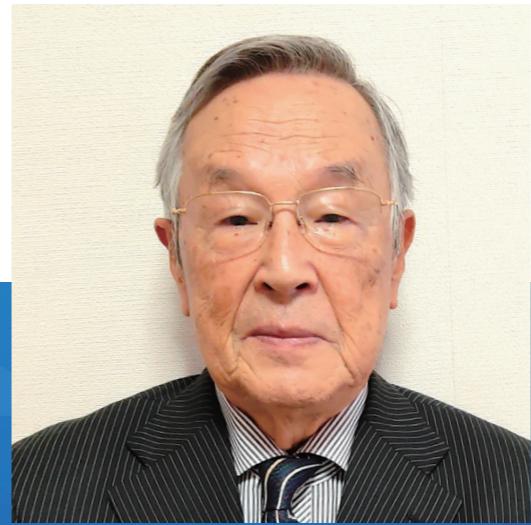
私自身、大学での研究活動としてクラウドセキュリティに取り組んでおりましたが、ASPICでの議論の場では、私からの情報提供よりも、委員会活動を通して得られた現場の課題、課題への取り組みプロセスなど、私が学べたことが多くありました。その意味でも活動に参加なさっていた多くの方に深く御礼申し上げたい気持ちです。

クラウドサービスに関わるICT技術の進展は今後も加速していくと思います。AI技術は人類の「知識」「能力」までもサイバー空間上に作り上げ、日々拡大しています。一方、量子コンピュータの実用化する時期が近づくことにより、「人類にとっての超難問」が解かれることが期待されるとともに、現在普及している暗号技術による「信頼の基盤」が量子コンピュータによって崩されるリスクにも直面します。このような先進ICT技術がもたらす破壊的とも思われる社会変革、産業革新の時代には、技術革新と社会の安心安全の両立」を支えるASPICの取り組みは益々重要になっていきます。これからも活動の幅を広げていただけることを強く祈念いたします。

プロフィール●ごとう あつひろ

1984年日本電信電話公社（NTT）に入社、約27年間情報技術に関する研究開発に従事。情報流通プラットフォーム研究所所長などを歴任。2011年に情報セキュリティ大学院大学教授に転身し、2014年より研究科長、2017年4月から2025年3月まで2期8年 同学学長。

現在、サイバーセキュリティ推進専門家会議議長、総務省サイバーセキュリティスクワース座長、経済安全保障重要技術育成プログラム／先進的サイバー防御機能・分析能力強化プログラムディレクターを併任。



回顧 AI時代の ASPIC に期待する

東京都立科学技術大学（現・都立大学）名誉教授
島田 達巳 TATSUMI SHIMADA

会長の河合輝欣氏と知り合ったのは、氏がNTTデータ公共事業部長の時で、東京都の委員会である。以来、ずいぶん長期にわたりご交説を得て今日に至っている。また、わたしがASPICの事業活動に関わるようになつたのは、NPO法人設立後、数年を経てからで、主として各種委員会活動である。特に記憶に残るのは、『ASP・SaaS白書2009/2010』の編集委員長を勤め編纂に当たったことや、「情報開示認定」審査委員会や「ASP・SaaS・クラウドアワード」の委員や委員長を最近まで勤めたことである。

その間、ASPICは曲折を経ながらも発展し、2020年には、NPO法人から一般社団法人に形態を変え、経営の自由度を増し、発展を続けている。近年では、ASPICの業務も拡大し、経営の安定度も格段に高まっている。その成長の原動力は、創立以来、陣頭指揮を取ってきた河合会長のリーダーシップによるものであることは、衆目の一一致するところである。2024年には、創立25周年を迎えたが、外部から長年にわたり事業活動のお手伝いをしてきた者として、喜ばしい限りである。

今般、原稿の執筆に際し、ASPICの経営を、外部から垣根越しに見てきた者として、SWOT分析を試みることにした。分析は、ASPICの依頼によるものではなく、勝手にやった

もので、財務資料等も見ておらず、あくまでもラフ・スケッチである。

SWOT分析は、組織の内部要因としての強みと弱み、外部要因としての機会と脅威を分析する。それは、企業等で戦略・目標などを作成するときに、強みを活かし弱みを克服し、機会を利用し脅威を取り除くという視点で用いられる。紙面の都合で、内容の説明は省くが、ASPICの今後の持続的な発展のために参考になれば幸いである。

プロフィール●しまだ たつみ

大阪市立大学博士（経営学）。現職・東京都立科学技術大学（現・都立大学）名誉教授、摂南大学名誉教授、歌人（八雁短歌会会員）。主著『アウトソーシング戦略』（編著・日科技連・1995年）、『地方自治体における情報化の研究—情報技術と行政経営』（文眞堂・1999年）、『経営情報システム（改訂3版）』（共著・日科技連・2007年）。

ASPICのSWOT分析

内部要因	強み	弱み
	① 会長の卓識したリーダーシップ ② 持たざる経営（外部資源の活用） ③ 他組織との連携の巧みさ（総務省、NTTグループなど） ④ 事業シナジーの奏功と旺盛な新規事業意欲 ⑤ きめの細かい会員サービス ⑥ デジタル技術の有効活用	① 会長の高齢化 ② 持たざる経営（外部資源への依存） ③ 会員の構成比における小規模企業比の増大化 ④ 一般社団法人としての事業制約 ⑤ 頭が見えない職員
外部要因	機会	脅威
	① 貨上げ、生産性向上、一人当たりGDPアップの必要性の増大 ② 会員の企業価値増大の必要性 ③ 会員の経営能力・デジタル技術の需要の増大化 ④ 生成AIの発展と事業への取込み ⑤ 新規事業機会の増大	① PaaS（Platform as a Service）やIaaS（Infrastructure as a Service）における外資系企業による寡占化 ② 会員企業の協会離れの可能性 ③ 職員の高齢化 ④ 生成AIの進展への対応

（出所）島田達巳 作成



ASPICにおける活動を通した今後のASPICへの期待

千葉大学 名誉教授
元・日本電気 (NEC) 研究所長
坂田 史郎 SHIRO SAKATA

私が ASPIC の活動に参加するようになったのは 2002 年、当時の名称は ASP インダストリ・コンソーシアムでした。当時、ICT ベンダの研究所に勤務し、それまで旧・郵政省電気通信技術審議会（現在の総務省情報通信審議会）の専門委員を務めていたこともあって、技術の視点からコンソーシアムの発展に協力してほしいと声をかけて頂きました。具体的な活動は、ともに 2008 年に開始された情報開示認定サービスの認定審査と、アワード（当時の名称は ASP・SaaS・ICT アウトソーシングアワード）における評価審査です。

情報開示認定サービスの審査においては、認定取得に応募されたサービスが、セキュリティを含めた安全・安心、高い信頼度が得られる適切な情報の開示になっているか？ 今後も持続可能な（サステナブル）なサービスの提供が可能か？ という点を主に技術面から評価し、これまで 200 件以上の審査に携わってきました。認定取得企業から、認知度の向上によって調達や入札参加・受注において競合他社のサービスに対して優位に立て、ビジネス獲得につながったというお礼を頂くこともあります。

アワードの審査については、2008 年の IDC 部門に始まり、2010 年代半ばまでは IaaS・PaaS を含めた広い意味でのデータセンターに関連する部門が中心でした。その後の新技術、ビジネスモデルの登場によって、IoT 部門、AI 部門が加わり、現在は大きくデータセンター、IoT、AI の 3 つの部門の審査委員長を務めています。アワードに対しては、事業開始後の期間が短く導入実績は少ないながらも適用技術やビジネスモデルの革新さが顕著な気鋭のベンチャーから、大企業のように導入実績が豊富で事業全体の安定度が高い企業に至る多岐にわ

たる応募があります。審査に当たっては、進歩の早い ICT 分野の新しい技術を積極的に取り入れたサービスの提案、創出になっているか？ クラウドとして単一に閉じない複数のアプリケーションに対する共通プラットフォームになっているか？ の 2 点に主に留意し、グランプリ、各部門の賞を選定してきました。

IoT と AI は、2010 年代末頃からエッジ AI の名で連携が強くなり、データセンターと AI は、2022 年 11 月の ChatGPT の公開以来、生成 AI を実行させる半導体チップ GPU を通じて急接近しました。GPU クラウドを構成するデータセンターの情報産業における重要性は極めて大きいものとなっています。このように、AI を通じて、IoT、AI、データセンターは急速に密接な関係となり、アワード部門の再編が必要になっています。

AI は、ディープラーニングに端を発し、生成 AI の出現によって、既にあらゆる産業分野に大きなインパクトを与えています。ICT が AI ネイティブへと激変する中で、IoT、AI、データセンターを主要対象としている ASPIC の役割は益々大きくなっています。

これまで、ASPIC の重要な役割は、社会ニーズを掘り起こし、イノベーション創出の先導役を果たすこと、と捉えて活動してきました。今後も、ASPIC の発展を期待しつつ、IoT、AI、データセンターの技術的視点から、微力ながらこの役割を果たせるように少しでも貢献できれば幸いです。

プロフィール●さかた しろう

1974 年日本電気 (NEC) 入社。以来、同社中央研究所において情報通信ネットワークの研究開発に従事。工学博士。1996～2004 年同社研究所所長。2004 年より千葉大学大学院教授。2019 年同大学名誉教授。IEEE Fellow、日本工学会フェロー、電子情報通信学会フェロー、情報処理学会フェロー・名誉会員。



クラウド産業のさらなる発展に向けて

技術経営士 情報未来創研 代表
元・総務省 大臣官房審議官
前・早稲田大学 教授
稲田 修一 SHUICHI INADA

監査を行うことができれば、セキュリティガバナンスの強化にもつながります。ASPIC はクラウドサービス紹介サイト「アスピック」を運営していますが、このサイトはサービス間の連携を促進し、未来のエコシステム構築に貢献する重要な情報基盤だと思います。

もうひとつは、AI エージェントの進化を前提とした設計思想への転換です。これまでのよう人に操作することを前提とするのではなく、AI エージェントが自律的にクラウドサービスを活用する未来を見据えた設計が求められる時代に突入しています。AI エージェントの視点で API やサービス内容を見直していくことが、イノベーションの鍵になりそうです。

時代の変化を的確に捉え、クラウドサービスの普及促進と市場拡大、安心安全なサービス推進に取り組んでこられた ASPIC が、さらに飛躍することを心より期待しております。

プロフィール●いなだ しゅういち

2012 年まで総務省でモバイル、セキュリティ、情報流通などの政策立案や技術開発業務に従事。2012 年から 2017 年、東京大学特任教授として、IoT/データ活用によるビジネス革新や価値創造について研究。2016 年から 2019 年、一般社団法人情報通信技術委員会で、標準化推進業務に従事。2019 年から 2025 年、早稲田大学教授として、研究マネジメント業務に従事。現在は、コンサルティング活動の他、東京観光財団「東京都次世代型 MICE 推進会議」委員、スマート IoT 推進フォーラム「IoT 価値創造推進チーム」リーダー、日本棋院理事などとして活動。

ASPIIC25年のあゆみ

1999年11月	任意団体「ASPインダストリ・コンソーシアム・ジャパン」創立	2015年10月	「ASPIIC15年史」出版
2000年~	各種部会・分科会による調査研究や新規ビジネスの検討	2015年10月	「ASPIICクラウドアワード」に「総務大臣賞」を新設
2001年~	スリーシーンミーティング開催(2001年~2012年)	2015年10月	「ASPIICクラウドアワード」に「運用部門」を新設
2002年~	自治体受託事業多数受託(千葉県、昭島市、多摩地区、宮崎県、延岡市、新潟県、沖縄県、大阪府等)	2016年10月	「ASPIICクラウドアワード」に「IoT部門」を新設
2002年2月	特定非営利活動法人(NPO)の認証取得	2017年3月	「ASP-SaaS(特定個人情報／医療情報)の安全・信頼性に係る情報開示指針」作成支援
2003年~	「ASP白書2003年版」以降「2004」「2005」「2009／2010」出版	2017年7月	総務省「IoTサービス創出支援実証事業(認知症対応型IoTサービス)」の公募で採択
2003年3月	「公共ITアウトソーシングに関するガイドライン」作成支援	2017年10月	「ASPIICクラウドアワード」に「AI部門」を新設
2006年5月	「ASP-IDC活用による電子自治体アウトソーシング実践の手引き」出版	2017年10月	ASPIICが「クラウド情報開示認定制度」の認定機関となる
2007年2月	国内初・第1回「ASP・ITアウトソーシングアワード」開催(後の「ASPIICクラウドアワード」)以降毎年開催	2017年10月	ASP-SaaS医療情報／ASP-SaaS特定個人情報の情報開示認定制度開始
2007年4月	総務省と合同で「ASP・SaaS 普及促進協議会」設立(後の「ASP・SaaS・クラウド普及促進協議会」)	2018年7月	「IoTサービスリスクへの対応方針編」作成支援
2007年11月	「ASP・SaaSの安全・信頼性に係る情報開示指針」作成支援	2018年7月	「クラウド事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理ガイドライン」作成支援
2008年~	クラウドイノベーションシンポジウム(ASIS)開催(2008年~2012年)	2018年7月	「ガイドラインに基づくサービス仕様適合開示書及びサービスレベル合意書(SLA)参考例」作成支援
2008年1月	「ASP・SaaSにおける情報セキュリティガイドライン(第1版)」作成支援	2018年7月	総務省「地域IoTサービス実装事業(認知症対応型IoTサービス)」の公募で採択
2008年4月	ASP・SaaS情報開示認定制度開始(認定機関は「FMMC」、事務局を「ASPIIC」が担当)	2018年8月	政府「クラウドサービスの安全性評価に関する検討会(ISMAP)」委員として河合会長参画
2008年6月	ASPIICが「情報通信月間・総務大臣表彰」を受賞	2018年8月	IPA「クラウドサービス審査委員会(ISMAP)」委員として河合会長参画
2008年6月	総務省情報通信審議会「ICTによる生産性向上に関する検討委員会」委員として河合会長参画	2018年10月	「IoTクラウドサービスの安全・信頼性に係る情報開示指針(ASP・SaaS／IaaS・PaaS)」作成支援
2009年~	「建設・不動産研究会／シンポジウム」開催(2009年~2012年)	2018年12月	IoTクラウドサービス情報開示認定制度開始
2009年2月	総務省と連携し「ASP・SaaSデータセンター促進協議会」設立	2019年4月	クラウドサービス紹介サイト「アスピック」運用開始
2009年2月	「データセンターの安全・信頼性に係る情報開示指針」作成支援	2020年4月	組織を、NPO法人から「一般社団法人ASP-SaaS-AI-IoTクラウド産業協会」に変更
2009年7月	「ASP・SaaS事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドライン」作成支援	2021年~	アスピックレポート情報提供開始
2009年11月	総務省ユビキタス特区事業「長崎県『あじさいネットワーク』」開始	2021年9月	「クラウドサービス提供における情報セキュリティガイドライン(第三版)」作成支援
2010年2月	ASPIIC「活動の5本柱」の制定	2021年9月	「ASP・SaaSの情報セキュリティガイドライン(第3版)」作成支援
2010年4月	「地方公共団体におけるASP・SaaS導入活用ガイドライン」作成支援	2022年1月	総務省情報通信審議会「2030年頃を見据えた情報通信政策の在り方」主査ヒアリングに河合会長対応
2010年10月	「データセンター利用ガイド」ASPIIC公表	2022年2月	「AIを用いたクラウドサービスに関するガイドブック」作成支援
2010年10月	「校務分野におけるASP・SaaS事業者向けガイドライン」作成支援	2022年2月	「AIを用いたクラウドサービスの安全・信頼性に係る情報開示指針」作成支援
2010年12月	「医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドラインに基づくSLA参考例」作成支援	2022年3月	「クラウドサービス利用・提供における適切な設定のためのガイドライン」の作成支援
2011年6月	「ASPIICクラウドアワード」に「データセンター部門」を新設	2022年4月	法人名称を「一般社団法人日本クラウド産業協会」に変更
2011年7月	「クラウドサービス利用者の保護とコンプライアンス確保のためのガイド」ASPIIC公表	2022年4月	AIクラウドサービス情報開示認定制度開始
2011年12月	「クラウドサービスの安全・信頼性に係る情報開示指針」作成支援	2022年7月	クラウドサービス情報開示認定300サービス突破
2011年12月	「IaaS・PaaSの安全・信頼性に係る情報開示指針」作成支援	2022年10月	「ASP・SaaSの安全・信頼性に係る情報開示指針(第3版)」作成支援
2012年2月	「ミッション・ビジョン」の制定	2022年11月	「情報開示認定300サービス突破記念表彰」を開催
2012年4月	国際標準介護アセスメント・インターライ方式クラウドサービス提供開始	2023年5月	河合会長が日本国より「旭日小綬章」を受勲
2012年6月	河合会長が「情報通信月間・総務大臣表彰」を受賞	2023年6月	「パートナー会員」を新設
2012年7月	「社会資本分野におけるデータガバナンスガイド」作成支援	2024年~	AIフロンティア、Security Watch情報提供開始
2012年7月	「ASP・SaaS・クラウドによる米・米加工品トレーサビリティサービス提供の手引き」作成支援	2024年1月	河合会長がNHKのテレビ番組「漫画家イエナガの複雑社会を超定義——『クラウドコンピューティング』」に出演
2012年7月	「地盤情報の公開・二次利用促進のためのガイド」作成支援	2024年1月	「アワード会員」を新設
2012年9月	IaaS・PaaS情報開示認定制度開始	2024年3月	「クラウドの設定ミス対策ガイドブック」作成支援
2012年9月	データセンター情報開示認定制度開始	2024年11月	創立25周年を迎える
2012年11月	「ICT街づくり推進会議 検討部会」委員として河合会長参画	2024年12月	アワード表彰数1000を突破
2012年12月	「データセンター事業者連携ガイド」ASPIIC公表	2024年12月	クラウドサービス紹介サイト「アスピック」登録サービス数1000を突破
2013年~	新春特別講演会・賀詞交歓会開催。以降、毎年開催	2024年12月	ASPIIC会員数1000を突破
2013年6月	「農産物情報の提供・二次利用ガイド」ASPIIC公表	2025年2月	「ASPIICクラウドマガジン」創刊
2013年6月	「水産物情報等の提供・二次利用ガイド」ASPIIC公表	2025年3月	クラウド研究会累計500回開催
2013年6月	「防災・災害情報のオープンデータ化・二次利用促進のためのガイド」作成支援	2025年6月	「法人会員B」「ユーザー会員」を新設
2013年9月	「ASPIICクラウドアワード」に「IaaS・PaaS部門」を新設	2025年6月	「活動の6本柱」に改定(「新規事業」追加)
2014年4月	「クラウドサービス提供における情報セキュリティ対策ガイドライン(第2版)」作成支援	2025年8月	新会社「日本クラウド産業株式会社」設立
2014年10月	利用者ガイド「クラウドのススメ」出版	2025年11月	「ASPIIC創立25周年記念式典並びに御礼・意見交換の会」開催
2014年11月	クラウドトピックス、官庁調達情報提供開始	2025年11月	ASPIIC新ロゴマーク制定
2014年12月	「社会資本情報のオープンデータ化・二次利用促進のためのガイド」ASPIIC公表	2025年11月	「ASPIICクラウドサービス検定」開始
2015年2月	「ASPIIC創立15周年記念式典」を開催	2026年予定	「ASPIICプライバシー認証・研修・検定サービス」事業開始

事業分野別年表

I・ASPSaaSクラウドの普及促進と市場拡大

(1) クラウドアワードによる事業者のビジネス支援	
2007年2月	国内初・第1回「ASP・ITアウトソーシングアワード」開催(後の「ASPIGクラウドアワード」)以降毎年開催
2011年6月	「データセンター部門」を新設
2013年9月	「IaaS・PaaS部門」を新設
2015年10月	「総務大臣賞」を新設
2015年10月	「運用部門」を新設
2016年10月	「IoT部門」を新設
2017年10月	「AI部門」を新設
2024年12月	アワード表彰数1000を突破
(2) クラウドサービス紹介サイト「アスピック」による市場拡大	
2019年4月	クラウドサービス紹介サイト「アスピック」運用開始
2024年12月	「アスピック」登録サービス数1000を突破
(3) クラウドビジネスの研究会による市場拡大	
2000年~	各種部会・分科会による調査研究や新規ビジネスの検討
2009年~	「建設・不動産研究会／シンポジウム」開催(2009年~2012年)
2025年3月	クラウド研究会累計500回開催
(4) 社会全体に向けた情報発信とクラウド事業者の支援	
2001年~	スリーシーズンミーティング開催(2001年~20012年)
2003年~	「ASP白書2003年版」以降「2004」「2005」「2009／2010」出版
2006年5月	「ASP-IDC活用による電子自治体アウトソーシング実践の手引き」出版
2008年~	クラウドイノベーションシンポジウム(ASIS)開催(2008年~2012年)
2013年~	新春特別講演会・賀詞交歓会開催。以降、毎年開催
2014年10月	利用者ガイド「クラウドのススメ」出版
2014年11月	クラウドトピックス、官庁調達情報提供開始
2015年10月	「ASPIG15年史」出版
2021年~	アスピックレポート情報提供開始
2024年~	AIフロンティア、Security Watch情報提供開始
2024年1月	河合会長がNHKのテレビ番組「漫画家イエナガの複雑社会を超定義—「クラウドコンピューティング」」に出演
2025年2月	「ASPIGクラウドマガジン」創刊

II・安心・安全なクラウドサービスの推進

(1) ASP・SaaSクラウド普及促進協議会の推進	
2007年4月	総務省と合同で「ASP・SaaS 普及促進協議会」設立
2009年2月	総務省と連携し「ASP・SaaSデータセンター促進協議会」設立
(2) セキュリティガイドライン・情報開示指針の総務省公表	
【ガイドライン／事業者向け】	
2008年1月	「ASP・SaaSにおける情報セキュリティガイドライン(第1版)」作成支援
2012年12月	「データセンター事業者連携ガイド」ASPIG公表
2014年4月	「クラウドサービス提供における情報セキュリティ対策ガイドライン(第2版)」作成支援

2018年7月	「IoTサービスリスクへの対応方針編」作成支援
2021年9月	「クラウドサービス提供における情報セキュリティガイドライン(第3版)」作成支援
2022年2月	「AIを用いたクラウドサービスに関するガイドブック」作成支援
2022年3月	「クラウドサービス利用・提供における適切な設定のためのガイドライン」の作成支援 【ガイドライン／利用者向け】
2003年3月	「公共ITアウトソーシングに関するガイドライン」作成支援
2010年4月	「地方公共団体におけるASP・SaaS導入活用ガイドライン」作成支援
2010年10月	「データセンター利用ガイド」ASPIG公表
2011年7月	「クラウドサービス利用者の保護とコンプライアンス確保のためのガイド」ASPIG公表
2024年3月	「クラウドの設定ミス対策ガイドブック」作成支援 【分野毎(事業者向け)】
2009年7月	「ASP・SaaS事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドライン」作成支援
2010年10月	「校務分野におけるASP・SaaS事業者向けガイドライン」作成支援
2010年12月	「医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドラインに基づくSLA参考例」作成支援
2012年7月	「社会資本分野におけるデータガバナンスガイド」作成支援
2012年7月	「ASP・SaaS・クラウドによる米・米加工品トレーサビリティサービス提供の手引き」作成支援
2018年7月	「クラウド事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理ガイドライン」作成支援
2018年7月	「ガイドラインに基づくサービス仕様適合開示書及びサービスレベル合意書(SLA)参考例」作成支援 【情報開示指針】
2007年11月	「ASP・SaaSの安全・信頼性に係る情報開示指針」作成支援
2009年2月	「データセンターの安全・信頼性に係る情報開示指針」作成支援
2011年12月	「クラウドサービスの安全・信頼性に係る情報開示指針」作成支援
2011年12月	「IaaS・PaaSの安全・信頼性に係る情報開示指針」作成支援
2017年3月	「ASP・SaaS(特定個人情報／医療情報)の安全・信頼性に係る情報開示指針」作成支援
2018年10月	「IoTクラウドサービスの安全・信頼性に係る情報開示指針(ASP・SaaS／IaaS・PaaS)」作成支援
2022年2月	「AIを用いたクラウドサービスの安全・信頼性に係る情報開示指針」作成支援 【情報の公開・二次利用の関連】
2012年7月	「地盤情報の公開・二次利用促進のためのガイド」作成支援
2013年6月	「農産物情報の提供・二次利用ガイド」ASPIG公表
2013年6月	「水産物情報等の提供・二次利用ガイド」ASPIG公表
2013年6月	「防災・災害情報のオープンデータ化・二次利用促進のためのガイド」作成支援
2014年12月	「社会資本情報のオープンデータ化・二次利用促進のためのガイド」ASPIG公表

(3) 情報開示指針を基に情報開示認定制度の立上げ	
2008年4月	ASP・SaaS情報開示認定制度開始(認定機関は「FMMC」、事務局を「ASPIG」が担当)
2012年9月	IaaS・PaaS情報開示認定制度開始
2012年9月	データセンター情報開示認定制度開始
2017年10月	ASPIGが「クラウド情報開示認定制度」の認定機関となる
2017年10月	ASP・SaaS医療情報／ASP・SaaS特定個人情報の情報開示認定制度開始
2018年12月	IoTクラウドサービス情報開示認定制度開始
2022年4月	AIクラウドサービス情報開示認定制度開始
2022年7月	クラウドサービス情報開示認定300サービス突破
2022年11月	「情報開示認定300サービス突破記念表彰」を開催

III・ASPIGの組織強化と社会的なプレゼンスの向上への取組み

(1) 社団法人化と名称変更(一般社団法人日本クラウド産業協会)	
1999年11月	任意団体「ASPインダストリ・コンソーシアム・ジャパン」創立
2002年2月	特定非営利活動法人(NPO)の認証取得
2015年2月	「ASPIG創立15周年記念式典」を開催
2020年4月	組織を、NPO法人から「一般社団法人ASP・SaaS・AI・IoTクラウド産業協会」に変更
2022年4月	法人名称を「一般社団法人日本クラウド産業協会」に変更
2024年11月	創立25周年を迎える
2025年11月	「ASPIG創立25周年記念式典並びに御礼・意見交換の会」開催
2025年11月	ASPIG新ロゴマーク制定

(2) 会員の組織強化、事業基盤の強化

2010年2月	ASPIG「活動の5本柱」の制定
2012年2月	「ミッション・ビジョン」の制定
2023年6月	「パートナー会員」を新設
2024年1月	「アワード会員」を新設
2024年12月	ASPIG会員数1000を突破
2025年6月	「法人会員B」「ユーザー会員」を新設
2025年6月	「活動の6本柱」に改定(「新規事業」追加)

(3) 政府等への提言

2008年6月	総務省情報通信審議会「ICTによる生産性向上に関する検討委員会」委員として河合会長参画
2012年11月	「ICT街づくり推進会議 検討部会」委員として河合会長参画
2018年8月	政府「クラウドサービスの安全性評価に関する検討会(ISMAP)」委員として河合会長参画
2018年8月	IPA「クラウドサービス審査委員会(ISMAP)」委員として河合会長参画
2022年1月	総務省情報通信審議会「2030年頃を見据えた情報通信政策の在り方」総合政策委員会 主査ヒアリングに河合会長対応

(4) 総務大臣表彰、旭日小綬章受勲

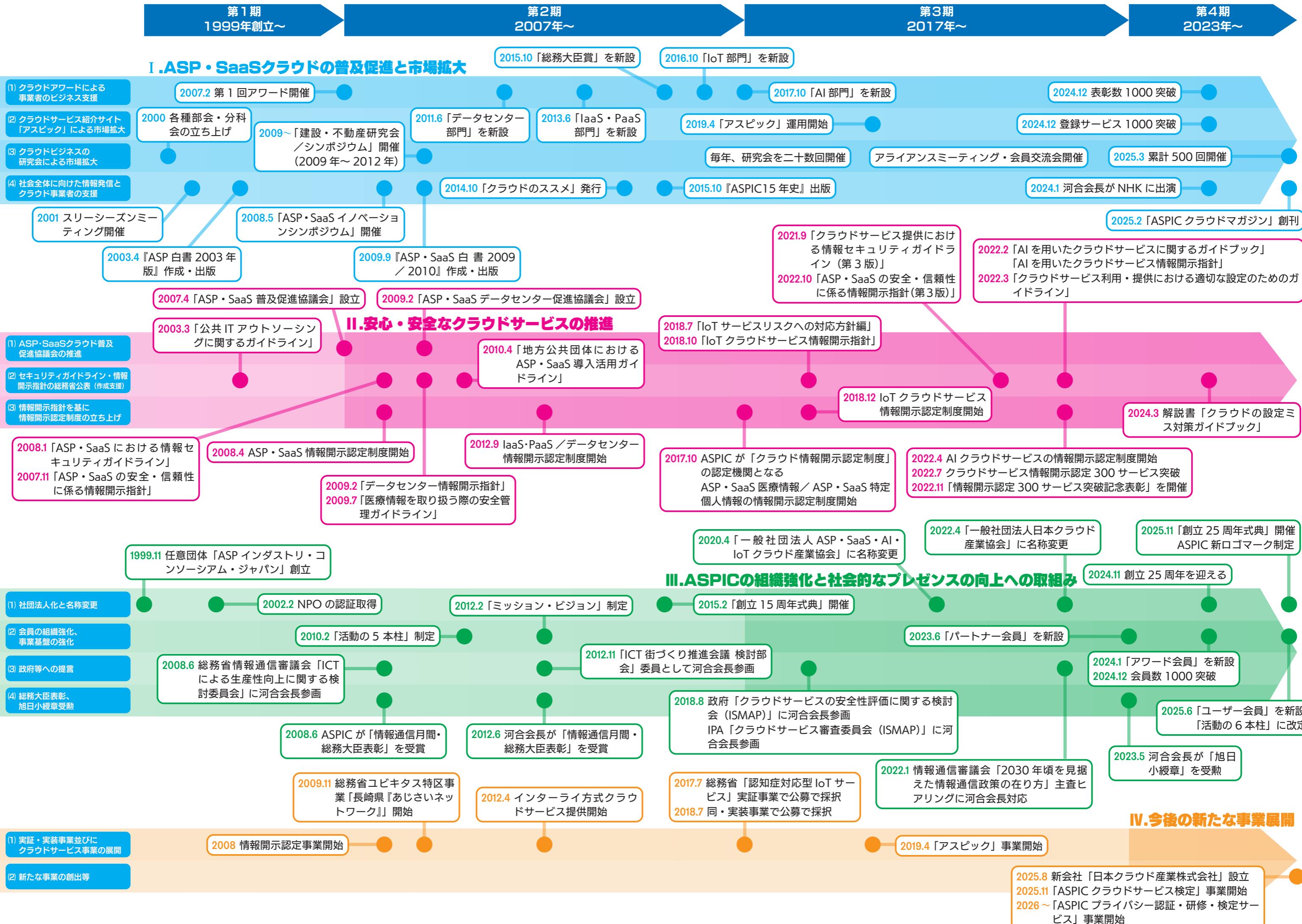
2008年6月	ASPIGが「情報通信月間・総務大臣表彰」を受賞
2012年6月	河合会長が「情報通信月間・総務大臣表彰」を受賞
2023年5月	河合会長が日本国より「旭日小綬章」を受勲

IV・今後の新たな事業展開

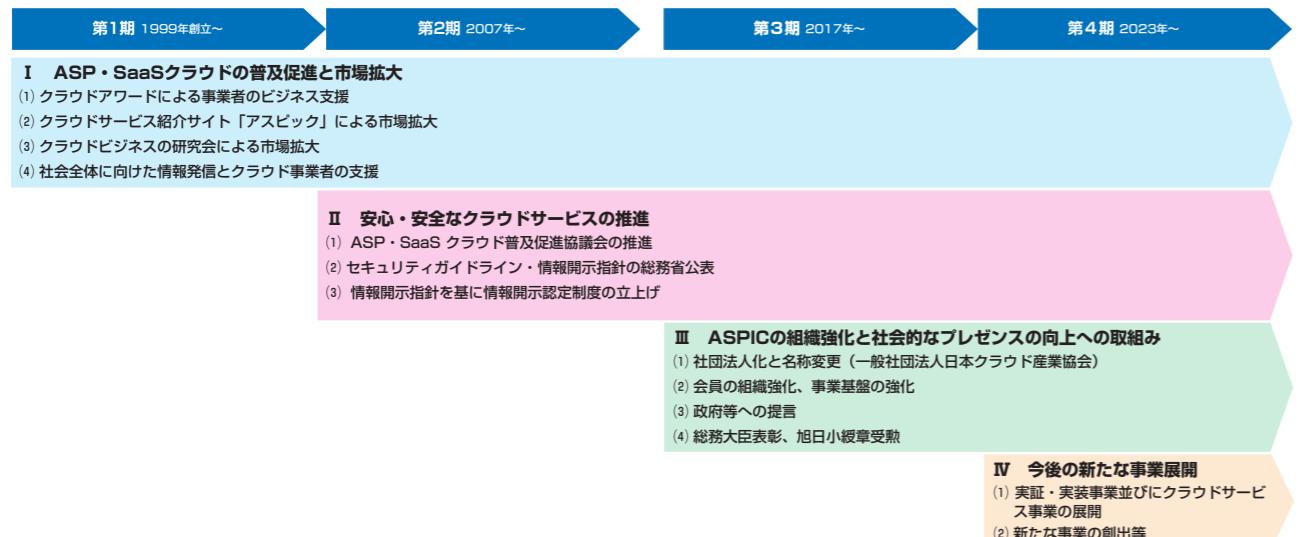
(1) 実証・実装事業並びにクラウドサービス事業の展開	
2002年~	自治体受託事業多数受託(千葉県、昭島市、多摩地区、宮崎県、延岡市、新潟県、沖縄県、大阪府等)
2008年~	情報開示認定事業開始
2009年11月	総務省ユビキタス特区事業「長崎県「あじさいネットワーク」」開始
2012年4月	国際標準介護アセスメント・インターライ方式クラウドサービス提供開始
2017年7月	総務省「IoTサービス創出支援実証事業(認知症対応型IoTサービス)」の公募で採択
2018年7月	総務省「地域IoTサービス実装事業(認知症対応型IoTサービス)」の公募で採択
2019年4月	クラウドサービス紹介サイト「アスピック」事業開始
(2) 新たな事業の創出等	
2025年8月	新会社「日本クラウド産業株式会社」設立
2025年11月	「ASPIGクラウドサービス検定」事業開始
2026年予定	「ASPIGプライバシー認証・研修・検定サービス」事業開始

今後の展開

セキュリティに関するコンサルテーション
有料コンテンツ配信
AI関連の新たなビジネス等の検討
クラウドサービスの利用促進
紹介サイト「アスピック」の推進展開
生成系AIへの対応



ASPIC25年間の「事業概要」



私たちASPICは、日本のクラウド業界を代表する業界団体として、創立以来25年にわたり、クラウドの発展を支える多様な活動を展開してきました。

4つに大別される「活動カテゴリー」

その取り組みは、大きく4つの「活動カテゴリー」に整理されます。

- ① カテゴリー「I」は、「ASP・SaaS・クラウドの普及促進と市場拡大」。「ASPICクラウドアワード」や各種「クラウド研究会」などを通じて、優れたサービスや先進的な取り組みを広く発信しています。
- ② 「II」は、「安心・安全なクラウドサービスの推進」。「ASP・SaaS・クラウド普及促進協議会」や「情報開示認定制度」を中心に、クラウドの信頼性向上と安心利用の基盤づくりを進めてきました。
- ③ 「III」は、「組織の強化と社会的プレゼンスの向上」。会員制度の改革を始めとした組織強化などで団体運営の安定化を図り、発信力の拡大を目指す活動です。
- ④ 「IV」は、「今後の新たな事業展開」。インターネット方式クラウド事業やクラウドサービス紹介サイト「アスピック」事業など、クラウドを活用したさまざまな事業を展開しています。

25年を区分けする4つの「活動期」

また、ASPICでは25年の歩みを、4つの「活動期」に分類しております。すなわち、1999年の創設から始まる「第1期」、2007年からの「第2期」、2017年から

の「第3期」、そして2023年からの「第4期」です。

活動期の数字と、その期において主に取り組んできた活動カテゴリーの数字は対応しており、例えば「第1期」には、主にカテゴリー「I」の「クラウドの普及促進と市場拡大」活動を中心に行ってまいりました。

4期にわたる歴史の中で、私たちは社会や技術の変化に合わせて、重点テーマを移しながら発展してきたのです。

「4カテゴリー」「4期」で ASPIC活動を俯瞰

もっとも、各期と各カテゴリーは明確に区切られているわけではありません。

例を挙げると、第2期の重点だった「安心・安全なクラウドサービスの推進」は、今も「情報開示認定制度」などとして継続し、ASPICの中心的な活動のひとつとなっています。

一方で、第4期が始まる前の時期にも、すでにカテゴリーIVにあたる総務省ユビキタス特区事業「長崎県『あじさいネットワーク』」(2009年~)のような事業にも取り組んでおります。

このように、I~IVの活動カテゴリーと1~4期の活動期の関係は、ASPICの歩みと挑戦を俯瞰するための「指標」として捉えていただけると幸いです。

そして、時代ごとに重点を置くテーマは変わっても、クラウドを通じて社会の発展に貢献するというASPICの理念は、一貫して変わることはありません。

I ASP・SaaS クラウドの普及促進と市場拡大

(1) クラウドアワードによる事業者のビジネス支援

18年間で1047件ものサービスを表彰 (エントリー数1680件)

「ASPICクラウドアワード」は、日本国内で提供される優れたクラウドサービスを表彰する制度として、2007年に創設いたしました。

クラウド業界の市場拡大と健全な発展を促し、事業者が持つ高い技術力や先進的な取り組みを、広く社会に伝えることを目的としています。

対象となるのは、公共・産業・社会など多岐にわたる分野のクラウドサービス。創設以来の18回で、これまでに1680のエントリーが寄せられ、累計1047件ものサービスを表彰するなど、国内のクラウド業界を代表するアワードとして確固たる地位を築いてきました。

ASPICではこのアワードを、優れたサービスを世の中に周知し、クラウド事業者のビジネス拡大を「後押しする」ことで支援を行う、「3大支援*」のひとつに位置づけています。

各社がエントリーしたサービスから 厳正な審査により受賞を決定

例年開催されるアワードは、ASPICが広く参加を募り、各企業が自社サービスをエントリーすることから始まります。

アワードに設けられている部門は、「ASP・SaaS」「データセンター」「IaaS・PaaS」「運用」「ユーザー」「IoT」「AI」などと幅広く、時代の変化に合わせて新たな領域が追加されてきました。

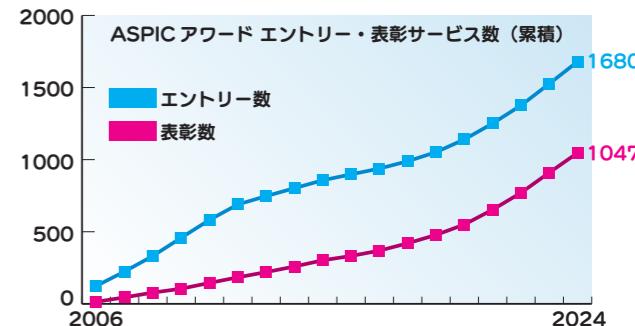
続いて、これらの各部門に寄せられた、サービスごとのエントリーシートを、ASPICが分野別に精査し、有力候補を選定します。選ばれた上位サービスは、有識者とASPIC関係者からなる審査委員会での審査対象となります。

その後、審査対象企業は、自社サービスの特長や成果をまとめたプレゼンテーション資料を作成し、それをもとに審査委員の前で力のこもったプレゼンを実施します。

最終的に、審査委員会による厳正な議論を経て、「総合グランプリ」や「ベンチャーグランプリ」「社会貢献賞」など、各賞の受賞サービスが決定するのです。

アワードの受賞サービスには、「受賞マーク」が付与

*3大支援……ASPICがクラウド事業者を支援するための、3種のアプローチ。「支える」では、情報開示認定制度などを通じ、クラウドサービスの安心・安全を担保。「押す」では、ASPICクラウドアワードで、優れたサービスを社会に広く発信。「引っ張る」では、クラウドサービス検索サイト「アスピック」で、ユーザーの利用拡大を牽引している。



2007年に開始した「ASPICクラウドアワード」。18年間で1047サービスを表彰し、事業者のビジネス支援に貢献してきた



されます。それが信頼の証となり、顧客や行政機関の選定基準に活用されるなど、参加企業の事業拡大にも直結しています。

長年にわたる総務省との連携が産んだ クラウドサービス最高の栄誉「総務大臣賞」

さらに、2015年の第9回アワードからは、各部門の総合グランプリ候補サービスの中から、その年を代表する最優秀のクラウドサービスに贈られる「総務大臣賞」を新たに設けました。

この賞の創設は、ASPICが長年にわたり総務省と連携し、クラウド産業の健全な発展と、信頼性向上に貢献してきた取り組みが高く評価され、総務省のご支援によって実現したものです。

賞の選定は、総務省関係者も参加する「総務大臣賞決定会議」にて慎重に行われます。

こうして選ばれる受賞サービスは、まさにその年のクラウド業界を代表する存在であり、いまでは「総務大臣賞」は業界における最高の栄誉として広く認められています。

華やかなアワード表彰式と 交流の場・受賞記念パーティー

「ASPICクラウドアワード」は、毎回2部構成で開催しています。

第1部は「表彰式」です。ここでは、総務省関係者をはじめとするご来賓の皆さんによるごあいさつや、審査委員長による総評などを実施。壇上では、すべての受賞企業に賞状と表彰盾が授与され、晴れやかな雰囲気の中で記念撮影が行われます。

続く第2部は「受賞記念パーティー」です。来賓、アワード参加企業、ASPIC関係者が一堂に会し、祝辞やスピーチのあと、乾杯とともに和やかな歓談の時間が始まります。

立食形式で自由に交流できる場となっており、参加者同士の談笑が弾む中で、新たなビジネスチャンスが生まれることも少なくありません。

毎回、多くの参加者から「貴重な出会いの場」として高い評価をいただいています。



2024年総務大臣賞受賞サービスは株式会社RevCommの音声AI「MiiTel」。総務副大臣(当時)・阿達雅志氏より授与された



表彰式の後は、来賓や受賞者、関係者が一堂に会す「受賞記念パーティー」が開催され、交流の場となっている

「ASPICクラウドアワード」ASP・SaaS総合 グランプリ受賞サービス(2006～2014年)

	サービス名	会社名
2006年	Salesforce	(株)セールスフォース・ドットコム
2007年 /2008年	不動産管理 ASP・SaaS「@プロパティ」	プロパティデータバンク(株)
2009年	@Tovas(あっととばす)	コクヨS&T株式会社
2010年	オンデマンド・アプリケーション・サービス『Applitus(アプリタス)』	(株)ネオジャパン
2011年	CECTRUST電子契約サービス	株式会社コンストラクション・イーシー・ドットコム 株式会社NTTデータ
2012年	Bizホスティング	NTTコミュニケーションズ株式会社
2013年	「BeSTA」を利用した地銀・第二地銀向けASP共同利用型センター	株式会社NTTデータ
2014年	DDworks21 ASPサービス	株式会社富士通システムズ・ウエスト

2015年の総務大臣賞誕生まで、ASP・SaaS部門の総合グランプリを、その年のアワード最高位としていた

「ASPICクラウドアワード」 歴代総務大臣賞受賞サービス

	サービス名	会社名
2015年	全曲報告サービス	株式会社NTTデータ
2016年	Enterprise Cloud	NTTコミュニケーションズ株式会社
2017年	電力事業者向けクラウドシステム「ECONO-CREA®」	株式会社NTTデータ
2018年	オリジナル気象システム「HalexDream!」	株式会社ハレックス
2019年	マイナポータル連携問い合わせ自動応答ソリューション	日本電気株式会社
2020年	CLINICSオンライン診療	株式会社メドレー
2021年	スマートバス停、スマートバス停クラウド「MMsmartBusStop」	株式会社YE DIGITAL
2022年	クラウド型遠隔監視制御サービス「SOFINET CLOUD」	日本ソフト開発株式会社
2023年	スピーキャンライデン	株式会社アルカディア
2024年	音声解析AI「MiiTel」	株式会社RevComm

(2) クラウドサービス紹介サイト「アスピック」による市場拡大

1300以上のサービスを比較・検討可能

2019年に誕生し、現在は1300件以上のサービスを検索可能な、クラウドサービス紹介サイト「アスピック」。組織名の「ASPIC」と区別するために、「カタカナ・アスピック」とも呼ばれるこのサービスは、もともと会員企業から寄せられた要望に、答える形で生まれたものです。

会員企業から利用者を紹介して欲しいとの強い要望が多々あり、ASPICとしてもセミナーや研究会等にて、利用企業の情報の収集を行ってきた経緯もありました。また、会員企業にとっても、自社の利用者を他社に紹介することは、ハードルが高く困難でした。

こうした中で、会員企業と連携して、中立的な立場のASPICが立ち上げたのが、クラウドサービス紹介サイト「アスピック」です。ASPICではこのサイトを、企業のサービスを「引っ張る」形で支援する、3大支援のひとつとして位置づけています。

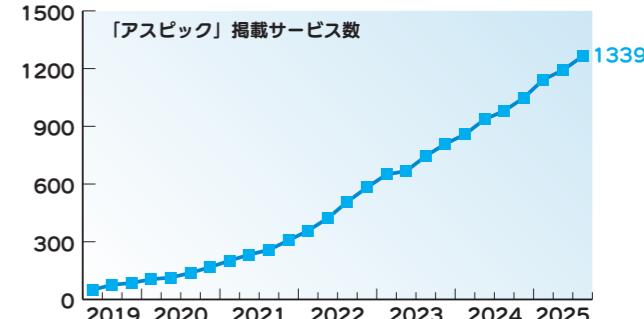
クラウド事業者とユーザの双方にメリット

開設当初はなかなか軌道に乗らず、苦戦を強いられたアスピックですが、運営委託会社のたゆまぬ努力と、会員企業の強いご支援、デジタルトランスフォーメーションの流れ、ASPICブランドへの信頼性向上等により著しく発展。2023年1月に観光庁が公表した「宿泊業の生産性向上経営ガイドライン」に掲載されたことも、その成長の後押しとなりました。

いまでは、数百社を超える事業者が参加するまでに拡大。月間アクセス数は数十万にのぼり、日本最大級のクラウドサービス紹介・比較サイトとして、多くの利用者に親しまれています。

アスピックは、ユーザとクラウド事業者の双方に、メリットをもたらす仕組みを備えています。

アスピックに会員登録をした利用者にとって、掲載された数多くのクラウドサービスを比較・検討できるため、自社の課題に最適なものを手軽に見つけられるのが大きな魅力。サービスごとに「ASPICクラウドアワード」の受賞や、「情報開示認定」の取得有無がひと目で分かるのも特徴です。



クラウドサービス紹介サイト「アスピック」では、掲載された約1300件のサービスを、300を超えるカテゴリーから検索可能

ASPIック カテゴリから探す 鮮利レポート 特集記事 口コミを書く 全員登録[会員登録] ログイン

ITサービスと 新たな一步を。

ITサービスの比較・紹介サイト
「アスピック」

会員数
1,200社

サービス名やカテゴリ名で検索

会員登録

TOP カテゴリから探す 全員登録[会員登録] ログイン

カテゴリから探す

人材(労務管理) 人材(採用・評価・報酬) 経理・会計・財務 業務・社内会議 芸能 マーケティング カスタマーサポート コミュニケーション 飲食店・生産管理 システム構築

システム構築 不動産賃貸向け セキュリティ 営業会議 物流・流通向け 営業・販路開拓 営業・営業会議 データ活用 実行・自社向け その他

サービス名一覧

人事(労務管理) 人事(採用・評価・報酬) 経理・会計・財務 業務・社内会議 芸能 マーケティング カスタマーサポート コミュニケーション 飲食店・生産管理 システム構築

システム構築 不動産賃貸向け セキュリティ 営業会議 物流・流通向け 営業・販路開拓 営業・営業会議 データ活用 実行・自社向け その他

人事(労務管理)

「アスピック」に会員登録した利用者は、掲載サービスの資料をまとめて10件まで請求できる

一方、サービスを提供する事業者にとっても、アスピック上で自社サービスを閲覧・資料請求したユーザの情報を把握できるため、関心度の高い見込み顧客と効率的に出会うことができます。

つまり、アスピックは、クラウドサービスを「探す側」と「提供する側」の双方にとって、ビジネスを加速させる有力なプラットホームとなっているのです。

こうして多くの利用者と事業者の信頼を集めてきたアスピックですが、それだけにとどまらず、運営主体であるASPICにとっても大きな力となっています。

事業収益がASPICの経営基盤を支え、ASPIC自身の飛躍を後押しし、次の時代へと進む原動力となっているのです。

(3) クラウドビジネスの研究会等による市場拡大**クラウド研究会を毎年約25回、累計500回開催**

ASPICでは、クラウドビジネスの普及と市場拡大のため、会員企業や行政機関と連携して、ページ右下の表にあるように多様な「クラウド研究会」を例年約25回、これまで累計500回以上開催しています。

研究会では、各分野の専門家や現場のプロフェッショナル（会員を含む）を講師に迎え、クラウドに関わる課題や問題点、さらには最新動向を分析・整理し、その決策を検討・共有することで参加企業のビジネスに直結する、実践的な成果を還元します。

研究会活動の一例として、ここでは「海外展開研究会」の取り組みをご紹介します。

この研究会は、会員企業の海外進出や国際的なビジネス展開を支援することを目的に、ASEAN各国をはじめとする海外団体との交流を積極的に進めています。

なかでも、台湾のICT業界団体「GDAA (Global Digital Delivery Alliance)」とは特に深い関係を築いており、2023年から3年連続でご来日いただくなど、継続的な交流を実現しています。

今後も時代をリードする講演者を招聘予定

研究会では、最新のICT事情や政策、さらにはクラウド技術の最前線について、有識者の講演を通じてタイムリーな情報を得ることができるもの大きな魅力です。

参加者によるアンケートも好評で、「自社の課題解決や新たなビジネスアイデアにつながる」「ビジネス発展に大いに参考になる」といった声が多く寄せられています。

コロナ禍以前のリアルで行われていた研究会では、講師や参加者を交えた交流会を開催。名刺交換や歓談で、人脈形成が図れるとして高い評価を得ていました。

ここ数年はオンライン開催も増えましたが、今後もASPICは、研究会に時代をリードする講演者をお招きし、皆さまの関心が高いテーマを取り上げながら、クラウド産業のさらなる発展に貢献してまいります。

「会員情報交換会」と「会員紹介・仲介」

ASPICでは、会員同士のコミュニケーションを深め、ビジネスの発展につなげるための交流の場を、時代に合わせて形を変えながら設けてきました。

最初に行われていたのは「アライアンスミーティング」です。多数の会員が一堂に会し、グループごとに分かれディスカッションを行うもので、名刺交換を交えながらお互いのサービスを紹介し合う、活気ある会でした。

その次に始まったのが「ビジネス交流会」です。約20社が参加し、各社が5分間のプレゼンテーションを行った後で参加者全員による名刺交換や情報交換を行う、より実務的な交流の機会として発展しました。

そして現在は、「会員情報交換会」として、さらに一步踏み込んだ交流の形を実現しています。参加は5社限定とし、各社が10分程度のプレゼンを行った後、質疑応答を交えながら率直な意見交換を行います。名刺交換を兼ねた少人数の立食パーティー形式の懇親会では、ビジネス・サービス連携について意見を交わし、より深い信頼関係の構築につながっています。

コロナ禍の3年間（2020年～2022年）はオンライン開催となりましたが、再開後は「顔の見える交流の場」として、多くの会員から人気を博している会です。

また、法人会員同士のビジネス連携や商談を希望する際に、ASPICが間に介して紹介・仲介を行う「会員紹介・仲介」制度を設けています。会員間の新たなつながりを生み出す仕組みとして、好評を得ています。

研究会一覧（現在活動中のもの）

クラウドIoT研究会	マーケティング研究会
新技術研究会	法務研究会
クラウドセキュリティ研究会	ベンチャー研究会
AIサービス研究会	海外展開研究会
ICT政策研究会	クラウド人材採用研究会
オープンデータ研究会	SaaS成長戦略研究会
医療・介護クラウド研究会	
農業クラウド研究会（SDGs研究会）	

(4) 社会全体に向けた情報発信とクラウド事業者の支援**『ASP白書』『ASPIICクラウドマガジン』などクラウド普及のための書籍を出版**

これまでASPIICは、クラウドの普及促進のため、さまざまな書籍を作成・出版してきました。

中でも「看板書籍」としておなじみだったのは総務省のご支援を受けて制作した『ASP白書』で、1冊目が2003年に刊行されています。ASP事業の健全な発展と、今後の方向性を示すために制作されたこのシリーズは、2009年の『ASP・SaaS白書2009/2010』まで、計4冊が制作されました。

商用に出版された書籍ではありませんが、2014年には、16ページの小冊子『クラウドのススメ』も作成しています。

本書は、「手にとって読みたくなる」「気軽に読めて最後まで通読してもらえる」ことを目指し、イラスト入りでクラウドの仕組みや魅力を、極力わかりやすく解説。現在もASPIICのホームページからダウンロードが可能です。

また、2025年2月には、ASPIICの活動への理解をより一層深めていただくことを目的に『ASPIICクラウドマガジン』を創刊。本誌はその第2号となります。同マガジンは、読者であるクラウド事業者の方々に「営業ツール」としても活用していただくため、あえて「紙媒体」での刊行をいたしております。

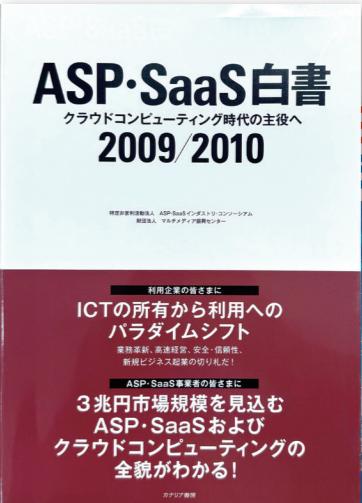
年間170回を超える活発な情報発信

メールや会員用Webにて、クラウド業界の最新動向等に関する情報提供のため、定期的に以下のトピックスをお届けしています。2024年には、合計175回の定期的な情報発信を行いました。

「官庁等調達情報」（週刊）……公示された調達案件の中から、クラウド業界に関わる事例を紹介。年45回発行（2024年度）。

「クラウドトピックス」（週刊）……日本経済新聞等の記事から、クラウド事業者にとって有益なものを配信。年45回発行（2024年度）。

「ASPIICレポート」（月刊）……「クラウドトピックス」で取り上げた記事を、ASPIIC独自の観点で深掘りし



イベントやセミナーのほか、各種出版物を発行して社会全体に向けた情報発信を続いている

たレポート。年12回発行（2024年度）。

「AIフロンティア」（週刊）……多様な情報源から収集した、AIに関する情報を配信。年49回発行（2024年度）。

「Security Watch」（隔週刊）……セキュリティに関する、国内外の最新情報を紹介。年24回発行（2024年度）。

いずれの情報も、「非常に自社ビジネスの参考になっている」など、ご好評を頂いています。

参加者同士の交流を深める「新春特別講演会及び懇親会」

ASPIICでは2013年以来、年頭行事として毎年1月～2月に「新春特別講演会及び懇親会」を開催しています。

総務省関係者や有識者をお招きし、クラウド業界の最新動向についてご講演いただく「講演会」と、会員同士の親睦や情報交換を目的とした「懇親会」の2部構成で実施。参加者からは、業界知見と関係者との交流を深められる貴重な機会として、毎年高い評価をいただいています。

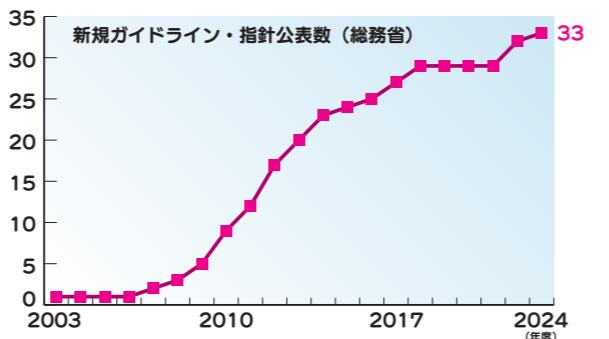
コロナ禍のため、2021年からはリモートによる「新春特別講演会」のみの開催となりましたが、2024年以降は再びリアル会場での、「講演会」と「懇親会」のセット開催が復活しました。

II 安心・安全なクラウドサービスの推進

(1) ASP・SaaS クラウド普及促進協議会の推進

国の委託を受け 活動初期からガイドラインを作成

ASPICは活動初期から、国や自治体の委託を受けて「ガイドライン作成」に取り組んできました。その第1号は、2002年に総務省から受託した「公共ITアウトソーシングに関するガイドライン」です。自治体のITアウトソーシングを、初めて体系的に示した画期的なもので、全国の約3300もの自治体に配布されました。



公表されたものの内訳を見ると、事業者向けの「共通分野」が最も多い9件で、次いで「各種情報開示指針」が8件となっている

「ASP・SaaS・クラウド普及促進協議会」 「ASP・SaaS データセンター普及促進協議会」で 33の検討委員会を設置

2007年、総務省はASPIと合同で「ASP・SaaSの普及促進策に関する調査研究」を行います。

その結果を受けた総務省は、当時まだ一般的ではなかったASP・SaaSの普及を図るため、同年「ASP・SaaS・クラウド普及促進協議会（以下「AS協議会」という）」を、ASPIと合同で設立しました。

また、2009年には、クラウドサービスを根底で支える「データセンター」の安全性や信頼性、今後の需要拡大などに対応するため、総務省と連携して「ASP・SaaSデータセンター促進協議会」設置しています。

ASPIはこれまで、協議会の運営を18年間行い、協議会内で「安全・信頼性委員会」や「医療・福祉情報サービス展開委員会」など、クラウドのさまざまな問題に対応する33の検討委員会を設置してきました。

(2) セキュリティガイドライン・情報開示指針の総務省公表

18年間で33件のガイドライン・情報開示指針を作成

協議会内の検討委員会は、これまで実に33件にのぼる、「セキュリティガイドライン」や「情報開示指針」などの作成支援を行いました（ガイドライン・指針等の公表主体は総務省）。

ガイドラインは大きく、クラウド全般に関わる「共通分野」、地方公共団体・教育・医療・農業といった産業別の「個別分野」、そして社会資本や防災関連などさまざまな情報の公開・利用に関する「情報公開・二次利用関連」などの領域に分類されます。

中でも注目すべき成果が、2009年に総務省から公表

された「ASP・SaaS事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドライン」です。この制定により、それまで国によって禁止されていた「医療情報のクラウド上での管理」が初めて可能になりました。医療分野におけるクラウド利用の拡大を後押しすることで市場を拡大し、結果として国民の医療サービスの質の向上にも、大きく貢献する成果を上げたのです。

また、「ASP・SaaS」「IaaS・PaaS」「特定個人情報」「医療情報」「IoT」「AI」など、幅広いテーマに対応する情報開示指針を作成。

これらは、次節で述べる「情報開示認定制度」の基盤となり、日本のクラウドサービスの信頼性向上に大きな役割を果たしています。

主要なガイドライン一覧

共有分野（事業者向け）

- ASP・SaaSにおける情報セキュリティ対策ガイドライン（2008年）
- クラウドサービス提供における情報セキュリティ対策ガイドライン（2014年）
- IoTサービスリスクへの対応方針（2018年）
- クラウドサービス提供における情報セキュリティ対策ガイドライン第3版（2021年改定）

- AIを用いたクラウドサービスの安全・信頼性に係る情報開示指針（2022年）
- クラウドサービス利用・提供における適切な認定のためのガイドライン（2022年）

情報開示指針

- ASP・SaaSの安全・信頼性に係る情報開示指針（2007年、2017年改定、2022年改定）
- IaaS・PaaSの安全・信頼性に係る情報開示指針（2011年、2017年改定）
- ASP・SaaS（特定個人情報）の安全・信頼性に係る情報開示指針（2017年）
- ASP・SaaS（医療情報）の安全・信頼性に係る情報開示指針（2017年）

データセンター（事業者向け）

- データセンターの安全・信頼性に係る情報開示指針（2009年、2011年改定）

情報の公開・二次利用の関連

- 社会資本情報のオープンデータ化二次利用促進のためのガイド（2014年）

(3) 情報開示指針を基に情報開示認定制度の立上げ

332件もの「安全で信頼性あるサービス」を認定

2007年4月総務省報道資料「ASP・SaaSの普及促進策に関する報告書と『ASP・SaaS普及促進協議会』の設立について」では、ASP・SaaSの普及促進対策として「ユーザーがASP・SaaSのサービスや事業者を選択・評価する際に必要な安全・信頼性指針を策定し、指針を充たしている事業者を認定する制度を官民で検討すべきである」との指摘がなされていました。

それを受け、2008年にASPIが総務省と協力して立ち上げたのが、「ASP・SaaSの安全・信頼性に係る情報開示認定制度（以下「情報開示認定制度」という）」です。開始当初の認定機関は「財団法人マルチメディア振興センター（FMMC）」でしたが（ASPIは「認定事務局」を担当）、2017年にはASPIに移管。それ以来、ASPIが事務局と認定機関を兼務しています。

この制度は、第三者（認定機関）が、クラウド事業者の提供するサービスを検証し、「安全・信頼性に関する情報」を適切に開示していることを認定する仕組み。認定サービスには「認定証」および「認定マーク」が発行されるので、事業者はWebページなどに表示して安全のアピールが可能です。

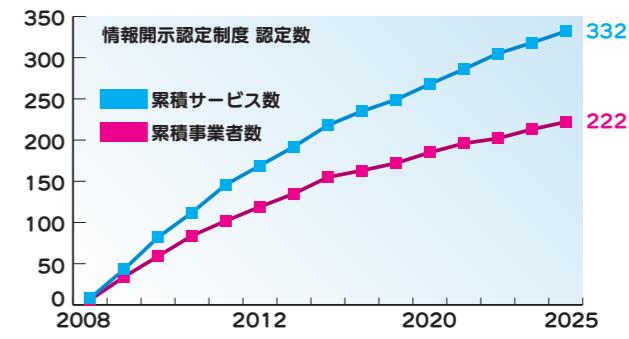
このように当制度は、サービスの安全性を担保することで、クラウド事業者のビジネスを「支える」役割を担うものであり、ASPI 3大支援の中でも大きな存在感を放っています。

同制度は運用開始以来、これまで合計332件ものサービスを認定しており、2022年には「情報開示認定300サービス突破記念表彰」を実施。総務省、審査員等の関係者を迎えて快挙を祝うとともに、優秀な認定サービスを提供する事業者に対し、ASPIが表彰を行いました。

8つの認定制度で事業者のビジネス拡大を強力に支援

制度のスタート時、情報開示認定制度に存在したのは、「ASP・SaaSの安全・信頼性に係る情報開示指針」（AS協議会が作成を支援し、総務省が公表）をもとに設計された「ASP・SaaS認定制度」のみでした。

その後、急速な業界の進歩に合わせて、総務省が公表



順調に伸びている認定サービス数。情報開示認定の審査には、約100項目ものセキュリティ等に関するチェックポイントが存在



情報開示認定300サービス突破を記念して開催された記念表彰式

する分野ごとの指針を基に、新たな制度を次々に整備。現在では「ASP・SaaS」（2008年開始）、「データセンター」「IaaS・PaaS」（2012年開始）、「特定個人情報ASP・SaaS」「医療情報ASP・SaaS」（2017年開始）、「ASP・SaaS（IoTクラウドサービス）」「IaaS・PaaS（IoTクラウドサービス）」（2018年開始）、「ASP・SaaS（AIクラウドサービス）」（2022年開始）の、合計8種類の認定制度を展開しています。

これらの制度により、ASPIはクラウドサービスの安全性を認定することで、事業者のサービス開発や事業拡大を強力に支援してきました。

活用事例としては、通常社内で行うセキュリティチェックの代替として、「新サービスは必ず情報開示認定を取る」とのルールを有する会社もあります。

申請の過程で、担当者がセキュリティに関する情報や体制を整理することができるため、「社内教育や意識向上にもつながる」との声も多く寄せられています。

ASPIは、今後もこの情報開示認定制度のさらなる拡大・高度化と、デファクトスタンダード化を進め、クラウド業界全体の信頼性向上と、健全な発展に貢献していきます。

III ASPICの組織強化と社会的なプレゼンスの向上への取組み

(1) 社団法人化と名称変更 (一般社団法人日本クラウド産業協会)

社団法人化と名称変更で 組織の社会的プレゼンスを向上

1999年に、任意団体「ASPインダストリ・コンソーシアム・ジャパン」として産声を上げたASPICTは、2002年に特定非営利活動法人（NPO）への組織変更を行いました。

それ以来、長年にわたってNPO法人として活動を続けてきましたが、クラウド産業の代表団体として、より公的な役割を果たすため、2020年に一般社団法人への移行を決断。「一般社団法人ASP・SaaS・AI・IoTクラウド産業協会」に組織名変更を行いました。

さらに2022年には、名称をよりシンプルで分かりやすい「一般社団法人日本クラウド産業協会」へと変更。

この新名称は関係者からも好評を博し、「活動内容が一目で伝わる」「より親しみやすくなった」との声が多く寄せられました。

これら二つの改革は、ASPICTの社会的プレゼンスを高め、次のステージへ進むための重要な礎となりました。

感謝の気持ちを直接お伝えした 創立15周年・25周年の記念式典

ASPICTではこれまで、2015年2月に創立15周年を記念して行われた「ASPICT創立15周年記念式典」などを通じて、多くの方々とともに歩みを重ねてまいりました。

そして2025年11月19日、創立25周年を記念し、「記念講演会および御礼・意見交換の会」を開催しました。

これらの会は、日頃ご支援をいただいている会員や関係者の皆さまへ感謝の気持ちを直接お伝えするとともに、参加者同士の交流を通じて貴重なご意見を伺う場として設けられたものです。

未来へと力強く進む ASPICT を象徴する 「新ロゴマーク」

「記念講演会および御礼・意見交換の会」の場で、われわれASPICTは新しいロゴマークの発表を大々的に行いました。

新ロゴに描かれた、地平から太陽のように力強く立ち上がるサークルは、クラウド産業の発展と挑戦を象徴

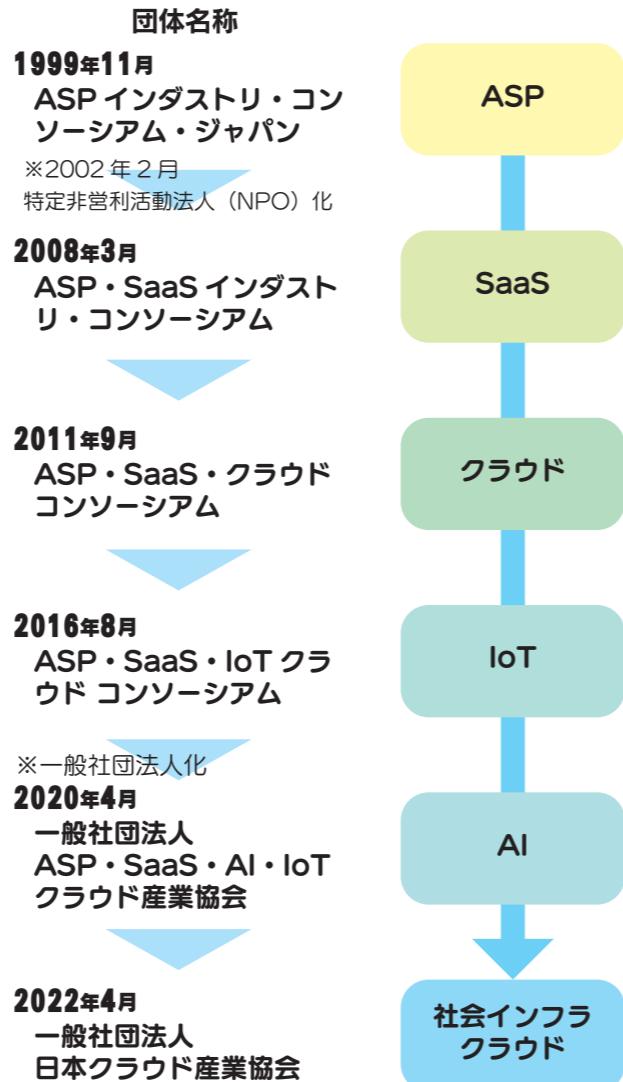
し、その周囲の稜線は、多様な知恵と技術が一点に集まり、新たな価値を生み出すことを表現しています。

ともすると落ち着いた印象を与えた旧ロゴに対し、新ロゴは右肩上がりのフォルムを採用することで、未来へと前進する力強さと躍動感を表現しました。「創立25周年を超えて、さらに未来へと力強く進むASPICT」の姿を、この新しいシンボルを通じて皆さんにお伝えしてまいります。

新ロゴとともに、ASPICTはこれからも「クラウドサービス先進の未来ステージ」に向けて進んでまいります。



ASPICT業況の拡大



(2) 会員の組織強化、事業基盤の強化

ASPICTの「ミッション・ビジョン」

ASPICTは、ミッションとして「クラウドサービスを社会インフラとして定着させ、日本の産業競争力の向上をめざし、世界最高のクラウド先進国にすると共に、会員ビジネスの繁栄に貢献する」、ビジョンとして「1. 安心・安全なクラウド市場の確立、市場創造・拡大をめざす」「2. 会員、業界、利用企業、社会全体の発展・拡大をめざす」「3. 世界で活躍するグローバルサービスの展開をめざす」という理念のもと、クラウド産業の健全な発展を支える団体として、組織体制の整備と会員との結びつきの強化を、継続的に進めてきました。

その歩みの中で、会員制度の拡充といった改革を重ねることで、より力強い組織へと成長を遂げています。

会員の新種別を創設 会員数1300超の団体へと成長

組織基盤の整備と並行して、ASPICTは会員制度の見直しにも着手しました。従来の会員に加え、新たに「情報開示認定」を取得した事業者や、クラウドサービス検索サイト「アスピック」でサービスを提供する事業者を「パートナー会員」として、2023年からは「ASPICTクラウドアワード」の受賞事業者を「アワード会員」として新たに位置づけました。これによりASPICTと会員とのコミュニケーションがより密になり、相互のビジネス連携が一段と深まりました。

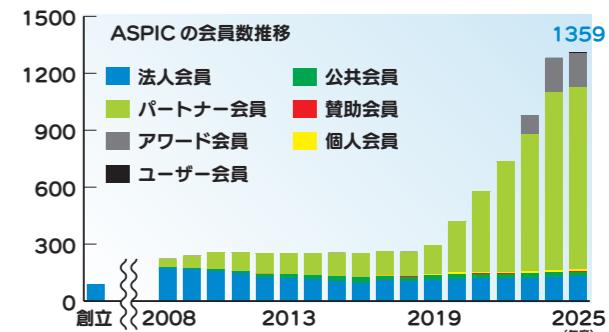
「情報開示認定」「アスピック」「アワード」という異なる分野で活動する事業者が一堂に会することで、多様な視点やノウハウが交わり、新たなビジネス創出の場としてのASPICTの価値が一層高まりつつあります。

さらに「アスピック」でサービスを検索する利用者を「ユーザー会員」として迎えることで、利用者の声を会員企業に届ける仕組みを整え、ASPICTが目指す「利用者と事業者が一体となった団体」の実現につなげています。

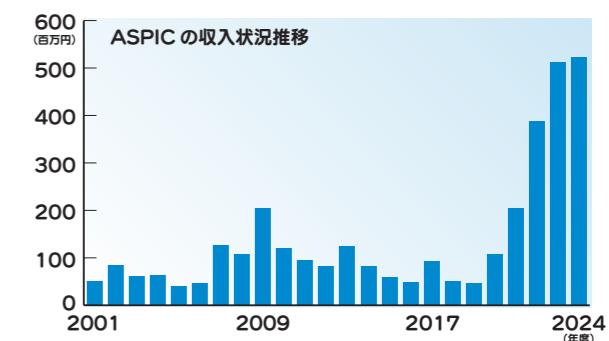
こうした制度改革と連携の強化を重ねた結果、ASPICTの会員数は1300社を超えるまでに拡大し、より存在感ある団体へと成長を遂げることができました。

事業基盤の強化

会員サービスや調査研究の受託事業、情報開示認定事



「パートナー会員」や「アワード会員」そして「ユーザー会員」の新設が、クラウド業界におけるASPICTの存在感を一層高めた



創設以来、ASPICTの収入状況には増減の波があったが、2020年頃からは順調に伸び、現在はついに5億円を突破している

業、「アスピック」事業などを着実に推進し、事業収入が5億を超えるなど、安定した経営基盤を確立しました。これにより、ASPICTの活動を持続的に展開できる体制を整えることができました。

組織強化と 「ASPICTサービスバリューチェーン」

私たちは団体としての活動を充実させるだけでなく、会員の皆さまにも具体的なメリットを実感していただける仕組みづくりを進めています。

それを代表する取り組みが、私たちが提唱する「ASPICTサービスバリューチェーン」です。「クラウドアワード」「アスピック」「情報開示認定制度」などの、各種サービスを有機的に連携させ、法人会員やアワード会員、パートナー会員の皆さまが、それらを気軽に利用して、多くの恩恵を受けられるように設計。その目的は、会員企業の知名度向上や信頼性強化、さらにはビジネス拡大にあります。今後は「ASPICTクラウドサービス検定」や、2026年初頭開始予定の「ASPICTプライバシー認証サービス」なども順次連携させ、より幅広い形で会員の皆さまの事業価値を高めていく計画です。

(3) 政府等への提言

政府等による要請に応え多くの委員会に参加

ASPICは、日本を代表するクラウド業界団体として、政府等の要請を受け、さまざまな部会・委員会に参加しています。

中でも河合会長は、2007年に総務大臣によって情報通信審議会「ICTによる生産性向上に関する検討委員会」専門委員に任命されたことを皮切りに、総務省「ICT街づくり推進会議 検討部会」（2013年）、総務省・経済産業省「クラウドサービスの安全性評価に関する検討会」（2018年）、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）「クラウドサービス審査委員会（ISMAP）」（2018年）などに参画。

2022年には情報通信審議会「2030年頃を見据えた情報通信政策の在り方」主査ヒアリングにも対応するなど、多数の委員会等に名を連ねています。

さらに毎年、政府与党に対して、クラウド業界への税制優遇措置や国によるインフラ投資、研究・開発体制の改善などに関する要望書を提出することで、ビジネス環境の改善への働きかけも行っております。

このように、業界代表としての意見を提言することで、日本のICT業界の発展に寄与しているのです。



「ICT街づくり推進会議 検討部会」に関する成功事例集。河合会長が参画した多くの委員会が出した結果のひとつである

(4) 総務大臣表彰、旭日小綬章受勲

団体と個人

2度にわたる「総務大臣表彰」の受賞

2008年、ASPIICは情報通信の発展に貢献した個人や団体に贈られる、「情報通信月間」の「総務大臣表彰」を受けました。

表彰理由は、「ASP・SaaSの利活用に取り組み、安全信頼性に係る情報開示指針の策定に重要な役割を果たすなど、わが国のASP・SaaSの普及促進、情報通信の発展に多大な貢献を果たした」というものでした。

それから4年後の2012年、「『ASP・SaaS・クラウド普及促進協議会』において、情報通信の利活用の推進に多大な貢献を果たした」という理由で、今度は河合会長が個人として同賞を受賞。

この2つの受賞は、創立以来取り組んできた「ASP・SaaS・クラウドの普及促進と市場拡大」および「安心・安全なクラウドサービスの推進」といった活動が高く評価された結果でした。

ASPIIC活動の評価により
河合会長が「旭日小綬章」を受勲

2023年には河合会長が「電気通信事業功労等」により、総務省の推薦で「旭日小綬章」を受勲しました。

5月に執り行われた叙勲伝達式では、河合会長が受勲者を代表して、総務大臣より勲記と勲章を受勲。

その後、会長は皇居宮殿に参内し、天皇陛下に拝謁するという、この上ない栄誉を賜りました。

これは、個人の功績にとどまらず、ASPIICが長年にわたり積み重ねてきた活動そのものが、国から高く評価された証しであり、団体にとってもこの上ない誉れとなつたのです。

「叙勲受章の御礼及び意見交換の会」を開催

9月には、叙勲の栄誉に際し、日頃お世話になっている関係者の皆さまへ感謝の気持ちをお伝えするとともに、今後の活動に向けたご意見・ご要望を伺う場として「叙勲受章の御礼及び意見交換の会」を開催しました。

開会にあたっては、まずは河合会長が登壇。総務省をはじめとする関係各位へ、これまでのご支援への深い感謝の言葉を述べました。

続いて、総務省の大臣官房総括審議官や大臣官房サイ

バーセキュリティ・情報化審議官をはじめとする皆さまから、温かい祝辞を頂戴しました。その中で、ASPIICがこれまで取り組んできた多岐にわたる活動に対する高い評価が寄せられるとともに、生成AIや国際展開など、これからの新たな課題にも触れられました。

その後の歓談では、立食パーティー形式の和やかな雰



情報通信月間「総務大臣表彰」は、情報通信分野における最も権威ある賞のひとつとして位置づけられている



河合会長の「総務大臣表彰」受賞は長年の功績に加え、特にAS協議会でのガイドラインの策定に関する功績が評価されてのものであった



左の写真は日本国天皇から授与された旭日小綬章の勲章と勲記。右は受勲時に撮影したASPIIC事務局メンバーとの記念写真



IV 今後の新たな事業展開

従来の実施事業

ASPICはこれまでに認定事業、実証・実装事業、クラウドサービス事業等を実施してきました。

2008年に「情報開示認定制度」事業を開始。

2009年の総務省コビキタス特区事業「長崎あじさいネットワーク」では病院間・診療所間の情報共有を実現し、医療連携の基盤を築きました。

2012年には介護・医療現場で用いられる国際評価方式「インターライ方式」をクラウド化し、公平・中立な運用で介護の「見える化」を推進しました。

2017年・2018年には総務省「IoTサービス創出支援事業」で、AIとIoTセンサーを組み合わせた認知症対応型サービスの実証・実装事業を実施し、医療・介護分野の革新を支えました。

2019年にはクラウドサービス紹介サイト「アスピック」事業を開始しました。

これら5つの事業の経験とノウハウを生かして、ASPICはこれからもさまざまな事業を進めてまいります。

日本クラウド産業株式会社

クラウドサービス市場のさらなる創造と拡大を目指し、2025年8月にASPICが設立した新会社です。

新規事業の開発や推進を、より機動的かつ柔軟に行うことの目的としており、一般社団法人と連携しながら、事業の発展・拡大に取り組んでいます。

新会社ではこれまで社団法人として実施が難しかった、セキュリティコンサルやクラウド関連テキスト販売などの事業も展開可能です。新会社の活動はASPICにフィードバックされ、会員企業全体のメリットへ還元される「循環型」の仕組みとして設計されています。

ASPICクラウドサービス検定

クラウドを単に使うだけでなく、受験者が実務で活用できる知識を体系的に身につけることを目的に、2025年11月にASPICが開始した資格制度です。総務省の「デジタル人材の育成ガイドブック」に準拠しており、信頼性の高い内容となっています。

現在は「スタンダード」レベルが提供されており、今

後「エキスパート」「プロフェッショナル」も展開予定。業界全体のリテラシー向上を通じて、クラウド事業者のサポートコスト削減や産業の健全な発展にも寄与する、ASPICの新たな取り組みです。

ASPICプライバシー認証サービス

2026年1月から、「ASPICプライバシー認証サービス」を開始予定です。

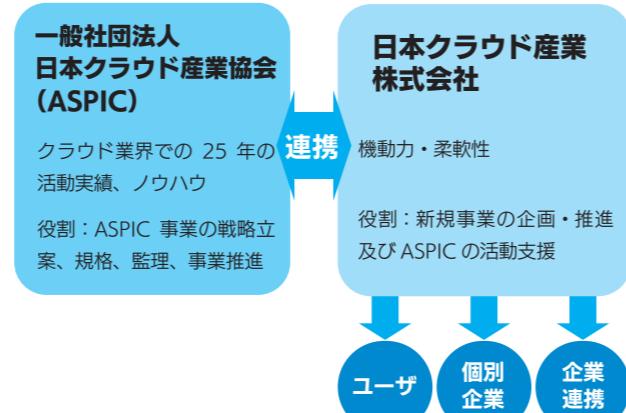
本サービスは、中小規模のクラウドサービス事業者や、クラウドサービス利用者を対象に、個人情報保護法および「ISO/IEC27018（クラウドにおけるプライバシー保護に関する国際標準）」の理解と実践を支援することを目的としています。

さらに今後は、各業種の個人情報保護法ガイドラインに基づく、「eラーニング」や「検定プログラム」、認証取得のためのサポートサービスなども順次展開していく予定です。

有料コンテンツ

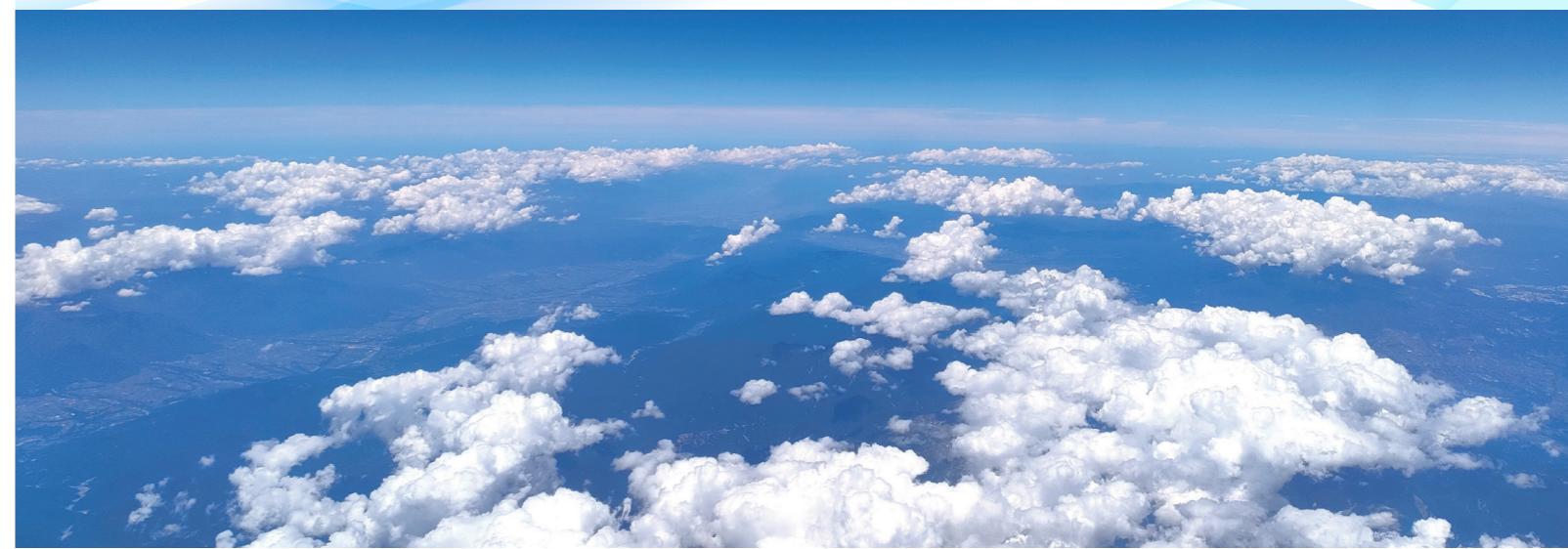
ASPICが25年にわたって蓄積してきた豊富な情報を整理し、「有料コンテンツ」として提供する取り組みも構想しています。

本事業では、クラウドサービス検索サイト「アスピック」や「ASPICクラウドアワード」、「情報開示認定制度」などで得られた長年にわたるデータや、情報発信しているクラウドトピックス、ASPICレポート、AIフロントティア、SecurityWatch等を白書的にまとめ、会員やクラウドサービス提供企業にとって、有益な情報を発信していくことを目指します。



日本クラウド産業株式会社は、ASPICの25年の実績・ノウハウをもとに新規事業、個別企業向け事業などに取り組みます

25周年記念座談会



「クラウド業界を支え、後押しする 情報開示認定制度・ASPICクラウドアワード」

島田達巳・阪田史郎・稻田修一・河合輝欣

「ASPICとは『共に成長してきた』という 強い思いを抱いています」

山本稔・板谷敏正・河合輝欣

クラウド業界を支え、後押しする 情報開示認定制度・ASPIC クラウドアワード

25周年記念座談会 ①



技術経営士 情報未来創研 代表
元・総務省大臣官房審議官
前・早稲田大学 教授

稻田 修一

千葉大学名誉教授
元・日本電気(NEC)研究所長 (現・都立大学) 名誉教授

阪田 史郎

東京都立科学技術大学
元・日本電気(NEC)研究所長 (現・都立大学) 名誉教授

島田 達巳 **河合 輝欣**

ASPICが展開する、「ASPICクラウドアワード」と「クラウドサービスの安全・信頼性に係る情報開示認定制度」。前者は優れたサービスの顕彰により、後者は安全性の担保を通じて、ともにクラウド事業者を力強く支える2大制度である。本座談会では、双方に深く関わる島田達巳先生、阪田史郎先生、稻田修一先生の3名を迎え、両制度の意義や課題、さらには今後のASPIC活動への期待など、多彩な話題について意見を交わしていただいた。

先生方と河合会長との出会いと ASPICとの関わり

河合 本日は、「ASPICクラウドアワード」(以下、「クラウドアワード」とする)と「クラウドサービスの安全・信頼性に係る情報開示認定制度」(以下、「情報開示認定制度」とする)に、審査員としてご助力いただいている先生方にお集まり願いました。なかでも島田先生と私は、いちばん古くからのお付き合いになりますね。

島田 私が河合会長と最初にお会いしたのは、たしか1990年前後です。東京都の福祉分野のIT関連委員会で、当時、NTTデータの公共事業部長だった会長とご一緒しました。

河合 先生のご専門は経営情報学で、

「ITサービスを外部から利用する」という意味で、ASP・SaaSと密接な関わりがある「アウトソーシング」について、先進的な研究をされておりました。1995年には、いち早く専門書『アウトソーシング戦略』(日科技連出版社)も出版されています。

島田 私はASPが出てきた当初から、「アウトソーシングの一形態」と位置づけていたので、研究上の興味もあり、会長のお説を受け、ASPICのお手伝いをさせていただくことになったのです。

河合 阪田先生には、先生がNECの研究所に所属されていた2001年頃、私からお声かけしたと記憶しています。

阪田 会長から直接、「これからASPICの活動を本格的に行うにあたり、特に

ICT、すなわち『情報通信技術』の視点から支援してほしい」というお電話をいただきました。それから、2003年にASPICが出版した『ASP白書』(IDGジャパン)に携わさせていただいたことも、初期の活動としては特に記憶に残っています。総務省と開催した、さまざまな会議に出席させていただいたのも、私としては大変勉強になりました。

河合 島田先生と阪田先生には、2007年の「ASP・SaaS・クラウド普及促進協議会」立ち上げ時に、委員をお願いしました。その取り組みが、後の「情報開示認定制度」につながっていきます。さらにその翌年からは、クラウドアワードの審査員としてもご協力いただいております。

阪田 私が本格的にASPICに参加させて

情報開示認定で行っているのは サービスを取り上げるための審査

いただいたのは、2008年からという感じですね。

河合 稲田先生とは、総務省でITのセキュリティ関係のご担当をされていた2000年前後に、初めてお会いしています。

稻田 会長が、NTTデータの副社長だった頃からのご縁ですので、本当に長いお付き合いになります。ただ、当時の私は、ASPICと関わりのない部署にいたので、仕事上で直接の接点はありませんでした。その後、私が「東京大学先端科学技術研究センター」で特任教授をしていた2013年頃に、河合会長から「情報開示認定制度の審査委員になりませんか」というお電話をいただきました。

面白そうだからお受けしましたが、まさか10年以上関わることになるとは、想像もしておりませんでした。

クラウドの安全・信頼性を 評価する「情報開示認定制度」

2008年に創設された「クラウドサービスの安全・信頼性に係る情報開示認定制度」は、クラウドサービスの安全性や信頼性に関する情報を、第三者機関であるASPICが審査・認定し、公表する仕組みである。

利用者が、安心してサービスを比較・選択できるよう支援することが目的であり、ASPICは総務省と協力しながら、制度を運営している。

サービスの認定は、利用者からの信頼につながるだけでなく、自治体などの入札資格要件として活用される場合もあるため、事業者にとっても大きなメリットがある。

審査では、セキュリティを中心とする、約100項目のチェックポイントを

確認、その結果はASPICのホームページで公開される。現在(2025年11月)は、8つのカテゴリーで展開され、これまで累計332のクラウドサービスが認定を取得している。

稻田 会長が、NTTデータの副社長だった頃からのご縁ですので、本当に長いお付き合いになります。ただ、当時の私は、ASPICと関わりのない部署にいたので、仕事上で直接の接点はありませんでした。その後、私が「東京大学先端科学技術研究センター」で特任教授をしていた2013年頃に、河合会長から「情報開示認定制度の審査委員になりませんか」というお電話をいただきました。

面白そうだからお受けしましたが、まさか10年以上関わることになるとは、想像もしておりませんでした。

河合 「情報開示認定制度」は、「サービスの安全性を証明することで、クラウド事業者を下から支える」という、ASPICにとっての重要な使命を担う存在です。そこで、先生方が「どのようにサービスの審査に取り組んでいるか」について、お聞かせ願えますか?

島田 審査員の役割は、事務局が整理した申請書を精査することにあります。つまり、申請者との直接のやり取りがないことが、後の話題である、クラウドアワードの審査と大きく違う点です。そんな中で、審査委員としての私は、セキュリティ面はもちろん、企業の「経営と財務」について重視しています。企業の安定性や成長性は、提供されるサービスの信頼性に直結するためです。その観点を踏まえ、ユーザ層やアカウント数などの項目についても、申請書や企業ホームページを確認しながら、慎重に評価しています。

河合 たしかに、島田先生がおっしゃる

ように、企業の経営面も大切です。「われわれが認定したサービスをユーザが使い始めた途端に、提供会社が倒産してしまった」ということでは仕方ありませんので。ASPICとしては、「サービス全体で審査して、安全・信頼性が確認できない限りは認定しない」という姿勢を貫いています。

阪田 私は委員長として、年に数回開かれる認定審査委員会の、およそ半分に出席しております。私自身の審査方針なんですが、もちろん基本はセキュリティ面で、そこは大前提です。それに加えて「技術の視点」も、とても大切にしています。クラウドサービスの分野は、技術とともに進歩のスピードが本当に速いので、認定審査を受ける企業が「新しい技術に、積極的に取り組もうとしているか」「一時的なものではなく、継続的に取り組んでいけるか」、という部分も、申請書とその説明に対する審査の大きなポイントにしているんです。

稻田 私は多分、一番うるさい審査員で(笑)、けっこう修正をお願いしています。それと言いますのも、私は完全に「利用者」の立場で申請書を見ており、「利用者だったら、こんな情報が必要なのでは」と、常に考えて審査することにしているからです。先日も、生成AIを利用したあるサービスの審査において、利用者の関心があるだろう「RAG^{※1}」の記載が十分でないことが気になり、追記をお願いいたしました。

河合 先生方からご指摘を受けた部分は、ASPICの事務局の担当者が、企業の申請者に「この部分を直してください」とか、「これを追加してください」などとお願いし、適宜修正してもらった上で、申請書を再提出していただいている

※1 「RAG」……「Retrieval-Augmented Generation (検索拡張生成)」の略称。AIが答える前に、外部ネットや専用データを調べてから文章を作る仕組みであり、最新の正確な回答を出せるのが特徴



の情報開示認定取得が、クラウドビジネスの発展には欠かせない」という認識を、広く定着させる方策を考えたいですね。

河合 おっしゃるとおり、認定数は現状で330を超えてますが、業界全体のためにも、まだまだ普及に力を入れるつもりです。「企業が認定制度を広める」方法を確立すると同時に、今後のASPICが「利用者と事業者が一体になった団体」を目指す中で、「利用者の側が、企業に情報開示認定の取得を求める」ムードが醸成されるのが理想ですね。

クラウド企業にとっての「認定制度」取得メリット

河合 少し視点を変えますが、先生方は、情報開示認定を取ることによる、企業側のメリットはなんだとお考えですか?

阪田 信頼性のある認定を取った結果、サービスとその企業の認知度が向上することが挙げられると思います。それは、そのまま顧客へのアピールにつながりますので、入札や受注の場面で、競合他社に対して優位に立て、ビジネスの獲得につながります。それと同時に、これからもますます発展する、クラウド業界の発展に貢献できる制度ということで、ASPIC自体にとっても、認知度を上げるための重要な活動だと思っています。

阪田 取得企業にとっても、「認定を受けた」という事実自体が、サービスをきちんと運営しなければという動機になります。これが「セキュリティレベルの順守」への意欲につながり、業界全体のレベル向上にも貢献すると考えています。

河合 情報開示認定制度のホームページでは、認定サービスの、100にも及ぶ

す。

阪田 そういう意味では、落とすための審査ではなく、基本的には「取り上げるための審査」をしていると言えますね。

河合 もちろん、情報開示認定制度は厳正な審査を大前提としており、決して「審査料を払えば自動的に取れる」ような性格のものではありません。しかし、阪田先生がおっしゃるとおり、ASPICとしても、申請してきたサービスには、できるだけ認定を取っていただきたいという考えがありますので、場合によって事務局は申請書の提出前から、必要があれば当該企業と数回やり取りする方向で動きます。

阪田 審査員も、一件ずつ時間をかけて丁寧に審査していますが、事務局の調整は、すごく大変な作業なんだろうと、申請書を見ながらいつも思っています。

島田 皆さんおっしゃるように、審査をする側が言うのもなんですが、私はつくづく真面目な制度だと感じています。(笑)

河合 そのような性格の制度だからか、ご信頼をいただいており、実質的に「サービスのチェック機能」として生きている企業もあります。ASPICのパートナー会員であるテクマトリックス株式

クラウド業界全体のセキュリティレベル底上げに寄与

※2 「NOTICE」……インターネット上から、IoT機器やネットワークの脆弱性やサイバー脅威を検知・共有し、安全な運用を支援するサービス

アワードのプレゼンに求めるのはサービス提供者の「生の声」

年に創設された日本初のクラウドサービスに特化した表彰制度。ASP・SaaS部門（内部に4つの分野別カテゴリーを含む）、運用部門、IoT部門、IaaS・PaaS部門、AI部門から構成されている。

河合 「ASPICクラウドアワード」は、「優れたサービスを表彰し、クラウド事業者を力強く後押しする」役割を担っており、情報開示認定制度と並ぶ重要な取り組みです。そしてこのアワードにおいても、先生方には審査委員として、大変心強いご支援をいただいています。

阪田 「クラウド」を正面から打ち出している点も、際立った特徴だと思います。クラウドは、ソフトウェア技術を中心としてミドルウェアやアプリケーションまで、いろいろな要素があります。それを包括的に扱っているのは、インパクトが大きい点でしょうね。

稻田

他の類似制度に比べて、非常に実務的な制度だと思います。認定を取るために、膨大な書類の提出が必要な制度もありますが、そうなると「書類を出すこと」が目的になってしまい、肝心なところに目がいかなくなることが多いんですよね。その点、ASPICの情報開示認定制度は、ポイントを絞りつつ、担当者が毎日確認可能な項目数なので、実務的に有効だと感じます。

河合

クラウドサービスの認定制度には、国が実施している「ISMAP」などもありますが、フルスペックの監査を行うと、毎年数千万円の費用が必要です。国が使うサービスなので、それだけのセキュリティ担保は当然なのでしょうが、車に例えると、ISMAPは「最高級車」という位置づけだと思います。一方、ASPICの情報開示認定制度は、「軽自動車」と言ってはなんですが、2年間で20万円という費用で、実用的なレベルでのサービスの安全を証明できるところが、存在意義であるとも考えています。

島田

アワードでは、申請企業のプレゼンテーションを拝見し、その内容をもとに審査を行います。企業の情報システムを専門としていることもあり、毎回とても楽しみながら審査に臨ませていただきました。私が審査の時に必ず聞いていたのは、経営戦略——特に競争戦略についてです。要は、「他社が模倣できないオリジナリティーがあり、競争優位性を保てるサービスなのか」という点を、特に確認したかったんですね。

阪田

私が審査する時、留意点は2つあります。それはどちらも「技術」の面

稻田氏は、2016年から審査に加わり、2018年からIoT部門、AI部門、IaaS・PaaS部門、運用部門の副審査委員長に就任している。

河合 「ASPICクラウドアワード」は、「優れたサービスを表彰し、クラウド事業者を力強く後押しする」役割を担っており、情報開示認定制度と並ぶ重要な取り組みです。そしてこのアワードにおいても、先生方には審査委員として、大変心強いご支援をいただいています。

島田 アワードでは、申請企業のプレゼンテーションを拝見し、その内容をもとに審査を行います。企業の情報システムを専門としていることもあり、毎回とても楽しみながら審査に臨ませていただきました。私が審査の時に必ず聞いていたのは、経営戦略——特に競争戦略についてです。要は、「他社が模倣できないオリジナリティーがあり、競争優位性を保てるサービスなのか」という点を、特に確認したかったんですね。

阪田 アワードでは、外部の有識者にASPIC河会長も加わって進められる。

島田 河会長は、2008年の第2回アワードからASP・SaaS部門の審査に参加し、2016年から2022年まで、同部門の審査委員長を務めた。

阪田 河会長は、2008年から審査に加わり、現在はIoT部門、AI部門、IaaS・PaaS部門、運用部門の審査委員長を担当する。



厳正なプロセスで決定される「ASPICクラウドアワード」

ASPICクラウドアワードは、2006

受賞サービス決定までには 毎回、白熱した議論が行われる

に着目したものです。まずひとつは、「新しい技術を積極的に取り入れているか」という点。もうひとつは、単独で閉じない「クラウドとして複数のアプリケーションに提供できるプラットホームとして機能するか」という点です。

畠田 先生によって、審査の傾向は違いますが、私自身は、提案されたサービスが「本当に利用者にとってメリットがあるか」という点を考えます。それから、イノベーティブで、面白いアイデアが大好きなので、ついついそのような提案に高い点数を付けてしまいます。他の先生の傾向と違っているので、委員長の阪田先生を悩ませているのではないかと、実はいつも気にしております(笑)

河合 アワードの審査プロセスとしては、最初に事務局で、上位候補20サービスほどを絞り込みます。それらの会社が提出した資料を先生方にお渡しし、机上審査をしていただくのですが、けっこう時間がかかる作業ですよね?

畠田 1件につき、だいたい30分から1時間ぐらいですね。私は、「他に似たサービスがないか」「提供元は、本当に

信頼できる企業なのか」を、重点的に調べています。最近は、生成AIを活用することで多少楽になりましたが、それでもきちんと時間はかけています。

阪田 サービス自体は斬新で、クラウドとしての優位点も明確で、「受賞させよう」と思っていたのに、資料やプレゼンの出来が悪くて……というパターンもあります。

島田 「カタログそのまま」などというのもありますね(笑)

畠田 それと、情報開示認定を取得しているサービスには、得点が加算されます。特に、僅差で順位を争う際には、この加点が決定的な要素になる印象があります。

河合 提出資料を元にした審査では、約15個の項目を、1~5点で評価していただきます。そして、合計点が上位である「グランプリ」「準グランプリ」候補のサービスがプレゼンテーションを実施し、続いて先生方との質疑応答が行われます。

島田 プrezenがうまい会社は、やはり評価が良くなる傾向がありますね。創業

者ご自身が行う、迫力を感じるプレゼンもよく覚えています。

河合 その反面、創業者は、事業に熱い思いをお持ちなので、サービス以外に話が行ってしまい、肝心なことが説明できないパターンもありました(笑)。オーナーのプレゼンは人によって良しあしがあるとして、練習のためなのか「新人社員に発表させる」企業もありますが、審査する側としては、好印象を持ちづらいです。

阪田 新人にプレゼンさせて、責任者は質疑応答だけ行うケースですね。

畠田 審査する側としては、サービスの「コンセプト」や、「どこに苦労したか」などの生の声を聞きたいのですが、新人さんだとどうしても通り一遍等の説明になってしまいます。

河合 以上のプロセスを経た上で、先生方の話し合いに私も加わり、各部門の上位の賞を決めていくことになりますが……。

阪田 これがだいたい、意見が分かれるんです(一同笑)

河合 総務大臣賞がでてからは、以前にも増して議論が白熱するようになりました。

阪田 私自身がいつも感じているのは、得点がほぼ同じサービスが並んだ場合、「安定した大企業のもの」と、「斬新なベンチャーのもの」どちらをグランプリにするか判断が難しい、という問題です。安定した基盤と気鋭の技術、どちらも兼ね備えていれば良いのですが、なかなかそのようなサービスの提案はありません。

畠田 当然ですが、審査対象は新しいサービスが多いので、本当にブレークするか、わからない部分が多いです。どこ

に賞を贈るかは一番悩むところであり、それだけに、選んだサービスがブレークするとうれしくなります。

島田 アワードを取ってから急成長し、上場、プライム市場に上がっていく企業もあり、そのような姿を見るのも楽しみでした。

阪田 アワードの直後に開かれる、懇親会で名刺交換をした受賞者の方から、後日、「おかげで受注が増えました」というメールをいただいたときは、「アワードが、企業の価値向上に寄与している」と感じて、とてもうれしかったですね。

島田 受賞された企業は、ほとんどがホームページ上にプレスリリースを掲載したり、応接室に記念盾を飾ったりしているようですね。そのようなところを見ても、受賞すること自体が、社員にとつても励みになっているのでしょうか。

「生成AI」の進展により アワードに求められる変革

河合 それでは、先生方が現状のアワードに感じている、課題をお聞かせください。

島田 これまで19年間、よく続いてきたと思いますし、今後もさらに発展させていただきたいです。それを踏まえて、何点か提言させていただきます。ひとつ目は、賞の種類が多い点。2つ目は、応募者に対して、賞を与える率が高い点。そして3つ目は、大きな賞を取ったサービスが、その翌年以降もリピートしてエンターできてしまう点です——この点に関しては、例えば「〇〇賞を取ってから5年間は参加不可」などの規制をかけるべきかもしれません。加えて言うと、審査の評価項目は、もう少しシンプルな方がいいと考えています。

阪田 自分の担当分野は、10年ぐらい前まではデータセンターのみが主体の、いわゆる「箱物」オンリーでした。しかし、2016年にIoT部門、2018年にAI部門が加わったことで、情報システムの幅広い分野へと、審査対象が広がりました。この3つの分野は、以前は別々に発展していましたが、2020年頃に「エッジAI」という概念が登場し、IoTとAIが密接に結びつき始め、IoTとAIを組合せたサービスの提案が増加しました。さらに大きな変化が訪れたのは、2022年11月の「ChatGPT」の登場です。ご存じの通り、生成AIの稼働には高性能な処理能力を提供するデータセンターが欠かせず、両者の関係が一気に強いものになりました。こうして、AIを中心に、IoTやデータセンターの3者が密接に連携する構図が生まれました。このため、この3部門の分類によって審査を続けることが適切かどうかの疑問が生じました。技術的な観点からしますと、審査部門の再編や、審査方法自体の刷新が必要と考えます。今後のアワードにおける大きな課題だと思います。

畠田 私の提言は、「アワードのビジネス上の効果」を可視化してほしい、ということです。例えば、「アワードを取ったことにより、企業の成長率が10%上がった」などのデータが分かると、参加される皆さんも、より一層盛り上がるのだと思います。効果を上げた企業の取り組みを、ASPICの会員に共有することは、クラウドサービスのさらなる発展につながるでしょう。またIT企業に加えて、OT企業^{※3}にも目を向けることが、大事です。一例を挙げると、衣類などの製作に関し、顧客と生産企業を仲立ちする、ワンストップ窓口を運営している

「シタール」という会社があります。アパレル業界のプラットホームを目指しているのですが、こちらはIT企業ではなく、ITに詳しいOT企業なんです。従来のIT業界のみならず、そのような会社も取り込むことが、アワードの価値を高める方策だと思います。

河合 多岐にわたるご意見をいただき、誠にありがとうございます。ご存じの通り、今年(2025年)のアワードはお休みで、来年から体制を見直して再開することになっております。情報開示認定制度と同じく、アワードも皆さまのご助言を参考にしつつ、より良い方向に進化させたいと思います。特にAIの扱いと、部門の再編については喫緊の課題だと感じておりますので、引き続きお力添えください。

次の5年、10年に向けて ASPICが果たすべき役割とは

河合 それでは最後に、今後のASPICに対する、ご期待やご要望をお聞かせください。

島田 ASPICの25年の歩みを振り返ると、「情報開示認定制度」「クラウドアワード」「アスピック(クラウドサービス紹介サイト)」といった、さまざまな取り組みを展開しておられます。これらが互いにシナジー効果を生み出していること、さらに他の組織との連携を上手に進めてきたことが、ASPICの大きな強みだと思います。今後もその強みを生かして、さらなる事業展開を進めていただきたいです。

阪田 生成AIの急速な普及とともに、データセンターには、GPUに代表される高性能半導体チップによる「電力の大量消費」という非常に深刻な問題が

これからもASPICは識者と共に クラウド業界全体を支援





発生しています。「ICTの観点から、このエネルギー・環境問題にどう取り組むか」が、ASPIICにとってもひとつの課題になってくると思います。また、総務省を中心に、現在議論が進んでいる2030年以降の「Beyond 5G」（6Gがその第一弾）は、技術的にはデータセンター・AI・IoTの集積体を含み、まさにASPIICの専門領域であるクラウドと密接に関わるもので。これまで、同省とともにクラウド業界の発展を支えてきたASPIICが、Beyond 5Gの取り組みに積極的に関わることは、業界全体にとっても、非常に意義深いものになるはずです。

畠田 私は、クラウドサービス比較サイト「アスピック」を見るたびに、こう思います。「ここで紹介されているサービスを体系化して、ユーザが必要なものを

まとめて提供できれば、すごく便利になるだろうな」と。ところが現状の「アスピック」は、サービスがただ並んでいるだけで、体系化や統合化はされていません。残念ながら、これは貴重なリソースの無駄遣いだと感じます。ユーザの発想はすでにワンストップ化に向かっています。25周年を迎えたASPIICは、「利用者と事業者が一体となる団体」という理念を大切にしながら「活動の6本柱^{※4}」の策定や、「ASPIICクラウドサービス検定^{※5}」をはじめとした新たな事業など、多方面での取り組みを進めてまいります。これからもクラウド業界全体のために、さらなる発展を目指しますので、先生方にはぜひ、これまで以上のご支援とご協力をたまわりますよう、心よりお願い申し上げます。

河合 AIへの取り組みや環境問題への対応、Beyond 5G、さらには「アスピック」に関するご提言をたまわり、心



プロフィール●しまだ たつみ

1939年1月富山県生まれ。大阪市立大学博士（経営学）。現職「東京都立科学技術大学（現・都立大学）」名誉教授、「損南大学」名誉教授、歌人（八雁短歌会会員）。著書『アウトソーシング戦略』（編著・日科技連・1995年）、『地方自治体における情報化の研究—情報技術と行政経営』（文責堂・1999年）、『経営情報システム（改訂3版）』（共著・日科技連・2007年）、歌集『立山連峰』（現代短歌社・2019年）。



プロフィール●さかた しろう

1974年日本電気（NEC）入社。以来、同社中央研究所において情報通信ネットワークの研究開発に従事。工学博士。1996～2004年同社研究所所長。2004年より千葉大学大学院教授。2019年同大学名誉教授。IEEE Fellow、日本工学会フェロー、電子情報通信学会フェロー、情報処理学会フェロー・名誉会員。総務省情報通信審議会の専門委員はじめ経済産業省、文部科学省、内閣府等において専門委員を務める。2009年総務省関東総合通信局長賞、2023年同省東海総合通信局長賞、他を受賞。単著書3、共著書40。



プロフィール●いなだ しゅういち

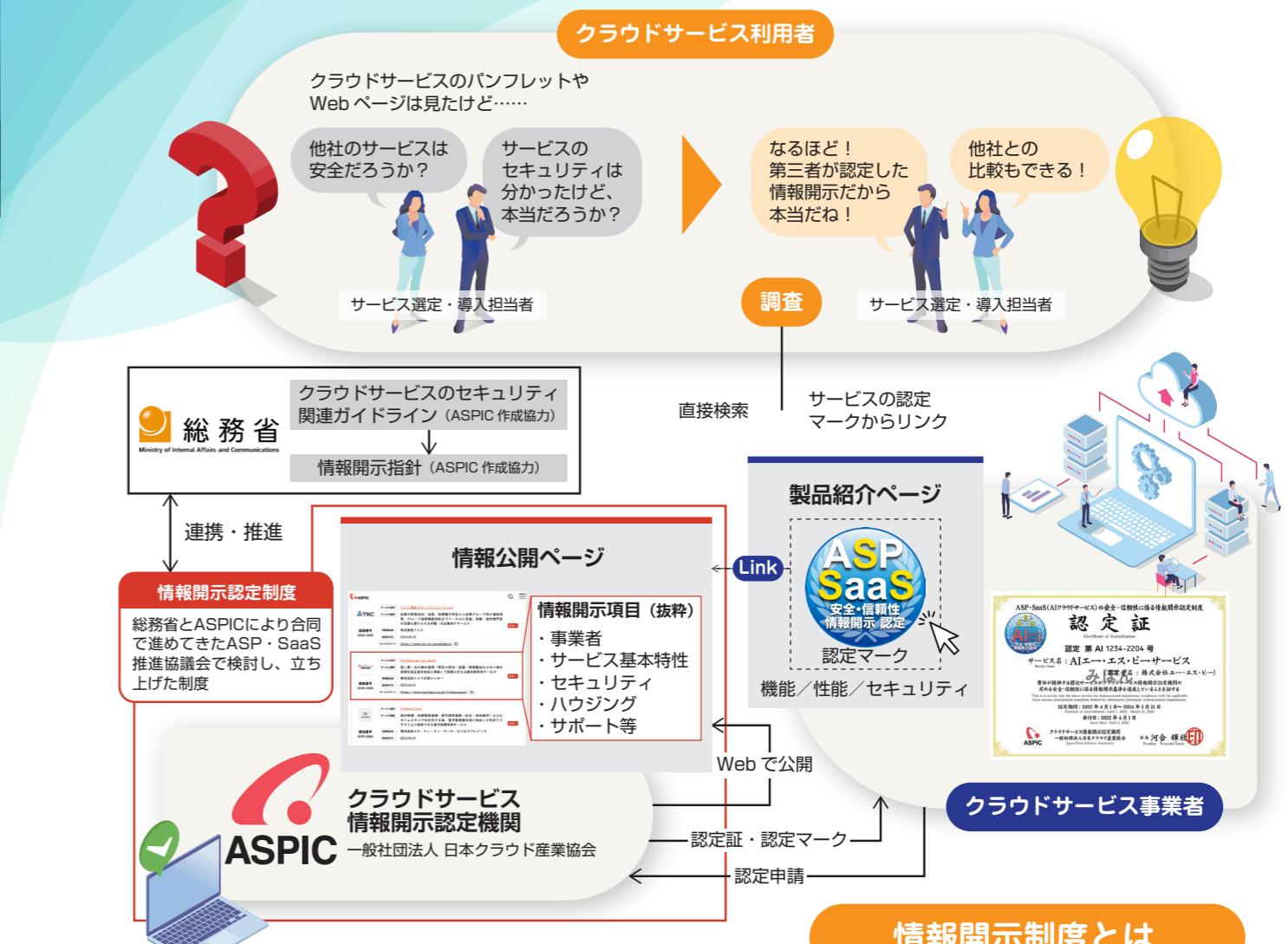
2012年まで総務省でモバイル、セキュリティ、情報流通などの政策立案や技術開発業務に従事。2012年から2017年、東京大学特任教授として、IoT/データ活用によるビジネス革新や価値創造について研究。2016年から2019年、一般社団法人情報通信技術委員会で、標準化推進業務に従事。2019年から2025年、早稲田大学教授として、研究マネジメント業務に従事。現在は、コンサルティング活動の他、東京観光財団「東京都次世代型MICE推進会議」委員、スマートIoT推進フォーラム「IoT価値創造推進チーム」リーダー、日本棋院理事などとして活動。

※4 「6本柱」……ASPIICが活動する上で掲げている6つの指針。従来は「5本柱」だったが、2025年に「6本柱」となった

※5 「ASPIICクラウドサービス検定」……ASPIICが主催する、クラウドの基本から応用までを体系的に学び、確かな知識として身につけることを目的とした資格制度

『情報開示認定』で自社サービスの安全安心をアピール

クラウドサービスの安全・信頼性に係わる情報開示認定制度



総務省の情報開示指針をもとに、情報開示認定機関ASPIICが行う、クラウドサービス提供者が安全性や信頼性に関する情報を適切に開示しているかどうかを評価し、認定する制度です。利用者はサービスの安全性や信頼性について第三者が認定した開示情報をもとに、より安心してクラウドサービスを選ぶことが可能となります。

SaaS利用者の44%は情報開示認定を選定条件、もしくは選定時の参考としています。

セキュリティセンターの利用企業・組織を対象としたSaaSのセキュリティに関する情報開示、情報利用の実態調査、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）2023年7月24日より。

認定取得企業の声

▶ 第三者機関の認定マークがあることでサービスの信用が高まり、大手企業からの引き合いが増加しました。

▶ 会社のISMSの規定で、新規サービスは「情報開示認定を受けること」という規則を定めており、自社の稼働を大幅に削減できています。

▶ 認定取得に向けた説明資料の収集をすることで、情報セキュリティだけでなく、会社全体の仕組みを知ることになり、社員教育にも役立っています。

情報開示認定申請サービス募集中
詳しくは

03-6662-6854

aspic@cloud-nintei.org

お電話・メールの営業時間
9:30～17:00（土・日・祝日を除く）



ASPIIC認定

ASPICとは「共に成長してきた」という強い思いを抱いています

25周年記念座談会 ②

ASPIC理事
株式会社カナミックネットワーク
取締役会長

山本 稔

ASPIC会長

河合 輝欣

ASPIC顧問
プロパティデータバンク株式会社
代表取締役会長

板谷 敏正

プロパティデータバンク・板谷敏正氏とカナミックネットワーク・山本稔氏は、ASPICの理事として、長年組織を支えてきた存在だ。そして両氏は、ともにASPIC入会後に、自社の株式上場を実現している。いわばASPICへの参加を、自社の発展に生かした経営者なのだ。本座談会では、ASPがまだ世間一般に知られていなかった起業当時の話や、企業拡大に向けてどのようにASPICを活用したか、そして今後の組織への提言など、忌憚のない意見をお聞かせいただいた。

ASPビジネス黎明期 その可能性にかけて起業

河合 本日は、ASPICの活動に長くご尽力いただき、さらに創業者としてご自身の会社を牽引してきた、お二人にお集まり願いました。板谷顧問の「プロパティデータバンク株式会社」と、山本理事の「株式会社カナミックネットワーク」は、ともに2000年創業。1999年に設立されたASPICとは、ほぼ同じ時期に歩みを始められています。両社はその後も順調に成長を続け、カナミックネットワークは2016年に東証マザーズへ上場、2018年には東証第一部への市場変更を実現しており、プロパティデータバンクは2018年に東証マザーズへの上場

をはたされました。この座談会では、こうした成長の歩みとASPICとの関わりについて、お話を伺ってまいります。ではまず、板谷顧問から当時のお話をお願いいたします。

板谷 私は、ASPIC会員企業の代表者としては変わり種です。清水建設の出身で、IT企業出身者ではないんです。起業のきっかけは、在籍中に「社内ベンチャー制度」がスタートしたことでした。新規事業の提案が採用されると「会社が出資すると同時に、提案者自身も出資し、その事業の社長を務める」というユニークな仕組みです。そこで、私が以前から温めていた、建物管理のソリューションに関するビジネスアイデアが、「社内ベンチャー第1号」として認めら

れ、「プロパティデータバンク」を創業することになったのです。立ち上げ当初は苦労の連続でしたが、2年目ごろの、ようやく顧客が増え始めた時期にASPICと出会っていますので、以来「共に成長してきた」という思いを強く抱いています。

河合 早い時期から、ASPに興味を持っていたようですが、なにかきっかけがあったんですか？

板谷 ASPを知る前に、あるお客さまから「ソフトをインストールするたびに、不動産がある大阪まで新幹線で出張している」という話を伺ったことがあります。私はその頃から、遠方にある不動産への対応や、オーナーと管理会社の連携に、インターネットを活用できないかと

「必要性」があったからこそ生じた「ASPを使う」という流れ

考えていました。そんな時、後に共に会社を立ち上げることになる仲間から「ASP」という技術を聞き、「これなら課題を解決できる」と確信したのです。

河合 それでは、起業のきっかけは「ASPありき」だったのですか？

板谷 はい、その通りです。もともとサービスの基盤となるパッケージソフトはありましたが、お客様の声やニーズを集めた結果、「ネットとASPを活用すべきだ」と判断しました。そのため、清水建設の社内ベンチャー制度に提出した審査案も、すでにASPの形で提出していました。

山本 その当時の役員に、ASPの有効性が伝わったんですか？

板谷 意外にも（笑）、ちゃんと理解してくれました。やっぱり幹部は全国の状況を見ているので、お客様の困りごとをよく把握していたのだと思います。

山本 私も板谷顧問と同じく、IT業界出身ではなく、起業前はフリーでコミュニケーション映像のクリエイターをしていました。1995年頃から、CMで3DのCG合成が流行し始めたが、日本にはまだCGクリエイターが少なく、アメリカのクリエイターとやり取りする機会が非常に多かったです。当時、CGスタジオはテキサス州ダラスにあったのですが、東京からリアルタイムで作業内容を確認したり、CGのテクスチャーを変更することまで可能でした。「なぜ離れた場所でも、こんなことができるのだろう？」と思ったのですが、その仕組みこそASPだったのです。これが、私とASPとの出会いでした。

河合 ASPが、かなり先進的な技術であった時期に、すでに出会っていたんですね。

山本 そんな折、たまたま私は1999年に発表された「介護保険制度」の、政府広報マーケティング制作の仕事が回っていました。そこで、介護業界の勉強を始めたのですが、以前からある「施設介護」と、新しく始まる「在宅介護」の大きな違いを知ったんです。施設介護では、看護師やヘルパーさんは同じ場所にいるので、容易に被介護者の情報共有ができます。しかし在宅介護では、介護を受ける方の家に、A社・B社・C社といった別々の介護サービスが順番に訪問するため、情報共有が非常に困難になります。法律では、それらすべての会社が「被介護者の情報を共有しなければならない」と定められていましたが、当時の共有方法は、まだ電話やFAXが主でリアルタイムの変化には、とても対応できません。

河合 それでも（笑）、ちゃんと理解してくれました。やっぱり幹部は全国の状況を見ているので、お客様の困りごとをよく把握していたのだと思います。

山本 私も板谷顧問と同じく、IT業界出身ではなく、起業前はフリーでコミュニケーション映像のクリエイターをしていました。1995年頃から、CMで3DのCG合成が流行し始めたが、日本にはまだCGクリエイターが少なく、アメリカのクリエイターとやり取りする機会が非常に多かったです。当時、CGスタジオはテキサス州ダラスにあったのですが、東京からリアルタイムで作業内容を確認したり、CGのテクスチャーを変更することまで可能でした。「なぜ離れた場所でも、こんなことができるのだろう？」と思ったのですが、その仕組みこそASPだったのです。これが、私とASPとの出会いでした。

山本 その当時の役員に、ASPの有効性が伝わったんですか？

板谷 意外にも（笑）、ちゃんと理解してくれました。やっぱり幹部は全国の状況を見ているので、お客様の困りごとをよく把握していたのだと思います。

山本 私も板谷顧問と同じく、IT業界出身ではなく、起業前はフリーでコミュニケーション映像のクリエイターをしていました。1995年頃から、CMで3DのCG合成が流行し始めたが、日本にはまだCGクリエイターが少なく、アメリカのクリエイターとやり取りする機会が非常に多かったです。当時、CGスタジオはテキサス州ダラスにあったのですが、東京からリアルタイムで作業内容を確認したり、CGのテクスチャーを変更することまで可能でした。「なぜ離れた場所でも、こんなことができるのだろう？」と思ったのですが、その仕組みこそASPだったのです。これが、私とASPとの出会いでした。

河合 ASPが、かなり先進的な技術であった時期に、すでに出会っていたんですね。

山本 その通りで、「離れた人同士をつなげる」ことが必要だったからです。

板谷 山本理事の会社と弊社では、「ASPの構築と起業が同時」というのも共通点です。

山本 しかし創業当時、介護事業の経営者に「このサービスは、インターネット越しに動くASPという仕組みで提供されます」と説明しても、「何を言っているの？」という反応ばかりで（笑）。最初は、閑古鳥が鳴いていました。

板谷 たしかに当時のユーザには、ASPサービスに「利用料を支払う」という考え方自体が、まだありませんでしたね。

山本 買い切りやリースが主流で、「サブスクリプション」という概念は、ほとんど存在していませんでした。

板谷 お客様の会社としても、技術料でもなくレンタル料金でもないため、「会計処理として認められない」という時代でした。まさに、「世の中の壁と戦っている」ような感じでしたね。営業をしても、お客様はなかなか電話に出てくれないですし……。

山本 そのような状況が続いていましたが、私の場合は、「命に関わることなのに、電話やFAXだけで連絡していくは、とても対応できない」という認識が、徐々に業界全体に広まつたことが、ビジネスにつながりました。また、問題を解決する手段として理解されると、専門職の方々は熱心にそのサービスを求めることが分かり、「専門職向けマーケットは大きい」と実感するようになりました。例えば、ある地域のナースのリーダーに、サービスの利点を説明したところ、「これが欲しかった！」と強い反応が返ってきたことがあります。さらに、その方が医師会の先生にサービスを紹介



／2008年」のアワードに、自社サービス「@プロパティ」を応募しました。2008年1月25日に開催された表彰式に臨んだのですが、その進行がドキドキで、当日まで、賞は一切発表されないんですよ。式の最後まで弊社の名前が呼ばれないで、「どの賞も取れなかったのかな」と思っていて（一同笑）。

河合 そうでしたか（笑）。当日まで発表しない形式は、今でも同じです。

板谷 結果的には、「不動産分野に特化し、資産管理面でのデファクトになりつつある」点をご評価いただき、弊社が総合グランプリを取ることができました。その時は、本当にびっくりしましたが、河合会長は表彰のときに、小声で「スピーチの時、ちゃんと宣伝をしてね！」とアドバイスまでくださり、「クラウド業界の会社に対して、親心で接しているんだな」と、ありがたく思ったのが今でも記憶に残っています。

河合 カナミックネットワークさんがASPICに入会されたきっかけについても、お聞かせいただけますか。

山本 最初のきっかけは、ASPICのご担当者が弊社に営業で来られたことでした。

河合 当時の御社は、五反田に本社があって、ASPICの事務所とも近かったですね。

板谷 すばり、弊社サービスの認知度向上のため、ASPICクラウドアワードの「表彰狙い」でした。2006年の、初代総合グランプリを「Salesforce」が取っており、最新の優れたサービスを正当に評価する、すごい賞だと感心していました。私たちも「絶対にこのアワードの総合グランプリがほしい！」と思ったんです。すぐに加盟して、「第2回2007

してくれたことで、地域の訪問看護ステーションの多くが、私たちの顧客なったケースもあるんです。これは私の体験ですが、他の多くのサービスも同じような過程をたどることで、ASPという仕組みが少しずつ理解されていったのだと思います。

河合 板谷顧問の会社は、ASPが社会に十分認知されていない時期を、どのように乗り越えたんですか？

板谷 当時、不動産業界ではオーナーと管理会社がようやく連携を始めた段階でしたが、私たちはさらにその上流を狙い、不動産ファンドのJ-REIT^{※1}にサービスを売り込みました。同社は、不動産市場に投資しているため、「ここでサービスが採用されれば、J-REITが関わる物件のオーナーや管理会社にも広がる」と考えたからです。J-REITの幹部に仕組みを説明したところ、「情報がすべて見えるようになるのは素晴らしい」と評価され、採用が決まりました。この戦略は成功し、J-REITの下の層にいるユーザーも自然と利用するようになったんで

す。その後も、私たちは業界のトップに近い企業や、官公庁などに直接アプローチするため、足を棒にして営業を回りました。幸い、多くのお客さまは、すでに「ASP」という言葉を知っており、「これからはASPの時代だ」と応援してくれたのも大きな支えになりました。それでも、事業が軌道に乗るまでには結局3年ほどかかりましたが。

それぞれ目的が異なったASPIC参加の「きっかけ」

河合 プロパティデータバンクさんは、何がきっかけでASPICに参加されたのでしょうか？

板谷 すばり、弊社サービスの認知度向上のため、ASPICクラウドアワードの「表彰狙い」でした。2006年の、初代総合グランプリを「Salesforce」が取っており、最新の優れたサービスを正当に評価する、すごい賞だと感心していました。私たちも「絶対にこのアワードの総合グランプリがほしい！」と思ったんです。すぐに加盟して、「第2回2007

「総務省と連携を取っている団体」であることが、大きなアピールに

※1 「J-REIT」……2001年に上場された、不動産投資法人。投資家から集めた資金で、オフィスビルや商業施設、マンションなど複数の不動産などを購入し、その賃貸収入や売買益を投資家に分配する、投資信託の一種

ASPICで出会った企業の技術を自社サービスに活用しています

「ASPICは総務省と共同で活動している団体です」「会長は、元NTTデータの副社長です」という話をすると、すぐに弊社のサービスの安全性を納得していただけました。その当時は、まだ情報開示認定制度は立ち上がっていませんでしたが、ASPICに入っていること自体が、大変な信頼性につながったんです。

河合 医療関係のガイドラインを作るときに、日本医師会にも入っていただいたこともあり、ASPICのことをご存じだったのだと思います。

山本 それに加えて、やはり総務省と緊密な連携を取っている団体というのも、とても大きなアピールになったのでしょうか。

安全のアピールと広告効果でクラウド企業を支えるASPIC

板谷 私は、アワードのみならず「情報開示認定制度」も、ASPICの重大な役割だと考えています。ユーザの「ASPIに情報を預けると、流出したりして危ないのでは？」という懸念を拭い去るために、大変有効な制度だからです。

山本 「業界団体を通じて、ちゃんと情報を開示している」という部分が、企業の信頼につながります。サービスの提供側に自信がなければ、そもそもそのような行動は取りませんので。

板谷 サービスをプレゼンするときも、まずそこをアピールできるのは大きいです。ASPIが総務省と連携して、この制度の推進やガイドラインの策定を進めることもあり、世の中も、「クラウドの方が安全」という風潮に変わっていきました。特に、東日本大震災の時には、「会社のPCは使えなくなったが、クラウドでデータを取り出せた」というケースも

多くありましたね。今や、データセンターの方が頑丈ですから。

山本 実は、東日本大震災で被災された、東北の大きな介護事業者が、弊社の顧客でした。介護事業は半年に一度、役所の監査に、紙とデータの両方でエビデンスを出さないといけないんです。しかし、その事業所が津波でさらわれてしまい、紙が全部流されてしましました。そこで、うちの会社でクラウドのデータを全部プリントアウトし、その会社の社長さんにお渡しした時は、大変感激していただきました。さらに、そのことがニュースになり、介護業界に弊社のサービスが一気に浸透したんです。もちろん震災は大変な悲劇ですが、クラウドが「社会インフラ」として、認識されるきっかけになった側面はありますね。

板谷 そして、インフラである「ASPという存在自体を社会に浸透させていく」という意味で、サービスに対して「アワードで広告効果」を「情報開示認定制度で信頼性」を後押ししてくれる、ASPIの活動は、業界全体にとって大き

な意義があるものだと考えています。

クラウドのベンチャーが集まる日本で唯一の団体

河合 冒頭で触れましたように、プロパティデータバンクさんもカナミックネットワークさんも、ASPIにに入って数年後に上場を果たされています。そこまで会社を成長させるにあたり、「ASPIへの入会」がプラスに働いた点がありましたら、ぜひお聞かせください。

板谷 先ほど話題に出た、「ASPIクラウドアワード」も「情報開示認定制度」も、実は入会しなくても利用できるものですね。しかし、入ったことで「さまざまな分野のASP企業と知り合えた」のが、自分としては大きかったです。弊社と同分野の、建設・不動産分野の企業との連携や、カナミックネットワークさんのような医療・福祉分野、勤怠管理などのまったくの異分野でASPサービスを扱う企業とも、意見交換を行いました。皆さん「いかにして黒字化していくのか」とか、「どうやって信頼を得ていくの



か」などの、同じような悩みを抱えていて、それを相談できるんです。ASPICの内部でいろいろな活動をすることで、そのような企業と切磋琢磨できた点も、非常に良かったと思っています。

河合 当初から、セミナーや研究会などを、頻繁に開催し、会員同士の接点を増やそうとしていました。

板谷 他のベンチャーの会合でも、確かにいろいろな企業とは出会えます。しかし、ASPICには、クラウドのベンチャーが集中しているのが大きいですね。この部分は、日本で唯一の団体だと思っています。

河合 山本理事はいかがでしょうか？

山本 交流会に参加すると、社会的な課題を認識して、これからニーズをつかんでいる方とか、面白い技術を持っている方とか、いろいろな会社の方と出会えますので、私としてもなるべく参加するようにしています。実際に弊社でも、ASPICで出会った会社の技術を、サービスに活用している事例もありますね。

河合 それから、長年、ASPICの理事として活躍していただきましたが、その活動で、特に心に残っているものはありますか？

板谷 私は、自分が関わったシンポジウムが印象に残っています。2009年から4回ほど開催した「建設・不動産シン

ポジウム」では、200人ほど集めて分科会を行ったりしました。集客もけっこ苦労して、ご迷惑をおかけした面はありました。リモートやウェビナーがある現在でも、やはり「対面で合う」というのが重要だと思っています。私も、当時、シンポジウムで名刺交換をした、建設・不動産系のASPサービスの会社と、今でも情報交換を続けております。

生成AIの一般化に伴う 事業モデルの懸念点とその展望

河合 ASPICは、AI分野に比較的早い段階から取り組み、ガイドブックの作成や、情報開示認定制度における「AIクラウドサービス認定」の設置など、積極的に活動してきました。とはいっても、近年急速に進化する生成AIについては、ASPICとして事業者の皆さまをどのように支援できるのか、常に模索しています。そこで参考のためにも、実際にAIをどのように活用しているかを、お聞かせください。

山本 弊社では、「介護AISaaS」というキーワードのもと、介護サービスの生産性を、飛躍的に高めるAIの開発を進めています。今年中に、機能ごとに特化したAIを、合計100種類完成させる予定です。その成果の一例として、これまで作成に3日かかっていた、毎月提出



来るべき30周年を前に ASPIC取るべき方向性は

河合 それでは最後に、ASPICの現況や将来の活動に対する、ご助言ご提言をいただけますか。板谷顧問には、大学で若い世代を教えていらっしゃるお立場から

必須の「訪問看護報告書」が、AIを活用することでわずか1時間で作成できるようになりました。日々蓄積してきたデータを、AIが自動的に整理する仕組みで、ユーザの皆さんから「感動しました！」という声を数多くいただいています。

河合 そのような素晴らしいサービスが生まれる一方で、私には懸念もあります。それは、AIの一般化が進んだことで、「情報を整理する機能は、AIを使って自前で作るので、預けたデータだけ返してほしい」という利用者が出てくるのではないか、という点です。そうなると、せっかくのサービスの価値が十分に発揮されず、事業者の収益も思つては伸びないので、と懸念しています。

河合 この点については、どうお考えですか。

板谷 「搖るぎない根幹のビジネスモデル」を持っている企業であれば、心配ないと思います。弊社の場合、テナント契約やビルの管理情報と会計処理をつなぐ仕組みがあり、このコアの部分は、他社にはまねできません。周辺にAIが入り込んできたとしても、基本のフレームがしっかりしていれば、問題はないと考えています。

山本 それに、ChatGPTなどのAIツールを使うにしても、実際に有効活用できる事業者は限られています。介護業界で、訪問看護ステーションの事業者の多くにとって、自前でシステムを構築したり、全体を設計したりするのは難しいタスクでしょう。私たちとしては、既存の仕組みにAIを組み込んで提供しているため、現時点では大きな心配はしていません。

ASPICは「常に新しいこと」に チャレンジする団体

のお考えも伺いたいと思います。

板谷 学生と交流して、知恵を借りるのも良いかもしれません。私たちはASPから始めて、さまざまな苦労を経て今のクラウドにたどり着きましたが、彼ら彼女らはクラウドをネイティブに使いこなしています。それに、AIやデータサイエンスも、日常的に活用している世代です。そんな学生たちから、新しいヒントをもらえるかもしれません。ところで、ASPICって、クラウドサービス比較サイト「アスピック」をはじめとして、いつも新しいことにチャレンジしていますよね。それがちゃめっ気があるというか（笑）、業界団体自身が事業をやって、それが実を結んでいる部分は、面白いと思っています。

河合 ASPICの事業としては山本理事に協力していただいた「インターライ^{※2}」を初期の試みとし、その経験も生かして「アスピック」を運営しています。現在、「アスピック」にサービスを登録

している事業者は約600社、ユーザは3万人ほどおります。この利用者の一部を、会員無料の「ユーザー会員」として新たに加え、ASPICを「事業者と利用者が一体になった団体」にすることが、現在の大きな目標です。

板谷 「アスピック」のユーザも、ASPICに取り込むわけですね。

河合 今年から「ASPICクラウドサービス検定」という、初心者にも対応する検定制度を始める予定です。例えば、ユーザー会員企業の新人社員向け研修などに使って、クラウドリテラシー向上に役立てていただければと思います。これも、ASPICの活動がクラウド業界を盛り上げ、その結果としてASPIC自身のプレゼンスも向上するという、「シナジー効果」の一端です。

山本 私は、「未来」がキーワードだと思っています。また、生活を変える「デバイスの進化」にも注目しています。ASPIC誕生からの25年を振り返ると、



プロフィール●いたや としまさ

1989年 清水建設株式会社入社
2000年 清水建設の社内ベンチャー制度を活用しプロパティデータバンク株式会社設立、代表取締役社長に就任
2018年 東京証券取引所マザーズ市場へ上場
2021年 株式会社丹青社社外取締役就任（現任）
2022年 プロパティデータバンク株式会社代表取締役会長に就任（現任）
2022年 早稲田大学理工学部上級客員研究員就任
2023年 早稲田大学大学院創造理工学研究科客員教授就任

当時はガラケーが主流でしたが、やがてiPhoneなどのスマートフォンが登場しました。今後は、進化したスマートグラスなどが、一世を風靡する可能性もあります。こうしたワクワクする未来についての議論を活発に交わし、クラウドサービスを提供する事業者だけでなく、例えば未来のデバイスを開発する企業も参加してくれれば、ASPICはさらに面白くなると思います。

河合 お二人には、本日も貴重なご意見を賜り、心より感謝申し上げます。参考にしつつ、これからも活動を進めてまいります。今後、ASPICがさらに新しい取り組みを展開していくにあたり、間もなく創立30周年を迎える仲間としましても、引き続きお二人のお力添えをお願いできれば幸いです。本日は誠にありがとうございました。



プロフィール●やまもと みのる

2000年 株式会社カナミックネットワーク設立、同社代表取締役社長
2007年 同社取締役会長（現任）
2010年 特定非営利活動法人 ASP・SaaS・クラウドコンソーシアム理事
2014年 株式会社SHO 代表取締役（現任）
2019年 株式会社ネクサスホールディングス取締役（現任）
2022年 一般社団法人日本クラウド産業協会理事（現任）

※2 「インターライ」……NPO法人インターライ日本が保有する、介護ケアアセスメントの国際標準方式。ASPICは2012年から、介護ソフト事業者支援の一環として、インターライ方式によるクラウドサービスの提供を支援している

理事・役員からの言葉 (ASPIC役職就任順)



25周年功労表彰

執行役員
株式会社ユー・エス・イー
代表取締役会長

吉弘 京子

ASPIC 25周年に寄せて

一般社団法人日本クラウド産業協会の創立25周年、心よりお祝い申し上げます。この四半世紀にわたり、当協会はクラウドサービスの普及と発展において、政府やIT業界をはじめ、多くの利用者にとっても欠かすことのできない存在へと大きく成長されました。その歩みは、まさに時代の潮流を的確に捉えた河合会長の先見性と卓越したリーダーシップ、そして情熱を持って尽力されてきた事務局の皆様や会員の方々の努力の結晶であると深く敬意を表します。

特に、創立以来、困難または苦しい時期も多々ありましたが、河合会長の強い使命感とバイタリティにより、それらを乗り越え、協会を着実に発展させてこられたことに改めて敬意を表します。

クラウド技術が社会やビジネスの変革を促す中、当協会が果たしてこられた役割は計り知れません。安心・安全なクラウド環境の構築や最新技術の普及啓発に尽力され、多くの企業や組織がデジタルトランスフォーメーションを加速させる礎を築いてこられました。その成果は日本でのIT産業の競争力向上に大きく寄与していると確信しております。

私自身も、微力ながらこれまで皆様の活動に触れ、多くの学びと刺激をいただいてまいりました。今後も協会のさらなる発展と、クラウド産業全体の健全な成長に貢献できるよう、誠心誠意努力してまいります。

改めまして、25周年の節目を迎えたことに心からの敬意と祝福を申し上げるとともに、今後のますますのご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



25周年功労表彰

理事
協栄 IT & ビジネスサービス株式会社
代表取締役副社長

小田島 労

継続は力なり—ASPICと共に歩んだ20年

河合会長からのご依頼を受け、ASPIC理事に就任した2005年以来、何らか世のため人のためお役に立てることがあるだろうと思ってASPICの活動に携わってきました。

右肩上がりだけの成長ではなかったが、ASPICは今や日本クラウド産業協会という日本を代表する業界団体となった。これは業界の発展を心底から願う会長の情熱やそれに賛同し協力を惜しまない会員企業、関係省庁、事務局スタッフの努力がこの四半世紀、消えることなく続いているからだと思う。

私自身も前職のNTTデータ経営研究所在職時は、公募事業の受託に向けた提案活動やイベントによるPR活動など頼まれては引き受けました。全理事への依頼事項ではあったが、現職の協栄IT&ビジネスサービスで顧問をしている会社に会員になるよう勧めたりして依頼に応えてきた。

こうしてみるとASPICの今があるのは、「継続は力なり」で関係者全員が努力の灯を消すことなく、活動を続けてきたからであり、私自身もここまで付いて来ることができたのは「ご依頼とお誘いは断らない」という自身の信条に基づいて行動してきた結果だと考えている。

この継続の精神でASPICがますます発展していくことを願う。



25周年功労表彰

理事
株式会社ネオレックス
代表取締役社長

駒井 拓央

中小クラウドベンチャーを育む ASPIC

2008年にクラウド勤怠管理システム「キンタイミライ」（当時のサービス名は「バイバイ タイムカード」）がASP・SaaS・ICTアウトソーシングアワード2007/2008で、バックオフィスアプリケーション分野グランプリをいただいたところから、私のASPICとのご縁がはじまりました。

緊張して臨んだ最終プレゼンで、よい部分を引き出そうとするような審査委員の皆さんからの質問に、クラウド事業者への愛情のようなものが感じられ、とても温かい気持ちになったことを覚えています。

それから17年、歴史を重ねてもASPICに関わるみなさんのクラウド事業者への思いは変わっていません。

そしてそのクラウド事業者への思いは、私自身も同じです。

大企業から参加されている方の多いASPIC理事陣の中で、ネオレックスというベンチャー企業を経営している私は、まだまだ自分たちの事業を成長させていかなければならない立場ではありますが、今は少しでも日本のクラウドベンチャーが成長し活躍するお手伝いができたと思っています。

微力ではございますが、25周年を迎えたASPICと共に、今後特に中小ベンチャー企業のクラウド事業の発展に寄与していけたらと考えていますので、お気軽なご相談やご協力をいただけたら幸いです。



25周年功労表彰

理事
コクヨ株式会社
経営企画本部 イノベーションセンター
シニアスペシャリスト

山崎 篤

ASPIC 25周年に寄せて

この度は、ASPICが創立25周年という節目を迎え、理事の一人として、この記念すべき時に立ち会えることを大変光栄に思います。

私は、2004年より、提供ベンダー側としてクラウドの普及に尽力してまいりました。当初、「インターネット経由でソフトウェアを利用する、データを外部に預ける」という概念が受け入れられず、まずその利便性と安全性を説明してから、提供サービスの内容に入るといった日々が思い出されます。一方で、自分が所属するコクヨ株式会社は、お客様と同じくクラウドを「利用する」ユーザー企業でもあります。提供者としてその可能性を信じると同時に、利用者としてその恩恵を実感し、ビジネス変革を推進してきました。この両方の立場からクラウドの発展を体感できることは、私の大きな財産です。

この二つの視点を持つからこそ、クラウド提供者側の論理だけでは、真のDXは成し得ないことを体感しております。今やクラウドは社会インフラとなり、生成AIの活用など、その重要性は増すばかりです。ASPICには、クラウド提供者と利用者の架け橋となり、双方にとって価値のあるエコシステムを構築する中心的役割を期待しています。業界の羅針盤として、新たなビジネスモデルやデータ利活用のガイドラインを主導していただきたいと願っており、微力ながら理事としてそのお手伝いができるることを光栄に思います。



25周年功労表彰

理事
スパイナル株式会社
戦略アドバイザー

藤井 博之

ASPIC 25周年史編纂にかかる寄稿につきまして

本法人が創立25周年を迎えたこと、心よりお祝い申し上げます。設立当初、インターネットの普及がまだ一般にはなじみのない時代から、「安全・安心なクラウドの普及」と「利用者と事業者の架け橋」を掲げ、業界の発展に尽力してこられました。その歩みの中で、理事として16年余り関わせていただき、多くの方々とともにクラウドの信頼基盤を築く活動に携われたことを誇りに思っております。

この25年で、クラウドは社会インフラとして定着し、AIやデータ連携、DXの推進など新たな価値創造の中心となりました。今後は、生成AIの活用やセキュリティ・ガバナンス強化、さらには公共分野・中小企業分野への浸透が一層求められます。本法人が引き続き、業界の知見とネットワークを結集し、社会に信頼されるクラウドエコシステムを支える存在であり続けることを期待しております。

創立25周年を節目に、関係各位のご尽力に深く敬意を表し、さらなる発展を心より祈念申し上げます。



25周年功労表彰

理事
合同会社三笠ポリシーアドバイザリ
代表社員

三笠 武則

成長期の早い段階で社会普及を支えた ASP / SaaS の安全・信頼性

私がASPICと関わったのは2008年の夏頃からでした。その頃はまだ「クラウド」という呼び名が普及しておらず、「ASP/SaaS、PaaS、IaaS」と呼んでいました。新しいシェアリングサービスが社会で安心して利用されるためにはサービスの安全・信頼性が重要ということで、2008年の秋から冬にかけて総務省が「ASP/SaaSにおける情報セキュリティ対策ガイドライン」の策定を進めており、私はこの研究会の事務局を担当しました。その頃はJIS Q 27001:2006が公開されて根付き始めた時期でしたが、ASP/SaaSに関しては規範となる標準指針がまだ存在しておらず、ゼロからのスタートで試行錯誤を尽くしてガイドラインの文面を執筆してきました。その時は塗炭の苦しみでしたが、後のクラウドサービスの広範な普及に少しでも契機を与えることができたとしたら、努力が一定程度報われたものと考える次第です。その後、クラウドサービスはIoTやAIを取り込んで大きく成長しました。私自身はIoTを用いたクラウドサービスの情報セキュリティ対策指針をまとめる初期段階まで関わましたが、それ以降は現在の執行役員の皆様に着実に成果を積み上げていただきました。クラウドサービスの安全・信頼性はASPICの伝統と言えますので、これを引き継いで拡大していただいだ皆様に心より謝意を表します。



25周年功労表彰

常務理事
株式会社 NEUGATE
社外取締役

村松 充雄

ASPICのこれまでとこれから

1.クラウド前夜 (ASPICの源流)

ASPIC創設の原点は河合会長が電電公社時代に取り組んだ「公衆データ通信システム（販売在庫管理システム）」が、機能面からみて、今をときめく「AIエージェントクラウド」そのものだったことにあつたと思います。このシステムは1996年にサービス終了しましたが、まさにその頃からASPの時代が始まりました。

2.ASPIC25年の歩みはクラウドの歴史と不離一体

ASPICは、クラウドの歴史とともに歩み、名称変更してきました。
①ASP時代（1990年代後半から2000年代前半）→ASPインダストリコンソーシアム
②SaaS黎明期（2000年代半ば）→SaaSを追加（2008）
③クラウドプラットフォームの登場（2006から2010年代前半）→クラウド追加（2011）
④現代クラウド時代（2010年代後半から現在）→IoT・AIを追加し現在の社団法人（トランクスフォーマーが2017年に出現）日本クラウド産業協会へ（2020）

3.これからのクラウドとASPIC

これからのクラウドの進展は、短期的には既存業務SaaSにAIエージェントが付与されるSaaS型AIエージェントが急速に普及し、中期的にはAIエージェントクラウドの登場となりクラウド上で業務プロセス全体を自動化する動きが本格化すると思われます。そんな中、ASPICとしては、一貫性の不安や暴走リスクのないAI業務クラウドプラットフォームを会員の皆様方が安心してお使いいただけるための施策を展開できればいいなと考えております。



25周年功労表彰

理事
株式会社カナミックネットワーク
取締役会長

山本 稔

ASPIC25周年に寄せて

ASPIC25年の歴史を振り返り、当社の起業も2000年であったことから、ほぼ同時期のスタートがありました。当社の対象とする業界が「介護・医療・福祉」の業界向けのASPサービスとしてスタートしたことから、まだアナログ的業務が主体な業界環境でなかなか顧客の獲得もままならない時期でもありました。そんな折にASPICと出会い、多くの同業者が大中小企業で存在していることに強く感銘し勇気を頂きました。

河合会長より早い段階で理事就任を依頼され、少しでも業界に溶け込もうと我々に関わってきました。貢献できたのかどうかまだ結果も出ていませんが引き続き時代の本質を見極めながらお役に立てればと思っております。クラウドサービスというものの付加価値は「革新性と創造性」にあります。新しい技術や若い力に期待しながら業界を強くしていって欲しいと願っています。そして早25年です。当社も創立25周年を迎え、今後の業界の発展に期待しています。今後においてもスタートアップ企業含め、新しい試みと挑戦を感じられる役割を担ってほしいと思います。今後の若い力の躍進に期待しております。



執行役員
株式会社内田洋行
ガバメント推進事業部
上席執行役員 事業部長

木内 麻文

25周年功労表彰

これからも ASPIC の活動に期待しております！

ASPIC (アスピック) という名前は変わらないけれど、日本語の法人事名は情報技術の進展とともに幾度となく変更されてきました（現在は日本クラウド産業協会）。このことからも分かるように、常に時代の先端技術を意識し、日本の情報産業の発展に尽力されてきました。私も自分が所属する会社で最先端の技術を取り入れビジネスを開拓できることは、まさにASPICと関わることができたからだと感謝しております。その意味で、どこの会社にも属さないASPICの存在は日本の情報産業の中心にいたものと認識しております。ただ、現在の日本の情報産業は米国・中国を中心とする諸外国に押され後れをとっているのも事実です。デジタル赤字が6兆円を超えるとすると現在、ASPICの役割はますます大きいものになっていくものと思います（大きくならなければ格差はますます広がっていくでしょう）。25年という長きに渡り情報産業の中心にいた知見・ノウハウは必ず日本の情報産業の復興に大きな役割を担っていると思いますので、今後もこの国の情報産業を引っ張っていただくよう期待しております。



常務理事
株式会社セールスフォース・ジャパン
取締役 副社長

伊藤 孝

25周年功労表彰

ASPIC 25 周年に寄せて

ASPIC設立25周年、誠におめでとうございます。

1999年の創設以来、クラウドサービスの健全な普及と発展に尽力され、我が国のICT産業の進化を力強く牽引されてきたことに、深く敬意を表します。ASPからSaaS、そしてクラウドへと技術とビジネス環境が大きく変化する中で、ASPICは常に時代を先取りし、産官学の連携を促進するとともに、事業者の信頼性向上や利用者保護に取り組み、日本社会のデジタル化を支えてこられました。その歩みは、国内におけるクラウドサービスの普及・発展の歴史そのものであります。

またASPICと同じ1999年に創業したセールスフォースも、クラウドを軸とした新しいビジネスのあり方を切り拓き、ともに成長の軌跡を刻んでまいりました。これから25年に向け、セールスフォースはASPICとの連携をさらに強化し、日本企業のDX推進、生成AIやデータ活用による新たな価値創造を共に実現してまいります。パートナーとして歩みを共にしながら、持続可能で豊かなデジタル社会の実現に貢献できるよう、全力を尽くしてまいります。

ASPICのさらなるご発展を心より祈念申し上げます。



理事
エムシーディースリー株式会社
デジタルプロダクトカンパニー
カンパニー長付

富加見 順

25周年功労表彰

クラウド・AI が拓く日本の未来
～設立 25 周年に寄せて～

一般社団法人日本クラウド産業協会が設立25周年を迎られましたこと、心よりお祝い申し上げます。長年にわたりクラウド産業の健全な発展を牽引され、社会や産業界の進歩に大きく寄与されてきた歩みに、深い敬意を表します。

私と本協会とのご縁は、2007年に株式会社ネクスウェイに在籍していた折、会員として活動に参加させていただいたことに始まります。その後、現在の会社に移り2019年より理事を務めさせていただいておりますが、多くの皆さまと協力しながら協会活動に携わる機会をいただいていることに、あらためて感謝申し上げます。

近年、さまざまな業種や業界において人材確保が大きな課題となっています。その解決策の一つとして、ITの利活用による生産性向上は極めて重要であり、とりわけSaaSやAIの普及と活用の拡大は今後ますます取り組むべきテーマであると考えております。その意味において、当協会が担う役割はこれまで以上に大きく、社会に果たすべき使命はますます重要な意味であります。

この節目を新たな出発点として、私自身も理事の一人として微力ながら力を尽くし、会員の皆さまと共にクラウドサービスのさらなる発展に貢献してまいりたいと思います。



監事
株式会社NTTデータ アイ
ビジネス推進室
部長代理

御幡 徳宏

ASPIC25周年に寄せて

ASPIC創立25周年、謹んでお祝い申し上げます。

四半世紀にわたり、クラウドサービスの健全な発展と信頼性向上に尽力され、日本のICT産業を牽引してこられたASPICの歩みは、まさに我が国のデジタル社会の礎を築く偉業であります。

この歩みを力強く導かれた河合会長の卓越したご指導に、深甚なる敬意を表しますとともに、日々の運営を支え続けてこられた理事・事務局の皆様の献身的なご努力に心より感謝申し上げます。

弊職とASPICの接点は、1999年ASPIC創立時のNTTデータ社内での祝賀会に始まり、時を経て2020年より監事を拝命、微力ながらASPIC運営に携わっております。

デジタル社会の進展とともに、クラウドは今や社会インフラとして不可欠な存在です。ASPICが果たす役割はますます重要性を増し、次の10年、20年に向けて新たな価値創造の中心となることを確信しております。

未筆ながら、ASPICの一層のご発展と皆様のご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



理事
一般社団法人企業間情報連携推進
コンソーシアム事務局
アドバイザー

稻葉 慶一郎

25周年功労表彰

ASPIC25周年に寄せて

1.これまでのASPICとの関わり

元々はASPIC設立時に、斜め上の上司日立製作所の茶木氏が関わっていたのを信じてきました。何年かして当時会員の日立システムズ社から、製作所は1度退会したが再度入ってほしい旨いただき参加したのが、当方の参画のきっかけです。妻（村岸）のお知り合いが多いのにはたまげました。

2. ASPICにまつわる思い出

文章で残せないほどの大変な時期を越えられたのは、ひとえに現河合会長を始め事務局含めたメンバーの方々のご苦労が実ったことからかと存じます。

3. 最新のICT事情を踏まえ、今後のASPICへ寄せる期待、提言など

技術革新サイクルが早いためもあり、世代ギャップを起こしがちなICT分野でこそ、それを乗り越えるコミュニティの核であり続けていただきたいと思います。また、グローバル動向からの後追いになり勝ちな日本では、ICT産業立ち上げ時の制度設計にも、昨今ひずみも強く顕現してきた時期だと思います。GenAI時代にいよいよ根本的に見直す必要があり、そのロビーイングも国内勢力の積極的活動の強化が必要ではと考えます。地域にしづかせがいく財政構造も然りです。それには自身も成長・変革し続けないと、と思うので、今後も多様な観点から精進・貢献したいと思います。よろしくお願ひします。



理事
NTTドコモビジネス株式会社
ビジネスソリューション本部
第二ビジネスソリューション部
ビジネスデザイン部門 担当部長

和泉 雅彦

25周年功労表彰

ASPIC 25 周年に寄せて

ASPIC25周年誠におめでとうございます！

四半世紀に渡るこれまでの歩みの中で、常に市場動向と社会要請に応じる形でいくつのステージを経ながら活動領域を広げ、河合会長の旭日小綬章の叙勲を始め、官民連携して日本のクラウド産業の発展に取り組んでこられましたこと、改めて河合会長のリーダーシップ並びに日頃よりASPIC活動の普及推進を支えてくださっている執行部、事務局各位ご尽力に厚く御礼申し上げます。

私は2017年に理事として加わって今年で8年目になりますが、当時はちょうどIoTのビジネス活用が盛んになってきた時期で、ASPICもまた新ジャンルへのチャレンジと更なる領域拡大とで、老舗艦屋の秘伝ダレのように団体名がどんどん長くなってきた時期でもありました（笑）。

これまで振り返ると、アワードでのプロモーションやAI/セキュリティ等の各種分科会活動を始め、ビジネスセミナーの企画、ガイドライン策定や官のヒアリング対応等々、通信キャリアやクラウド事業者としての知見を活かしながらいろいろと取り組んで参りましたが、中でも一番思い出に残っているのは、紹介サイト「アスピック」立ち上げの際に、SEMに最適な自社サービスを吟味し初期ラインナップサービスとして多数エンターできましたことです。この新しい試みを支え、今日のASPIC活動の源泉となるベースロードとして経営基盤の確立に少しでも貢献できたのではないか、と自負しております。

コロナ禍を経て世の中の働き方も変わり、またAI活用や社会情勢が不安定でサイバー攻撃に曝される昨今、安心安全で利用可能なクラウドサービスの推進というASPICの理念に則り、今後とも業界活性化やクラウドセントリック社会の実現に向け、官民連携して引き続き様々な提言して参りたいと存じます。河合会長並びにASPICの皆さんにおかれましては、新会社設立と新たな6本柱への更なる進化・チャレンジに向け、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



理事
三菱電機デジタルイノベーション株式会社
クラウドプラットフォーム事業
事業統括

青木 君仁

クラウド・AI が拓く日本の未来
～設立 25 周年に寄せて～

一般社団法人日本クラウド産業協会が設立25周年を迎られましたこと、心よりお祝い申し上げます。長年にわたりクラウド産業の健全な発展を牽引され、社会や産業界の進歩に大きく寄与されてきた歩みに、深い敬意を表します。

私と本協会とのご縁は、2007年に株式会社ネクスウェイに在籍していた折、会員として活動に参加させていただいたことに始まります。その後、現在の会社に移り2019年より理事を務めさせていただいておりますが、多くの皆さまと協力しながら協会活動に携わる機会をいただいていることに、あらためて感謝申し上げます。

近年、さまざまな業種や業界において人材確保が大きな課題となっています。その解決策の一つとして、ITの利活用による生産性向上は極めて重要であり、とりわけSaaSやAIの普及と活用の拡大は今後ますます取り組むべきテーマであると考えております。その意味において、当協会が担う役割はこれまで以上に大きく、社会に果たすべき使命はますます重要な意味であります。

この節目を新たな出発点として、私自身も理事の一人として微力ながら力を尽くし、会員の皆さまと共にクラウドサービスのさらなる発展に貢献してまいりたいと思います。



理事
NTTPC コミュニケーションズ株式会社
AIソリューション事業部
ソリューションデザイン部長

吉田 健

25周年おめでとうございます！

ASPIC創立25周年、誠におめでとうございます。

四半世紀にわたり、クラウドサービスの普及と産業発展に多大な貢献をされてきたことに、心より敬意を表します。ASPICの活動は、業界の健全な発展のみならず、社会全体のデジタル化推進にも大きな役割を果たしてきました。特に、クラウドの安全性・信頼性向上や人材育成、総務省など関連機関に関する政策提言など、多岐にわたる取り組みは、日本国および企業全体のDXを推進するうえで北極星のような存在だと考えます。

私どもNTTPCコミュニケーションズも、微力ながらクラウドインフラやネットワークサービスの提供を通じて、お客様のビジネス変革の一部を担ってまいりました。AIやIoT、セキュリティなど新たな技術領域との連携を強化することで、ASPICのさらなる活躍や社会的貢献の一部に寄与していきたいと考えます。

今後、ASPICが引き続き産業界のハブとして、会員企業や関係各所と接点を創造し、連携し、イノベーションの創出と社会課題の解決に貢献されることを期待しております。ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

「ASPIC クラウドサービス検定」



常務理事
株式会社 NTT データ
社会基盤ソリューション事業本部 SD & C 事業部
ビジネス企画統括部 統括部長

赤羽 宏治

AI時代における ASPIC のさらなる飛躍について

ASPICは1999年の設立以来、ASP・SaaS普及啓発をはじめとして常に最新のICTに関する普及・展開する活動を行ってきました。

今年はAIエージェント元年と言われるように、AIの本格的な活用時代を迎え、ICT分野の進歩はさらに加速すると思われます。

1000社を超える会員企業の皆さまと一丸となって、国・自治体・民間領域と多岐にわたりICTを通じた社会貢献と発展を続けるために、弊社はASPICを最良のパートナーとして、これからも共に歩み続けたいと考えています。



常務理事
株式会社 NTT データアイ
人事本部／ガバナンス本部
取締役執行役員 人事本部長 兼
ガバナンス本部長

成田 正人

ASPIC25周年に寄せて

ASPIC創設25周年、誠におめでとうございます。クラウド黎明期より、その可能性と社会的価値に着目し、普及促進に尽力されてきたASPICの歩みは、現在の「クラウドが前提となる時代」の礎となりました。1000社を大きく超える会員企業の拡大や、総務省をはじめとする関係機関からの認知・表彰に至ったことも、その成果の一端といえるでしょう。昨年8月より常務理事として参画し、理事会での議論や提言を通じて、業界の発展に微力ながら貢献できることを嬉しく思います。会長をはじめ、長年にわたり業界を牽引してきた方々との再会には、個人的にも深い感慨があります。今後は生成AIの進展に伴い、クラウド活用のさらなる高度化、そしてそれを支える人材育成が重要になると見えます。特に、技術力に加え、ビジネスをデザインできる人材の育成が鍵となるでしょう。ASPICが、国際競争力あるクラウド業界の発展に一層貢献し、より存在感のある協会となることを期待しています。



理事
株式会社 NTT データビジネスシステムズ
代表取締役社長

福西 克文

ASPIC 25周年に寄せて

ASPICの25周年、心よりお祝い申し上げます。

クラウド産業の健全な発展に向け、認定制度や情報発信を通じて社会基盤の整備に尽力されてきたASPICの歩みに、深い敬意を表します。

NTTデータビジネスシステムズは、NTTデータグループの中核SIerとして、コンサルティングからシステム開発・運用、保守までを担い、社会課題の解決に貢献してまいりました。

現在は「imforce®」ブランドのもと、人財力と技術力を融合し、より創造的な価値提供を目指しています。

近年、生成AIの進化が、さまざまな業務プロセスを根本から変えつゝあり、従来の枠を超えた価値提供が重要になっています。

こうした技術革新の中で、クラウドの信頼性と安全性を担保するASPICの活動が重要な役割を果たしています。

今後は、制度設計や人材育成、企業間連携の促進などを通じて、業界全体の持続的な成長を支えるリーダーとして、ASPICがさらなる飛躍を遂げられることを心より期待しております。



理事
株式会社 NTT データ経営研究所
金融政策コンサルティングユニット
ディレクター

田中 公義

日本クラウド産業協会への今後の期待

日本クラウド産業協会発足25周年誠におめでとうございます。

直近10年でASP、SaaS、AI、IoT等、クラウドサービスを取り巻く環境は大きく変化しています。これまで情報システムをアウトソーシングにより構築してきた事業会社は、SaaSやクラウドサービスを活用して迅速に情報システムを構築できるようになりました。生成AIの爆発的な進展等、容易に情報システムを利用、活用できる流れは今後も拡大が続くものと考えております。また、このような環境変化の中で、事業会社はクラウドサービスの利便性の享受といった利点にとどまらず、クラウドの安全性、安定性の確保、増加するサイバー攻撃への対応等、種々の課題にも直面している状況と理解しています。

日本クラウド産業協会においては、クラウドサービス提供者、クラウドサービス利用者、関連所管官庁等、幅広いステークホルダーとの関わりを持ち、クラウドサービスの普及、利用促進に向けた活動を進めています。引き続き、クラウドサービスの利用促進に向けた種々の活動を通じて、我が国情報サービス産業の発展、ひいては事業会社の競争力獲得に向けた取組を期待しています。

クラウドスキルの証明を、
あなたのキャリアに。
～今こそ「クラウドがわかる人」になろう～

ASPICクラウドサービス検定なら

- ▶ クラウドの基礎～応用を体系的に学べる
- ▶ 総務省「デジタル人材の育成ガイドブック」に準拠
- ▶ 在宅受験・60分で完了
- ▶ 合格者にはブロックチェーン認定証を発行
- ▶ 企業・自治体・教育現場など幅広く活用可能

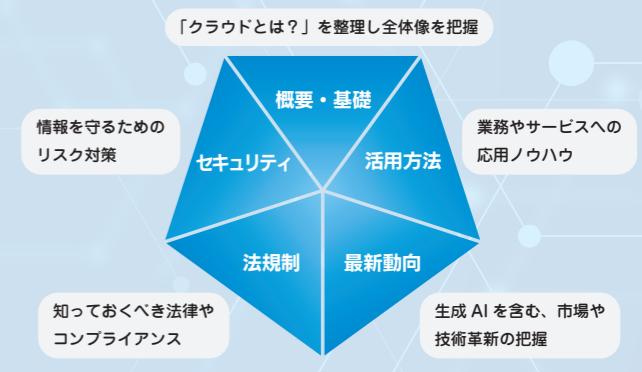
クラウドはいまや「社会の必須スキル」

クラウドはいまや、特定のIT分野に限られた技術ではありません。企業の基幹システムや行政サービス、教育現場に至るまで幅広く活用されており、私たちの日常生活に欠かせないスマートフォンアプリやオンラインサービスにも深く浸透しています。

このように社会全体において不可欠となったクラウドですが、真に活用するためには“使える”だけでは不十分です。クラウドの基本的な仕組み、セキュリティ対策、コスト管理、法規制やコンプライアンス、そして日々進化する最新動向までを幅広く理解することが求められています。

実務に直結し、基礎から最新技術までを網羅した本検定の

学習領域は下記の5つに整理されており、組織・個人の双方にとって大きなメリットのある内容となっております。



ASPIC クラウドサービス検定概要 レベル: STANDARD

試験開始	2025年11月 全国一斉スタート
試験形式	オンライン試験（自宅・職場から受験可）試験時間：60分 お好きな場所で、毎日いつでも受験可能です
出題範囲	クラウドの概要・基礎・セキュリティ・活用・法規制・最新動向
対象者	クラウド初心者、企業・自治体職員、学生、エンジニア、営業職など
受験料	13,200円（税込）※レベルにより変動予定

スタンダード本試験開始
2025年11月
全国一斉スタート



一般社団法人
日本クラウド産業協会

お問い合わせ

[公式サイト] <https://kentei.aspicjapan.com>

[公式メール] kentei@aspicjapan.org

検定運営事務局：一般社団法人日本クラウド産業協会内

功労表彰者／理事・役員名簿

氏名（敬称略）	ASPIC役職	会社名
創業期からの功労		
吉弘 京子	執行役員	株式会社ユー・エス・イー
小田島 労	理事	協栄IT&ビジネスサービス株式会社
事業展開期からの功労		
藤井 博之	理事	株式会社スパイラル
三笠 武則	理事	合同会社三笠ポリシーアドバイザリ
駒井 拓央	理事	株式会社ネオレックス
山崎 篤	理事	コクヨ株式会社
村松 充雄	常務理事	株式会社N E U G A T E
山本 稔	理事	株式会社カナミックネットワーク
村岡 元司	執行役員	株式会社N T T データ経営研究所
北村 倫夫	顧問	KIRI北村学際総研
前田 博隆	執行役員	株式会社ユー・エス・イー
永年の功労		
宇木 大介	執行役員	Ultra FreakOut株式会社
狩野 英樹	執行役員	NEOREKA ASIA Sdn.Bhd.
中山 幹公	アドバイザー	日本情報通信株式会社
木内 麻文	執行役員	株式会社内田洋行
荒牧 伸一	アドバイザー	元・日本電気株式会社
伊藤 孝	常務理事	株式会社セールスフォース・ジャパン
相曾 恵一	常務理事	富士通株式会社
寺崎 信夫	顧問	株式会社寺崎信夫技術士事務所
荻窪 雅郎	元理事	日鉄ソリューションズ株式会社
稻葉 慶一郎	理事	一般社団法人企業間情報連携推進コンソーシアム
今田 正実	顧問	富士通Japan株式会社
和泉 雅彦	理事	NTTドコモビジネス株式会社
板谷 敏正	顧問	プロパティデータバンク株式会社
富加見 順	理事	エムシーディースリー株式会社
松本 良平	元理事	株式会社NTTデータ経営研究所
武野 貞久	常務理事	プロパティデータバンク株式会社
松原 真弓	常務理事	富士通株式会社
御幡 徳宏	監事	株式会社N T T データアイ
上記を除く理事・役員		
赤羽 宏治	常務理事	株式会社NTTデータ
成田 正人	常務理事	株式会社NTTデータアイ
平井 真樹	常務理事	日本電気株式会社
青木 君仁	理事	三菱電機デジタルイノベーション株式会社
伊藤 亮平	理事	日鉄ソリューションズ株式会社
大村 俊介	理事	KDDI株式会社
兼本 正之	理事	株式会社TOKAIコミュニケーションズ
河和 茂	理事	日本電子計算株式会社
田中 公義	理事	株式会社NTTデータ経営研究所
福西 克文	理事	株式会社NTTデータビジネスシステムズ
古田 健	理事	NTTPCコミュニケーションズ株式会社
前田 宏二	理事	富士通株式会社
平森 公俊	監事	株式会社フォーカスシステムズ
山根 義之	執行役員	日本電気株式会社

功労表彰会員／法人会員名簿

会社名
創業期からの功労会員
日本電気株式会社
日鉄ソリューションズ株式会社
富士通Japan株式会社
株式会社NTTデータ
富士通株式会社
株式会社寺岡精工
株式会社NTTデータアイ
株式会社ワイスマン
株式会社フォーカスシステムズ
株式会社NTTデータフロンティア
株式会社アルファシステムズ
株式会社NTTデータ経営研究所
日本電子計算株式会社
NECネクサソリューションズ株式会社
コンフィデンシャルサービス株式会社
株式会社セールスフォース・ジャパン
NTTドコモビジネス株式会社
三菱電機デジタルイノベーション株式会社
事業展開期からの功労会員
株式会社ネクスウェイ
株式会社ユー・エス・イー
プロパティデータバンク株式会社
株式会社電話放送局
株式会社石川コンピュータ・センター
アマノビジネスソリューションズ株式会社
エムシーディースリー株式会社
コクヨ株式会社
メシウス株式会社
株式会社ネオレックス
株式会社カナミックネットワーク
株式会社内田洋行
株式会社DNPデジタルソリューションズ
株式会社ヒュアップテクノロジー
株式会社パスコ
株式会社TOKAIコミュニケーションズ
株式会社コンストラクション・イーシー・ドットコム
株式会社いい生活
アルプスシステムインテグレーション株式会社
ジャパンシステム株式会社

永年の功労会員
株式会社ユービーセキュア
スパイ럴株式会社
株式会社 ソリューション・アンド・テクノロジー
株式会社サパナ
株式会社インフォマート
一般社団法人日本テレワーク協会
株式会社NTTデータ関西
一般社団法人認知症高齢者研究所
上記を除く会員(50音順)
株式会社アークライン
一般社団法人ICT CONNECT21
株式会社ICEONE
株式会社アイディーエス
イルジャパン株式会社
株式会社アクアリーフ
AXLBIT株式会社
株式会社アドテクニカ
株式会社アルカディア
いきいきメディアサポート株式会社
弁護士法人A T 法律事務所
株式会社X-Regulation
株式会社NXワンビシーカイブズ
株式会社NTTデータNJK
株式会社NTTデータビジネスシステムズ
NTTPCコミュニケーションズ株式会社
エンカレッジ・テクノロジ株式会社
株式会社大崎コンピュータエンヂニアリング
株式会社Oriental Kingdom Group
カサナレ株式会社
株式会社カスタメディア
株式会社ギークフィード
一般社団法人企業間情報連携推進コンソーシアム
協栄IT&ビジネスサービス株式会社
株式会社クロスパワー
KDDI株式会社
株式会社CYLLENCE
株式会社サウスエージェンシー
株式会社ジーウェイブ
株式会社ジーネクスト
株式会社JCTソリューション
シクラウドジャパン株式会社
株式会社システムディ
一般社団法人重要生活機器連携セキュリティ協議会
新日本コンピュータマネジメント株式会社

新日本コンピュータマネジメント株式会社
株式会社スカイクレスト
Sparticle株式会社
株式会社Shrush
一般財団法人全国地域情報化推進協会
鉄道情報システム株式会社
株式会社ドットエー
TRUST SOFT株式会社
株式会社日建設計
日本インフォメーション株式会社
一般社団法人日本教育情報化振興会
日本ソフト開発株式会社
日本ワムネット株式会社
NewIT株式会社
株式会社ネットウエルシステム
株式会社ネットショップ支援室
株式会社NEUGATE
ノイテックス有限会社
株式会社はてな
株式会社ハレックス
株式会社ハンモック
株式会社ビーアライフ
株式会社B-Story
株式会社ビジュアル・プロセッシング・ジャパン
ぴたデジ株式会社
株式会社ビリーフワークス
株式会社5core
ファイルフォース株式会社
ファインディ株式会社
株式会社ファインデックス
フォームズ株式会社
フリー株式会社
株式会社ブルートーン
株式会社ベクトル
株式会社bestiee
マップソリューション株式会社
株式会社マネーフォワード
合同会社三笠ポリシーアドバイザリ
株式会社ミライト・ワン・システムズ
株式会社メディアミックス
メディカルアイ株式会社
株式会社ユーワベース
リーテックス株式会社
株式会社レイ・イージス・ジャパン

編集後記

2024年(令和6年)11月に弊団体創立25周年を迎えて、『ASPIC25年史』(2026年6月発刊予定)を発刊することになり、その概説版として『ASPICクラウドマガジン第2号 <25周年記念特集>』を「創立25周年記念式典・講演会・意見交換の会」(2025年11月19日 経団連会館)において来場者等関係者に配布することにしました。

具体的には、2025年4月初めにASPIG内に河合会長をトップとする事務局メンバー数名による「25年史編纂プロジェクト」を立ち上げ、企画・編集の委託事業者(株式会社アシヅカ社)にも参画いただき、「25年史検討会議」を、全体構成イメージからスケジュールをもとに、概ね1週間から2週間毎に都合20数回にわたって開催し進めてきました。

編纂に当たって、本編である『ASPIC25年史』は『同15年史』同様個別詳細に記述することにし、本「クラウドマガジン」は極力簡略化し、図表・写真等で読みやすくすることに留意しました。コンテンツは当初文章化を試みましたが、記載内容の重要度による文量の多寡等により、内容確認・修正に時間を要しスケジュール的に難しくなると判断し、途中においてコンテンツを既存の会長講演資料をベースに置き換えるといった大幅な変更を余儀なくされましたが、結果的にはマガジンらしさが出て「ASPIC25の歩み」が一瞥できるものとなりました。

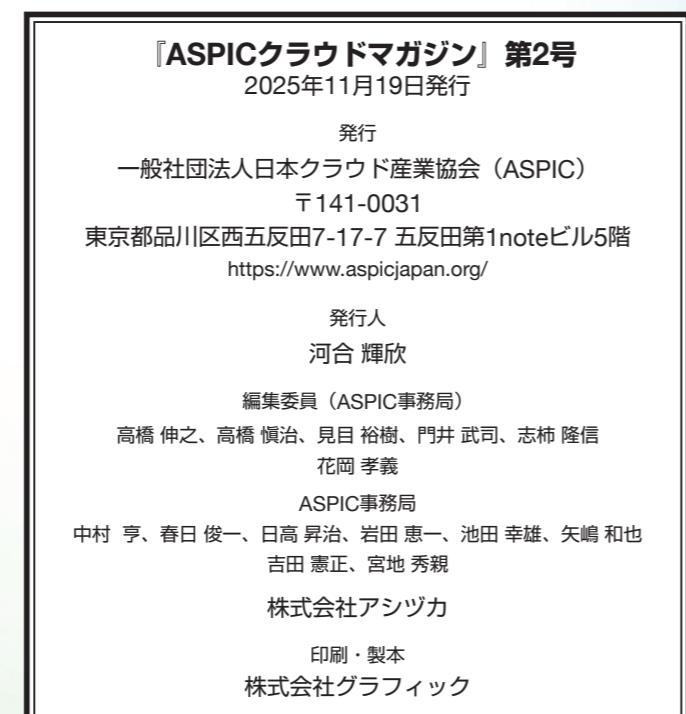
この編纂作業を通して、改めてASPIG25年の足跡・成果の一つ一つが明らかとなり、ASPIGの我が国におけるASPからSaaSへ、更にクラウドからIoTへ、今や爆発的ともいえるAIへと変遷してきた時代を常に先導し、名実ともにわが国を代表するクラウド団体としての存在感を示すことができました。この先2030年へ向けて一層の発展拡大に邁進することを誓い、ここにASPIG関係者並びに国・自治体、大学、関係団体等の皆様のご指導、ご尽力に改めて敬意と謝意を申し上げますと共に引き続きのご指導、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

結びに当たり、小誌がASPIG会員様ならびに関係者様のビジネスに少しでもお役立ていただくと共に忌憚のないご意見・ご提言をいただければ誠に幸甚です。併せて、編集に携わった河合会長、編集委員並びに企画・編集にご尽力頂いた株式会社アシヅカ社の関係者様に心から感謝申し上げます。

執行役員 花岡孝義

CONTENTS

- 01 特集
ASPIG25周年
- 02 はじめに
- 04 ASPIG25年の成果
- 06 ご挨拶
- 11 祝辞
- 22 ASPIG25年のあゆみ
- 24 事業分野別年表
- 26 ビジュアル年表
- 28 ASPIG25年間の「事業概要」
- 41 記念座談会①
- 50 記念座談会②
- 56 理事・役員からの言葉
- 62 功労表彰 理事・役員名簿
功労表彰会員/法人会員名簿
- 64 編集後記
奥付



本誌掲載の記事・写真・イラストなどを無断で複写、複製、転載することは著作権法上の例外を除き、禁じられています。



個人情報保護を“見える化”する新しい信頼の証

ASPIG プライバシー認証サービス

デジタル化の進展により、介護・医療現場をはじめとした多くの中小事業者が日常的に膨大な個人情報を取り扱うようになっています。一方で、サイバー攻撃や情報漏えい事故は後を絶たず、個人情報保護の重要性はこれまで以上に高まっています。

しかし、中小規模の事業者では、人材や予算の不足から個人情報保護に関する体制整備が十分に進んでいない

ケースも多く、個人情報保護法や関連ガイドラインにどこまで・どのように対応すべきかが大きな課題です。

こうした状況に対し、ASPIGはこれまでクラウドサービスの情報開示認定制度や、介護DX推進の支援事業を通じて培ってきたノウハウを活かし、「誰でも取り組める認証制度」として中小事業者を後押しします。

ASPIGプライバシー認証とは

個人情報保護法で定められた最低限の法令遵守項目を、第三者が審査・認証する制度。自己宣言+外部点検を通じて「安心見える化」します。



認証・研修・検定・支援をワンストップで

区分	内容	特徴
認証審査サービス	個人情報保護法遵守を第三者が審査	中小事業者でも取得しやすい価格設定
研修サービス	eラーニング(基礎編・実務編 各20分)	全職員対象/ケーススタディ形式
検定サービス	オンライン試験(50分)	合格者に「合格証」を発行
取得支援サービス	認証申請支援・体制整備支援	専門家によるフォロー

認証取得の流れ



※ 不合格時は修正指導あり/認定ロゴ使用は1年間有効

料金

年間認証料: 9万9千円 (税込)

一般社団法人 日本クラウド産業協会 (ASPIG)

[公式サイト] <https://www.aspic.or.jp>

次年度更新料: 9万9千円 (税込)

[公式メール] pii@aspicjapan.org

お問い合わせ・お申込み



貴社の成長を後押しする ASPIC 入会のご案内

<https://aspicjapan.org/join/>



ASPICとは

一般社団法人日本クラウド産業協会(ASPIC)とは、クラウド企業1,300社以上が加盟する団体です。

1999年の設立以来、総務省と連携して各種ガイドライン・指針の作成や情報開示認定制度の策定など、日本におけるクラウドサービスの普及・促進に取り組んできました。

法人会員年会費

- **35万円**
- **18万円**
- **12万円**

初年度会費割引
キャンペーン中！

- 35万円 → 18万円
- 18万円 → 9万円
- 12万円 → 6万円

(社員50人以下、資本金1億円以下、売上高10億円以下、うち2項目満たす場合)

(上記条件のうち、すべての項目を満たす場合)

法人会員の他、パートナー会員、アワード会員、公共会員、賛助会員、個人会員などの会員種別がございます。詳細はサイトをご覧ください。

ビジネスを強力に推進するASPIC入会特典

1

クラウド研究会で、業界の動向（クラウド技術、政策動向など）を提供！

2

クラウドの最新情報（AI技術、セキュリティ、官公庁情報含む）を随時発信！

3

会員情報交換会で、会員企業とのビジネス連携を推進！

4

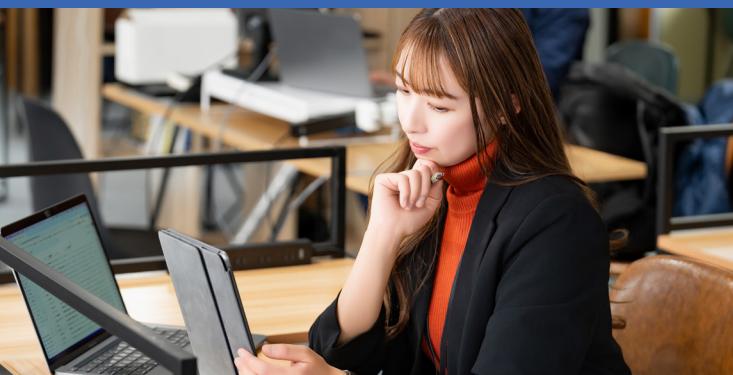
会員紹介・仲介で、自社のサービスを周知！

5

クラウドサービス紹介サイト「アスピック」掲載料無料

6

25周年特典として「情報開示認定」申請料無料



お問い合わせ先

一般社団法人 日本クラウド産業協会 (ASPIC)
東京都品川区西五反田7-17-7 五反田第1noteビル5階
e-mail : office@aspicjapan.org TEL : 03-6662-6591
担当 : 花岡

ASPIC

